



平成18年度

年報 第21号

福島県立博物館

年報発刊に 寄せて



福島県立博物館はいま、確実に変わり始めています。開館から20周年を迎えて、さまざまな試みを手探りでおこないながら、明日のあるべき姿を求めて動いています。たしかに、いくらか外見は古色蒼然としてきた部分はあるとしても、その深いところで、大きな変化の兆しが生まれているのです。内なる意識が変わるとき、外からの眼差しや評価もまた、やわらかく変容してゆくのだということを、痛いほどに感じているところです。

外部の文化施設との提携が少しずつ進められています。平成18年度には、若松城天守閣との本格的な提携のもとに、企画展『徳川将軍家と会津松平家』が共同開催され、2万人近い入館者をあつめて、成功裡に終わりました。それが20年の歳月をかけて、ようやくにして実現した、はじめての外部施設との提携であったことを、記憶に留めておきたいと思います。19年度には、鹿児島県歴史資料センター・黎明館との提携によって、企画展『樹と竹——列島の文化 北から南から』が開催されますし、20年度には、会津地区のいくつかの博物館が連携して、「磐梯山」（仮称）を統一テーマとする特別展示をおこなうための準備が進められています。

文化はいま、避けがたく提携の時代を迎えています。福島県立博物館はそうした動きを推し進めてゆく、いわば扇の要としての役割をになうこととなります。そこに、地域の文化遺産をめぐって、あたらしい開かれた風景が大胆に紡がれてゆくのを、わたしたち自身が目撃することになるはずです。

さて、明日の博物館のあるべき姿を求めて働かねばなりません。県立博物館が地域のなかに、地域に暮らす人びととともにあるために。

福島県立博物館長 赤坂 憲雄

「おめでとう二十歳の博物館」

福島県立博物館は平成18年で開館20周年を迎えました。9月29日に開館20周年を祝う記念行事「おめでとう二十歳の博物館」を開催し、多くの方々が出席されました。講堂にてセレモニーを行った後、翌日から開催された企画展「徳川將軍家と会津松平家」の事前公開と展示解説会が行われました。この企画展は、開館20周年を記念して当館と若松城天守閣との2会場で同時に開催された共同企画展です。最後に、館長と出席者との茶話会「館長と語る会」が催されました。20名ほどの方々が出席され、博物館運営などについて忌憚の無い会話がなされました。博物館での館長と一般県民との話し合いは初めての試みで、出席者からは大いに好評をいただきました。

翌9月30日に、若松城天守閣と博物館で、企画展「徳川將軍家と会津松平家」の開会式（テープカット）が執り行われました。この企画展は最終的に2万人近い入館者をつつめて、成功裡に終わりました。



開館20周年を祝う会



「徳川將軍家と会津松平家」テープカット

「四季のイベント開催」

平成18年度、「四季のイベント」と称して、エントランスホールを使ったイベントを2回催しました。1回目は9月に「日本最古の笛と世界最古の民族楽器」、2回目は12月に「クリスマスコンサートと朗読」でした。エントランスホールを使った無料のイベントは初めての試みで、大入りでたいへん好評でした。これは地域に開かれた親しみやすい博物館を目指すため行われたものです。今後もこのようなイベントを続けていく計画です。



日本最古の笛と世界最古の民族楽器



クリスマスコンサートと朗読

福島県立博物館の使命

福島県立博物館は、昭和61年に県立の総合博物館として開館し、平成18年に開館20周年を迎えました。博物館は、これまで県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、さまざまな活動をしてきました。

近年、社会情勢の変化により、博物館の存在意義の見直しと博物館ニーズへの積極的対応が要請されております。このため、今回、新しい時代の博物館として目指すべき目標を「使命」としてとりまとめました。ついては、社会に対する責務を明確にするとともに、博物館に対してみなさんのご理解を深めていただくため、その内容を公表いたします。

目 標

福島県は、関東・北陸・東北地方の接するところに位置し、美しく豊かな風土のもと、時代を通して文化交流の地として発展し、特徴のある歴史・文化を形成してきました。また、広大な面積をもつ本県は、中通り・浜通り・会津地域に分かれ、それぞれ異なった風土と生活文化をもっています。

福島県立博物館は、こうしたユニークで多様な歴史・文化が生み出した遺産とその背景にある自然に関する資料を収集・保存し、大切に未来へ引き継ぐとともに、研究を通して、資料のもつ価値を明らかにします。そして、収集した資料や研究の成果を世界に向けて発信するため、さまざまな形で公開します。

また、人々が地域の課題を調査・研究することを支援し、地域文化の新しい価値を創造することに寄与するとともに、みなさんが博物館を利用しやすいように、人と人との交流を大切にする楽しい環境を整えます。

これらを基本に、次のような博物館を目指します。

1. ふくしま発見博物館

ふくしまの文化遺産と自然史資料をもとに、ふくしまの歴史・文化そしてそれを育んだ自然に関する情報を提供し、ふくしまの魅力を再発見する場とします。そして、地域独特の文化の価値を共に学び、新たな文化を創りだす手助けをします。

2. 出会いふれあい博物館

楽しい時が学ぶ時です。かた苦しなく、気軽に入れて人と人々が楽しく語り合える博物館を目指します。そのために、居心地がよく、自らが体験でき、楽しさを体感できる空間を演出します。

3. あなたも主役博物館

博物館を利用するみなさんも主役です。博物館はみなさんからの意見・要望を尊重して運営に活かします。また、友の会の会員やボランティアとして博物館の事業に参加することができます。みなさんと共により良い博物館を目指します。

活動の指針

目標を達成するため、次のような機能を充実させます。

【専門機能】

1. 地域の文化遺産の収集と継承

福島県の特徴を現す歴史・文化遺産および自然史資料を系統的に収集し、安全な状態で保存し次世代に伝えます。また、資料情報をデータベースとして整備し活用します。

2. 最新の研究による新たな資料価値の発見

専門的な研究により、収集した資料の価値を明らかにします。また、地域の課題であるテーマを設け調査を行い、その成果を地域文化の発展と創造のために役立てます。

3. 来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援

展示を見るたびに資料の新しい側面を発見できます。新しい資料や研究成果を展示や講座に反

映するとともに、利用者のニーズに応じて、資料についてさらに詳しい情報を準備し提供します。また、未来を担う子供たちにも対応したきめ細やかな学習支援を行います。

【交流機能】

4. 楽しめて出会いのある空間の創出

居心地がよく楽しめ、いろいろなことを体験・体感できる博物館を目指します。また、人と人が出会い、楽しく知的なコミュニケーションのとれる場所を提供します。

5. 博物館事業への住民参加

利用者の意見を積極的に取り入れて、博物館の運営に反映させます。また、友の会会員やボランティアの協力を得ながら博物館の事業を推進します。

6. 博物館情報の発信と公開

博物館の資料や研究成果および運営に関する情報を公開するとともに、展示や講座など館活動の情報を広く県内外に発信するため、積極的な広報活動を行います。

7. 地域ネットワークの拠点

福島県の面積は広大で、多くの学校、社会教育・文化施設、市民団体があります。これら関係機関等とのネットワークを作り、情報交換や共同研究、事業の共同実施を進めます。

8. 新しい観光ニーズへの対応

会津という観光地に立地することを踏まえ、地元の市町村や文化・観光施設と連携、共同し、新しいタイプの観光のニーズに対応できるよう努めます。

【運営機能】

9. 使命の明示と事業の点検

博物館の使命と目標を社会に明示し、オープンな運営を目指します。目標に向かって計画を立て、常に成果を点検し、目標を達成できるように努めます。

10. 人材の育成と機能的な組織

博物館の使命を達成するため、優れた人材を育成し、機能的で効果的な組織運営に努めます。

目 次

I 沿 革	1
II 事業の概要	3
1. 資料収集事業	3
(1) 収集展示委員会	3
(2) 資料調査員会議	3
(3) 受贈・受託	4
(4) 購 入	4
(5) 製 作	5
2. 保存管理事業	5
(1) 資料の収蔵	5
(2) 登録・整理	6
(3) 貸 出	6
(4) 保 存	7
3. 展示企画事業	8
(1) 常設展示	8
(2) 企画展示	10
(3) その他の展示	28
(4) 移動展	31
(5) 展示解説	33
4. 調査研究事業	35
(1) 展示資料調査研究	35
(2) その他の調査研究事業	36
(3) 職員の研究活動	37
5. 教育普及事業	40
(1) 講座・講演会	40
(2) 体験学習室	45
(3) 学校教育との連携	48
(4) 生涯学習・研究支援	51
6. 広報公聴活動および出版事業	52
(1) 広報活動	52
(2) 公聴活動	55
(3) 出版事業	55
7. 博物館友の会活動への支援	56
(1) 友の会活動への支援	56
(2) 友の会の活動状況	56

Ⅲ	管理運営	58
	1. 組織・職員	58
	2. 予算	59
	3. 委員会の開催	60
	(1) 運営協議会	60
Ⅳ	利用状況	61
	1. 入館者統計	61
	(1) 平成18年度入館者統計	61
	(2) 入館者の推移	62
	(3) 企画展入館者統計	64
	2. 出版物販売	66
Ⅴ	法規	68
	福島県立博物館条例	68
	福島県立博物館運営協議会条例	69
	福島県立博物館条例施行規則	69
	福島県立博物館組織規則	72
	福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則	73
	福島県立博物館収集展示委員会設置要綱	73
	福島県立博物館資料所在調査要領	73
	福島県立博物館資料調査員設置要綱	74
	福島県立博物館友の会規約	74
Ⅵ	施設の概要	76
	1. 建築概要	76
	2. 設備	76
	3. 平面図・各室一覧	77
	4. 施設の修理・改築	79
Ⅶ	利用案内	80

I 沿 革

《開館にいたるまで》

- 昭和52年 5月13日 文化を考える県民会議の設置
6～8月 文化に関する県民意識調査の実施
- 昭和53年 1月24日 文化を考える県民会議から県の文化振興について知事に報告
7月26日 第1回文化振興会議開催
- 昭和54年 2月2日 文化振興会議から文化振興の具体策について知事に報告
3月19日 文化施設等整備基金条例制定
4月1日 福島県教育庁文化課内に文化施設班を設置
12月24日 福島県美術品等取得基金条例制定
- 昭和55年 4月1日 福島県教育庁文化課内文化施設整備室を設置
- 昭和56年 1月26日 県立博物館基本構想検討委員会から建設基本構想の報告を受ける
2月3日 県立博物館の建設地を「会津若松市」と決定
- 昭和57年 2月18日 県立博物館収集展示委員会より「県立博物館総合展示及び部門展示計画」の報告
- 昭和58年 7月30日 建築実施設計を委託（株式会社佐藤武夫設計事務所）
展示実施設計を委託（株式会社トータルメディア開発研究所）
- 昭和59年 6月8日 建設工事契約（株清水建設仙台支店・株会津土建・株秋山建設による共同企業体）
7月7日 県立博物館建築工事着工（～61.3.25）
7月10日 展示工事委託契約（株トータルメディア開発研究所・株乃村工藝社・株丹青社による共同企業体）
7月13日 展示工事着工（～61.9.10）
- 昭和61年 3月25日 県立博物館条例 同施行規則 同運営協議会条例及び組織規則制定（61.4.1施行）
3月31日 県立博物館公所開設にともない文化施設整備室を廃止
4月1日 県立博物館公所開設 高橋富雄が初代館長として就任 運営協議会委員10名委嘱
10月1日 展示解説員19名採用
10月18日 県立博物館開館
-

《開館してから》

- 昭和61年11月28日 登録博物館の指定（第10号）
- 昭和63年 8月21日 入館者50万人達成
- 平成元年 3月10日 友の会設立
- 平成2年10月7日 入館者100万人達成
- 平成4年 3月31日 日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等の指定（文部大臣）
- 平成5年 4月1日 展示解説員22名となる
- 平成7年 5月5日 入館者200万人達成
- 平成8年10月5日 開館10周年記念式典を催す
- 平成12年10月15日 入館者300万人達成
- 平成13年 1月25日 博物館リニューアル事業に伴い、新基本構想検討委員会により「福島県立博物館新基本構想」が策定される
- 平成14年 3月25日 博物館リニューアルの新基本構想に基づいて「展示替え基本計画」を策定
- 平成15年 3月24日 博物館条例第4条改正により小・中学生及び高校生の普通観覧料を無料とする
- 平成15年 3月28日 高橋富雄館長「金曜講座」第393回目開催

3月31日 高橋富雄館長退任
4月1日 赤坂憲雄が県立博物館長に就任
前館長高橋富雄に県立博物館名誉館長の称号授与
平成16年4月8日 赤坂憲雄館長・学芸員「木曜の広場」第1回開催
平成17年5月6日 入館者350万人達成
平成18年9月29日 博物館開館20周年を祝う会「おめでとう20歳の博物館」開催

II 事業の概要

1. 資料収集事業

(1) 収集展示委員会

(ア) 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

収集展示委員会委員名簿

氏名	役職名	専門	備考
岡田 茂弘	国立歴史民俗博物館名誉教授	考古	委員長
丸井佳寿子	元福島県立医科大学教授	近世史	委員
有賀 祥隆	元東北大学文学部教授	仏教絵画	同
入間田宣夫	元東北大学東北アジア研究センター教授	中世史	同
上原 昭一	元実践女子大学文学部教授	彫刻絵画	同
大迫 徳行	福島県民俗学会会長	民俗	同
岡田 清一	東北福祉大学教授	中世史	同
斎藤 常正	元東北大学理学部教授	古生物	同
平川 南	国立歴史民俗博物館館長	古代史	同
菅田 宏	元福島県文化センター歴史資料課課長	近世・近代史	同
目黒 吉明	福島県考古学会顧問	考古	同
渡邊 一雄	福島県考古学会顧問	考古	同

(イ) 会議

平成19年2月2日

議題

- ①平成18年度事業の実施概要について
- ②平成19年度事業計画について
- ③平成19年度の展示の概要について
- ④資料購入について
- ⑤「福島県立博物館の使命」について
- ⑥その他

(2) 資料調査員会議

(ア) 資料調査員

博物館資料の収集等に関する県内の詳細な情報を得るため14名の調査員を委嘱している。

資料調査員名簿

担当地域	氏名	所属
県北	菊池 利雄	自営業
県北	相原 秀郎	元郡山市職員
県北	吉田 義	元県立福島北高等学校教諭
県中	藤井 康	三春町歴史民俗資料館
県中	小豆畑 毅	石川町史編纂室
県南	佐川 庄司	白河市歴史民俗資料館
県南	根本 信孝	元白河市史編纂室
会津	野沢 謙治	郡山女子大学短期大学部
会津	小澤 弘道	喜多方市職員

会津	大竹 亮作	元県立若松女子高等学校教諭
南会津	樋口 弘一	自営業
相双	水久保克英	南相馬市立博物館
いわき	高橋 紀信	元県立磐城高等学校教諭
いわき	小野 佳秀	いわき市暮らしの伝承郷

(イ) 会議

第1回 平成18年6月9日

議題

- ①平成18年度事業概要について
- ②企画展・収藏品展・移動博物館について
- ③展示資料学術調査研究について
- ④その他

第2回 平成18年12月7日

議題

- ①平成18年度上半期事業実施概要について
- ②企画展・収藏品展・移動博物館について
- ③展示資料学術調査研究について
- ④その他



資料調査員全体会議



資料調査員分野別会議

(ウ) 調査員実績

- ①各分野別カード枚数
考古分野：23枚 歴史分野：42枚 自然分野：31枚 合計96枚
- ②提供資料
吉田 義調査員：磐城沖開発プラットフォーム構造図、2万分の1地形図「若松町」(明治23年陸軍作成)のコピー
- ③資料調査同行
樋口弘一調査員：南会津町下郷資料調査3件

(3) 受贈・受託

(ア) 歴史・美術資料

- ①受贈
 - 枅 個人
 - 青年学校教練科教科書 個人
 - 会津毎朝新聞 他 個人
 - 写真週報 他 個人
 - 福島県立会津中学校生徒心得 個人
 - 棹秤 他 個人
 - 秩父宮勢津子妃写真 個人
 - 会津城修補絵図 個人
 - 往診箱 個人
 - 陣笠 個人
 - 白河古事考 個人
 - 防災紙芝居 他 福島県消防学校
 - 蓄音機鑑札証 個人
 - 松に鶴図沈金盆 他 個人
 - 水墨山水図 他 個人
- ②受託
 - 鉄線蒔絵手箱・化粧道具 個人
 - 伝来資料一括 土津神社
 - 秋月胤永書 個人
 - 萱野権兵衛宛松平容保書状 他 個人
 - 葦名氏判物 個人
 - 会津藩領内地区図 他 喜多方市教育委員会
 - 盆踊り漆絵盃 個人
 - 垂欧堂田善筆 仙人囲碁図 他 個人
 - 加藤遠澤筆 達磨図 個人
 - 小荒井豊山筆 富士三保図屏風 他 個人
 - 佐竹永海筆 四季山水図 他 個人
 - 白銅三鈷杵 恵日寺
 - 銅像聖観音菩薩立像 羽黒山湯上神社
 - 銅像聖観音菩薩立像 他 福聚寺
 - 黒塗松竹梅漆絵四段丸重箱 他 個人
 - 西寺目代印 個人
 - 安藤遠雪筆 四季花鳥図屏風 他 個人
 - 朝鮮出兵軍船図屏風 他 個人
 - 黒塗四ツ椀 他 個人

- 絵画・刀装類 個人
- 遠藤香村筆 寿老人山水図 個人
- 遠藤香村筆 十六橋図 個人

(イ) 民俗資料

- ①受贈
 - あばれ地蔵 個人
 - 綿繰り機のネジ(歯車)の型 個人
 - 棹秤 他 個人
 - 信玄袋 他 個人
 - 箱膳 他 個人
 - 振袖 他 個人
 - お櫃 個人

(ウ) 考古資料

- ①受贈
 - 石鏃 他 個人

(4) 購入

(ア) 美術資料

- 佐竹永海筆 山水図屏風 六曲一双
- 佐竹永海筆 四季山水図 四幅対
- 佐竹永海筆 蒼松白鶴図
- 佐竹永海筆 恵比寿図
- 佐竹永海筆 大黒天図
- 高荒芳洲筆 高砂図 三幅対
- 遠藤香村筆 高砂図 三幅対
- 高橋家所蔵津田得民関連資料

(イ) 考古資料

- 田村市船引町北鹿又出土考古資料一式

(ウ) 自然資料

- 魚類化石等 137点

(エ) 図書資料

- ①一般図書
 - 考古分野：100冊 歴史分野：137冊 美術分野：93冊 民俗分野：69冊 自然分野：246冊 保存分野：28冊 その他：210冊 合計883冊

②定期刊行物

定期刊行物リスト

No.	雑誌名	分野
1	ナショナルジオグラフィック	共通
2	信濃	共通
3	ミュゼ	共通
4	史林	共通
5	月刊文化財	共通
6	たくさんのふしぎ	共通
7	ニュートン	共通
8	考古学研究	考古
9	考古学雑誌	考古
10	古代文化	考古
11	文化財発掘出土情報	考古

No.	雑誌名	分野
12	考古学ジャーナル	考古
13	季刊考古学	考古
14	宗教研究	民俗
15	日本民俗学	民俗
16	ヒストリア	歴史
17	史学雑誌	歴史
18	歴史評論	歴史
19	地方史研究	歴史
20	日本史研究	歴史
21	日本歴史	歴史
22	歴史学研究	歴史
23	仏教芸術	美術
24	日本の美術	美術
25	芸術新潮	美術
26	国華	美術

No.	雑誌名	分野
27	第四紀研究	自然
28	日経サイエンス	自然
29	科学	自然
30	海洋	自然
31	地球	自然
32	Journal of the Foraminiferal Research	自然
33	化学	保存科学
34	文化財の虫菌害	保存科学

(5) 製作

(ア) 映像資料

- ①奥会津の野鍛冶－鍋鋳づくり－（長編25分 短編7分）
- ②奥会津の元山と番匠（長編83分 短編5分）

2. 保存管理事業

(1) 資料の収蔵

(ア) 博物館資料

収集資料数

(平成19年3月31日現在)

分野	数量	備考
考古	18,064	土器・石器・金属器ほか
民俗	12,217	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴史	20,151	書籍・文書資料ほか
美術	5,155	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	45,258	化石・岩石・鉱物ほか
合計	100,845	

収蔵指定文化財（寄託資料を含む）

No.	指定種類	名称
1	国指定重要文化財（工芸品）	椿彫木彩漆笈 1背
2	国指定重要文化財（絵画）	絹本著色阿弥陀二十五菩薩来迎図 1幅
3	国指定重要文化財（工芸品）	銅鉢 2口
4	国指定重要文化財（工芸品）	刺繍阿弥陀名号掛幅 1幅
5	県指定重要文化財（工芸品）	刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅 1幅
6	国指定重要文化財（工芸品）	白銅三鈷杵 1点
7	県指定重要文化財（工芸品）	銅鉢 1口
8	県指定重要文化財（工芸品）	青磁牡丹唐草文大瓶 1口
9	県指定重要文化財（絵画）	絹本著色松平楽翁像 1幅
10	県指定重要文化財（絵画）	七里ヶ浜遠望図 1面
11	県指定重要文化財（絵画）	絹本著色達磨図 1幅
12	県指定重要文化財（絵画）	絹本墨画著色寒山図・絹本墨画著色拾得図 2幅
13	県指定重要文化財（絵画）	絹本著色名体不離阿弥陀画像 1幅
14	県指定重要文化財（絵画）	絹本著色熊野曼陀羅図 1幅
15	県指定重要文化財（絵画）	絹本著色普賢菩薩像 1幅
16	県指定重要文化財（彫刻）	木造地藏菩薩坐像 1軀
17	県指定重要文化財（彫刻）	銅造聖観音菩薩立像（羽黒山湯上神社） 1軀
18	県指定重要文化財（彫刻）	銅造聖観音菩薩立像（福聚寺） 1軀

No	指 定 種 類	名 称
19	県指定重要文化財（考古資料）	福島信夫山出土品 一括
20	県指定重要文化財（考古資料）	金銅製双魚袋金具 2枚
21	県指定重要文化財（考古資料）	原山一号墳出土埴輪 一括
22	県指定重要文化財（考古資料）	梁川城本丸跡出土品 一括
23	県指定重要文化財（考古資料）	常世原田遺跡出土品 一括
24	県指定重要文化財（考古資料）	田村山古墳出土品 一括
25	県指定重要文化財（考古資料）	流麿寺跡出土金銀象嵌鉄剣 1口
26	県指定重要文化財（歴史資料）	陸奥国会津城絵図 1鋪
27	県指定重要文化財（歴史資料）	絹本著色恵日寺絵図 1幅
28	県指定重要文化財（典籍）	家世実紀 277冊
29	県指定重要文化財（書跡）	紙本墨書猪苗代兼載書八代集秀逸 1巻
30	県指定重要文化財（書跡）	相馬家系図 1巻
31	県指定重要文化財（古文書）	塔寺八幡宮長帳断簡 9紙
32	県指定重要文化財（古文書）	築田家文書 一括
33	県指定重要有形民俗文化財	上行合人形 366点
34	県指定天然記念物	パレオパラドキシア化石梁川標本 1体

(イ) 図書および映像資料

① 収蔵図書数（平成19年3月31日現在）

考古分野：16,230冊 民俗分野：3,328冊
 歴史分野：6,566冊 美術分野：2,479冊
 自然分野：13,612冊 保存分野：1,170冊
 その他：42,731冊 合計：86,116冊

② 収蔵映像資料数（平成19年3月31日現在） 981本

年度は、博物館資料の登録作業の他、データのバックアップ、システムのアップデートなどのメンテナンス作業を実施した。

(イ) データベースへの入力

コンピュータを用い、博物館資料を次のとおりデータベースに入力した。

データ入力数（平成19年3月31日現在）

分野	データ入力 (平成18年度)	データ入力 (累計)
考 古	178	9,450
民 俗	657	10,805
歴 史	842	27,000
美 術	7	5,113
自 然	1,683	18,681
合 計	3,367	71,049

(2) 登録・整理

(ア) 収蔵管理システムの運用

平成14年に、資料管理のためのデータベースソフトを新たに開発、コンピュータネットワークを構築し、サーバ・クライアント方式で資料の登録・管理を実施している。平成18

(3) 貸 出

(ア) 博物館資料

貸出資料

資 料 名	貸 出 先	期 間	展 覧 会 名
榎影木彩漆笈・家世実紀・大塚山古墳出土品・築田家文書等	若松城天守閣郷土博物館	3月21日～5月31日	新・会津若松市の指定文化財展
蒲生氏郷画像・蒲生氏郷書状	若松城天守閣郷土博物館	5月12日～7月14日	蒲生氏郷展
めさめ日記	南相馬市博物館	6月8日～9月3日	野馬追たんけん隊
虫かご・藁人形・会津歌農書	栃木県立博物館	6月20日～9月30日	人と虫と共に生きる小さな隣人
信夫山出土品・古四王神社山伏図絵馬・八槻都々古別神社録等	東北歴史博物館・秋田県立博物館	6月24日～11月30日	熊野信仰と東北～名宝でたどる祈りの歴史～
体験用具（甲冑・水干・打ち掛け等）	財団法人郡山市文化・学び振興公社	7月16日～8月12日	第12回市内遺跡発掘調査成果展
浦上玉堂関係資料	岡山県立美術館・千葉市美術館	9月15日～12月27日	浦上玉堂展
原山1号墳出土土器埴輪（レプリカ）	岩手県立博物館	8月8日～11月30日	四角い土俵とチカラヒト～盛岡藩の相撲～
雪村筆鳥々島図・加藤遠澤筆維摩図等	南相馬市博物館	9月21日～12月15日	相馬の画人堀池雲岳をめぐる世界
報知新聞奥羽御巡幸図会福島県下桑野村開墾地図	福島県歴史資料館	10月4日～12月9日	福島県の誕生～明治巡幸と三県合併～
跡見塚古墳群出土玉類	須賀川市立博物館	10月5日～12月15日	石に聞く～須賀川地方の石の文化財～
大滝雨山筆「峡谷真趣」・白雲筆「窮玄掌覧」	福島県立美術館	10月24日～12月20日	風景読本～絵の旅・東北～

資 料 名	貸 出 先	期 間	展 覧 会 名
道中案内	須賀川市歴史民俗資料館	10月29日～12月10日	絵地図の世界一村・街道・城
麻生弥筆「野営の露」等	会津若松市立会津図書館	12月19日～1月中旬	白虎隊関連図書コーナーに展示
若松城下絵図屏風	若松城天守閣郷土博物館	3月21日～5月30日	会津の絵師大須賀清光が描く景観図

(イ) 写真資料

写真資料貸出掲載許可件数・合計枚数（延べ枚数） 70件286枚

(4) 保 存

(ア) 防虫作業等

①保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫（一時、第1～第6収蔵庫）、エントランスホール、体験学習室、講堂、事務室、会議室、研究室、図書室、空調機械室など主要なスペースについて昆虫、空中浮遊菌、空中浮遊塵埃数、室内塵埃中昆虫、気相（酸・アルカリ度、ホルムアルデヒド、酢酸、アンモニア）及び温度、湿度、照度等について調査を行った。

調査は季節による生息害虫等の変化を確認するため、6月22日～7月14日、11月7日～

11月30日の2回にわたり実施した。

②燻蒸庫による燻蒸

第1回（6月15日）～第5回（3月28日）まで、新収蔵資料および企画展出品資料を中心に1,342件の燻蒸をした。）～第5回（2月10日）まで、新収蔵資料および企画展出品資料を中心に約540件の燻蒸を行った。

③空調機械室の防・殺虫作業

保存環境調査により、2階空調機械室においてジンサンシバンムシが多数捕獲されたため9月28日に薬剤による防・殺虫作業を行った。

(イ) 保存処理作業

金属製遺物

勿来金冠塚出土鉄製遺物

衣崎地内出土鉄製遺物

高見町A遺跡出土鉄製遺物

3. 展示企画事業

(1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々のくらしを軸に時系列に沿って展示してい

る。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間のテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。

(ア) 展示テーマと展示資料数

テーマ別展示資料数

大テーマ	中テーマ	標本	情報	計	大テーマ	中テーマ	標本	情報	計
A 原 始	A-1 福島最古の人間	37	16	53	E 近 ・ 現 代	E-1 戊辰戦争	28	11	39
	2 氷河時代の生活	66	3	69		2 自由民権運動	27	19	46
	3 最終氷期後半の環境	15	2	17		3 福島県の成立	36	8	44
	4 環境の変化と生業	215	8	223		4 安積開拓事業	5	15	20
	5 縄文のムラ	158	14	172		5 庶民の生活	29	16	45
	6 縄文人	3	4	7		6 日本の花形産業	37	17	54
	7 信仰と墓地	64	13	77		7 15年戦争下の生活	45	10	55
	8 稲作の開始	97	6	103		8 戦後の社会	54	5	59
	9 再葬の墓	12	14	26		9 変わりゆく社会	0	4	4
	小計	667	80	747		小計	261	105	366
B 古 代	B-1 会津大塚山古墳	175	5	180	F 自然と人間	F-1 福島盆地と平野	27	7	34
	2 原山1号墳の主	26	1	27		2 福島釜山	71	14	85
	3 群集する古墳	48	6	54		3 福島火山と湖	13	7	20
	4 ムラのくらし	217	7	224		4 福島河川	11	20	31
	5 陸奥国の成立	42	23	65		小計	122	48	170
	6 公民の生活	135	3	138	民俗 福子 島の 世界	1 七歳まではカミのうち	114	14	128
	7 在地の仏教	8	2	10		2 遊びをせんとや生まれけむ	134	16	150
	小計	651	47	698		3 小さき者の声	15	11	26
C 中 世	C-1 阿津賀志山の合戦	1	5	6	小計	263	41	304	
	2 神仏習合の世界	48	1	49	自然	1 基盤形成の時代	193	24	217
	3 好嶋庄の村むら	5	2	7		2 海の時代	126	9	135
	4 南党と北党	21	3	24		3 山脈形成の時代	53	11	64
	5 国人一揆	4	3	7		4 段丘形成の時代	63	9	72
	6 戦国の群雄	27	4	31		小計	435	53	488
	小計	106	18	124	考古	(a 旧石器・縄文・弥生)	166	1	167
D 近 世	D-1 奥羽仕置と諸藩の成立	15	2	17		(b 古墳・奈良・平安)	160	0	160
	2 学問と文化	26	2	28		(c 中世・近世)	20	0	20
	3 庶民の信仰	62	0	62		(d 近・現代)	14	0	14
	4 会津農書の世界	58	2	60	小計	360	1	361	
	5 町のにぎわい	34	8	42	歴史美術	テーマ展示	29	0	29
	6 山国の神と人	51	3	54		小計	29	0	29
	7 産業の発達	25	2	27	その他	ビデオ・ブース	1	32	33
	8 海のなりわい	29	1	30		ホール・ロビー	2	1	3
	9 ゆれうごく封建社会	27	11	38		小計	3	33	36
小計	327	31	358		総合展示計	2,134	329	2,463	
					部門展示計	1,087	95	1,182	
					合計	3,221	424	3,645	
					総計〔総合・部門・導入展等〕	3,224	457	3,681	

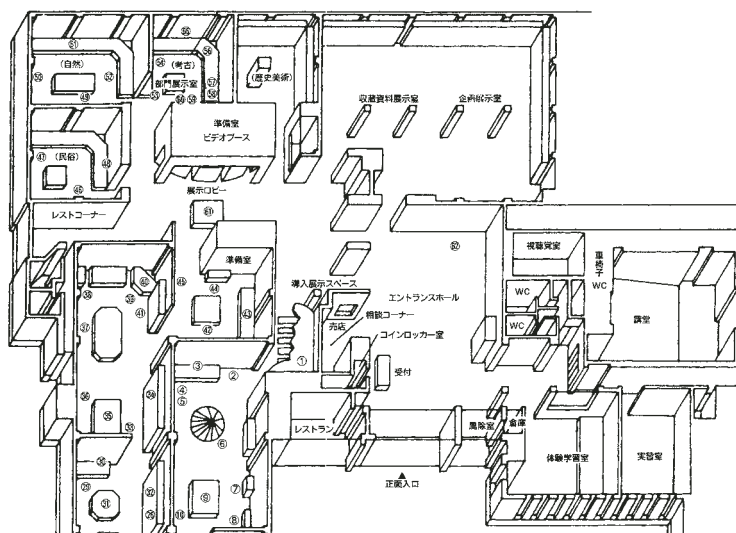
展示資料中の借用資料数 (平成19年 3月31日現在)

区分	大テーマ	標本資料	情報資料	合計	借用資料(内数)
総合展示	原始	667	80	747	193
	古代	651	47	698	356
	中世	106	18	124	10
	近世	327	31	358	144
	近・現代	261	105	366	120
	自然と人間	122	48	170	45
部門展示	民俗	263	41	304	20
	自然	435	53	488	35
	考古	360	1	361	160
	歴史・美術(テーマ展示)	29	0	29	0
	ロビー他	3	33	36	0
総計		3,224	457	3,681	1,083

(イ) 歴史美術テーマ展示

部門展示の「歴史・美術」の展示室において、

福島県立博物館の展示構成



《総合展示》

- ① 清戸迫横穴壁画
- ② 原始
- ③ 福島最古の人間
- ④ 氷河時代の生活
- ⑤ 最終氷期後半の環境
- ⑥ 環境の変化と生業
- ⑦ 縄文のムラ
- ⑧ 縄文人
- ⑨ 信仰と墓地
- ⑩ 稲作の開始
- ⑪ 再葬の墓
- 古代
- ⑫ 会津大塚山古墳
- ⑬ 原山1号墳の主
- ⑭ 群集する古墳
- ⑮ ムラの暮らし
- ⑯ 陸奥国の成立
- ⑰ 公民の生活
- ⑱ 在地の仏教
- 中世
- ⑲ 阿津賀志山の合戦
- ⑳ 神仏習合の世界
- ㉑ 好嶋庄の村むら
- ㉒ 南党と北党
- ㉓ 国人一揆
- ㉔ 戦国の群雄

- 近世
- ㉕ 奥羽仕置と藩藩の成立
- ㉖ 学問と文化
- ㉗ 庶民の信仰
- ㉘ 会津農書の世界
- ㉙ 町のにぎわい
- ㉚ 山國の神と人
- ㉛ 産業の発達
- ㉜ 海のなりわい
- ㉝ ゆれうごく封建社会
- 近・現代
- ㉞ 戊辰戦争
- ㉟ 自由民権運動
- ㊱ 福島県の成立
- ㊲ 安積開拓事業
- ㊳ 庶民の生活
- ㊴ 日本の花形産業
- ㊵ 15年戦争下の生活
- ㊶ 戦後の社会
- ㊷ 変わりゆく社会
- 自然と人間
- ㊸ 福島県の盆地と平野
- ㊹ 福島県の火山
- ㊺ 福島県の火山と湖
- ㊻ 福島県の河川

《部門展示》

- 民俗(ふくしまの子供の世界)
- ㊼ 七歳まではカミのうち
- ㊽ 遊びをせんや生まれけむ
- ㊾ 小さき者の声
- 自然(県土の形成)
- ㊿ 基礎形成の時代
- ① 海の時代
- ② 山脈形成の時代
- ③ 段丘形成の時代
- 考古(容器と利器の変遷)
- ④ 旧石器時代
- ⑤ 縄文時代
- ⑥ 弥生時代
- ⑦ 古墳時代
- ⑧ 奈良・平安時代
- ⑨ 中世
- ⑩ 近世
- ⑪ 近・現代
- 歴史美術(福島美術)
- ロビー・エントランスホール
- ⑫ 白水阿弥陀堂模型
- ⑬ 二本松提燈祭竹田町太鼓台

次のとおり定期的にテーマを設けて展示替えを行い、本県の美術資料を中心に展示した。

① 収蔵品による福島美術

会期：平成18年 4月1日(土)～5月14日(日)

② 画題で見る美術—祭りと行事

会期：5月16日(火)～6月25日(日)

③ 墨の表現—水墨画いろいろ

会期：6月28日(水)～8月6日(日)

④ 花を描く・花を飾る—花をめぐる絵画と工芸

会期：8月8日(火)～9月24日(日)

⑤ 暮らしの器—鯨鉢から大皿まで

会期：11月21日(火)～平成19年 1月21日(日)

⑥ 祝いの布—布団・風呂敷・刺子袴纏

会期：2月6日(火)～3月25日(日)

(ウ) 展示替え

総合展示室の古代～近世において展示品の一部入れ替えを行った。また、市町村合併に伴い、展示パネルやキャプションの市町村名を変更した。

(2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然の各分野が企画し、館のオリジナルなテーマに基づいた展示を、企画展示室において、2ヶ月程度の期間で年に数回開催している。平成18年度は3回の企画展を実施した。

(ア) 春の企画展

「馬と人との年代記 ー大陸から日本、そして福島へー」

1. 会期 平成18年4月22日(土)～6月11日(日)
2. 入館者数 3,119人
3. 担当学芸員 考古分野：横須賀倫達・木本元治・藤原妃敏・森 幸彦・高橋 満
4. 趣 旨

馬はごく最近まで人々にとって身近な存在であり、福島県は野馬追や三春駒など伝統的な馬文化が特に色濃く残っている土地でもある。では、馬はいつから人に飼い慣らされ、どのようにして様々な方面で活躍し始めたのだろうか。さらには日本には元々馬がいたのだろうか。

今回の展覧会では、主に遺跡から掘り出された考古遺物によって、馬がいつ、どのようにして日本、そしてふくしまへ入り、利用され始めたのかを探った。なぜ人々が馬を利用するようになり、長い年月を共に暮らし、そして周りから消えていったのかという馬と人との歴史を辿ることは、我々に現代の世相を深く考える機会を与えてくれると考えたからである。

5. 展示構成

第1編【大陸編：紀元前～】

ー馬と人との出会いー

馬と人のかかわりはいつから、どこで始まったのか。日本列島に馬が伝わる以前、古代のオリエント・北方ユーラシア・中国における馬利用の証拠を追った。

第1章 古代オリエントとその周辺

第2章 中央ユーラシア～中国北方の遊牧騎馬民族

第3章 古代中国と馬

第2編【渡来編：5世紀】

ーそして、日本へー

卑弥呼の時代に馬はいなかった。馬が日本列島へ伝わった直後の5世紀代の資料を中心に、馬が列島内でどのように広まり、利用されたのかを探った。

第1章 馬を飼う、馬を葬る

第2章 馬文化、北へ

第3章 大陸とのつながり

第3編【威信編：6・7世紀】

ー権威の象徴ー

馬が普及した古墳時代後半、各地の豪族は競うようにして黄金色の馬具を手に入れた。この時代、黄金色の馬具やそれを身につけた馬は、豪族の権威を象徴する存在だったことが分かる。

第1章 黄金の馬

第2章 はにわ馬の世界

第3章 ふくしまと古墳の馬

第4編【拡大編：8～16世紀】

ー交通・信仰、そして戦争ー

神社に馬を奉納する絵馬、交通の手段として現代のスポーツに名を残す駅伝、そして戦争の手段としての騎馬隊。馬の存在が当たり前となった奈良時代以降の馬文化は濃密に近現代へとつながっている。

第1章 馬がつなぐ通信網【交通・通信・運搬】

第2章 絵馬と祈り

第3章 兵器

特別編【追憶編：～現代】

ー身近にみる馬ー

相馬野馬追、三春駒、福島競馬場など、現代に伝わる、現代に残る馬文化を振り返り、身近な馬の存在を感じる。

第1章 馬で耕す・運ぶ

第2章 馬駆ける神事【相馬野馬追】

第3章 セピア色の記憶【写真の中の馬】

第4章 スピード&スリル【福島競馬場】

6. 関連事業

①あなたも馬博士にー記念講演会ー「馬がウマれて日本にくるまで」

講師 穴沢味光氏

日時 5月14日(日) 午後1時30分

②馬頭琴コンサートー記念公演会ー「白い馬」

演奏者 バヤラト&サローラ

日時 4月29日(土) 午後1時30分

③博物館友の会協賛イベントー馬と猿との年代記ー

第1部 公演「猿まわし一座がやってきた!!」

出演 周防猿まわしの会

日時 6月8日(木) 午後1時

第2部 対談「馬をめぐるフォークロア」

講師 赤坂憲雄・佐々木長生

日時 6月8日(木) 午後2時

④古代の馬を知ろう！ー学芸員の「やさしい馬講座」ー

第1回 「日本書紀と馬の考古学」

講師 横須賀倫達

日時 5月7日(日) 午後1時30分
 第2回 「馬鹿」の語源～古代中国の馬と
 故事成語～

講師 木本元治

日時 6月4日(日) 午後1時30分

⑤探検！馬の世界—学芸員と巡る展示ツアー—
 (展示解説会)

4月29日(土) 5月7日(日) 5月14日(日)

6月4日(日) 6月11日(日)

7. 成果・課題

成果

①イベント入場者の多数来場

②馬業界団体の注目

③HP広報の工夫と充実

課題

①入館者数の低迷、学校団体、鶴ヶ城への観
 光客の取り込みを

②目玉となる資料の不足

③担当者の一方向的な視点による企画

④テーマの訴求力の弱さ、ターゲットとする
 層の曖昧さ



「馬と人との年代記」リーフレット



馬頭琴コンサート「白い馬」



「馬と人との年代記」展示解説会

企画展「馬と人との年代記」展示資料一覧

No.	テ	マ	展	示	資	料	名	点	数	出	土	遺	跡	名	所	蔵	者	指	定													
1	プロ	ロー	グ	馬	頭	琴		1							当	館																
2				絵	本	「ス	ー	ホ	の	白	い	馬	」		当	館																
3	第 1 編 大 陸 編 「馬 と 人 と の 出 会 い」	1 古	代	オ	リ	エン	ト	と	その	周	辺	フ	ァ	ィ	ア	ン	ス	馬	形	飾	り											
3																																
4																																
5																																
6																																
7																																
8																																
9																																
10																																
11																																
12																																
13																																

No.	テ	マ	展示資料名	点数	出土遺跡名	所 蔵 者	指定
14			ナイフ	1		福島県個人蔵	
15			円形飾り金具	28		福島県個人蔵	
16			小型帯金具	6		福島県個人蔵	
17			鈴付竿頭金具	1		福島県個人蔵	
18		3 古代中国と馬	書	1		福島県個人蔵	
19			鑣	3		福島県個人蔵	
20			らん鈴	2		福島県個人蔵	
21			銜	2		福島県個人蔵	
22			馬面	2		福島県個人蔵	
23			書・轄	12		福島県個人蔵	
24			騎馬俑	1		（財）馬事文化財団 馬の博物館	
25			神人車馬画像鏡	1		（財）馬事文化財団 馬の博物館	
26			蓋弓帽	2		福島県個人蔵	
27			ミニチュア馬具 轡	3		福島県個人蔵	
28			ミニチュア馬具 馬鐸	4		福島県個人蔵	
29			ミニチュア馬具 馬面	1		福島県個人蔵	
30			ミニチュア馬具 鏡	1 双		福島県個人蔵	
31		1 馬を飼う、馬を葬る	鑣轡	1	物見塚古墳	飯田市教育委員会	
32			鑣轡	1	高岡 4 号墳	飯田市教育委員会	
33			馬の埋葬全身骨	1	宮垣外遺跡10号土坑	飯田市教育委員会	
34			ドサンコ剥製	1		当館	
35			鉄製馬具一式	一式	宮垣外遺跡64号土坑	飯田市教育委員会	
36			木芯鉄板張輪鏡	1	新井原12号墳	飯田市教育委員会	
37			金銅製轡・杏葉	2	新井原 4 号土坑	飯田市教育委員会	
38		2 馬文化、北へ	馬形土製品	2	天王壇古墳	本宮町教育委員会	県重文
39			木製輪鏡	1	藤田新田遺跡	東北歴史博物館	
40			馬鐸	1	吉ノ内 1 号墳	角田市郷土資料館	
41			楕円形鏡板付き轡	1	吉ノ内 1 号墳	角田市郷土資料館	
42			はにわ馬	一括	原山1号墳	当館	県重文
43		3 大陸とのつながり	馬形帯鉤	3		（財）馬事文化財団 馬の博物館	
44			馬形飾り付き冠（複製）	1	三味塚古墳	茨城県立歴史館	
45			馬冑、馬甲小札（複製）	3	大谷古墳	（財）馬事文化財団 馬の博物館	
46			鞍磯金具（複製）	一括	大谷古墳	（財）馬事文化財団 馬の博物館	
47			f 字形鏡板付き轡（複製）	一括	大谷古墳	（財）馬事文化財団 馬の博物館	
48			雲珠（複製）	3	大谷古墳	（財）馬事文化財団 馬の博物館	
49			剣菱形杏葉（複製）	3	大谷古墳	（財）馬事文化財団 馬の博物館	
50			壺鏡（複製）	1 双	大谷古墳	（財）馬事文化財団 馬の博物館	
51			馬鈴（複製）	1	大谷古墳	（財）馬事文化財団 馬の博物館	
52			馬冑	1	埼玉将軍山古墳	埼玉県立さきたま資料館	
53			蛇行状鉄器付馬形埴輪と馬子埴輪	2	酒巻14号墳	行田市教育委員会	県重文
54		1 黄金の馬	f 字形鏡板付き轡	1	三味塚古墳	茨城県立歴史館	県重文
55			帯飾り金具	一括	三味塚古墳	茨城県立歴史館	県重文
56			鉢状辻金具	3	西大塚古墳	日立市立郷土博物館	
57			剣菱形杏葉	3	西大塚古墳	日立市立郷土博物館	
58			ハート形鏡板・杏葉	5	金鈴塚古墳	木更津市立金鈴塚遺物保存館	国重文
59			花形鏡板・杏葉	3	金鈴塚古墳	木更津市立金鈴塚遺物保存館	国重文
60			鞍金具	1 組	金鈴塚古墳	木更津市立金鈴塚遺物保存館	国重文
61			8脚雲珠	1	金鈴塚古墳	木更津市立金鈴塚遺物保存館	国重文
62			板状・鉢状辻金具	13	金鈴塚古墳	木更津市立金鈴塚遺物保存館	国重文
63			巴形飾り金具	2	金鈴塚古墳	木更津市立金鈴塚遺物保存館	国重文
64			花形飾り金具	17	金鈴塚古墳	木更津市立金鈴塚遺物保存館	国重文
65			長方形帯飾り金具	18	金鈴塚古墳	木更津市立金鈴塚遺物保存館	国重文
66			馬鐸	3	金鈴塚古墳	木更津市立金鈴塚遺物保存館	国重文

No.	テ	マ	展示資料名	点数	出土遺跡名	所 蔵 者	指定
67			鞍金具（複製）	1組	藤ノ木古墳	（財）馬事文化財団 馬の博物館	
68			辻金具	4	風返稲荷山古墳	かすみがうら市郷土資料館	
69			8脚雲珠	1	風返稲荷山古墳	かすみがうら市郷土資料館	
70			棘葉形杏葉	2	風返稲荷山古墳	かすみがうら市郷土資料館	
71			鞍金具	1組	風返稲荷山古墳	かすみがうら市郷土資料館	
72			楕円形鏡板付き轡	一括	風返稲荷山古墳	かすみがうら市郷土資料館	
73			鉢状辻金具	3	風返稲荷山古墳	かすみがうら市郷土資料館	
74			楕円形杏葉	3	風返稲荷山古墳	かすみがうら市郷土資料館	
75			8脚雲珠	1	風返稲荷山古墳	かすみがうら市郷土資料館	
76			鞍磯金具	1	風返稲荷山古墳	かすみがうら市郷土資料館	
77			鞍	2	風返稲荷山古墳	かすみがうら市郷土資料館	
78			花形杏葉	1	下石橋愛宕塚古墳	栃木県立博物館	
79			花形鏡板付き轡	1組	下石橋愛宕塚古墳	栃木県立博物館	
80			鞍	2	下石橋愛宕塚古墳	栃木県立博物館	
81			環状雲珠	5	下石橋愛宕塚古墳	栃木県立博物館	
82			長方形帯飾り金具	6	下石橋愛宕塚古墳	栃木県立博物館	
83			鉢状辻金具	2	下石橋愛宕塚古墳	栃木県立博物館	
84			透彫金具	1	下石橋愛宕塚古墳	栃木県立博物館	
85			8脚雲珠	1	下石橋愛宕塚古墳	栃木県立博物館	
86		2はにわ馬の世界	馬形埴輪	1	白藤V4号墳	前橋市教育委員会	
87			馬形埴輪	1	白藤P6号墳	前橋市教育委員会	
88			馬形埴輪	1	北大竹1号墳	行田市教育委員会	
89			馬形埴輪	1	馬渡埴輪製作址	ひたちなか市埋蔵文化財調査センター	
90			馬形埴輪	1	丸塚古墳	相馬市教育委員会	市重文
91			馬形埴輪	2	経塚1号墳	会津坂下町教育委員会	
92			馬形埴輪	1	鉾の宮2号墳	ひたちなか市埋蔵文化財調査センター	
93			馬形埴輪	1	酒巻14号墳	行田市教育委員会	県重文
94			馬子埴輪	1	酒巻14号墳	行田市教育委員会	県重文
95		3ふくしまと古墳の馬	鉄製楕円形鏡板付き轡	1組	高見町12号墳	南相馬市教育委員会	
96			馬鐸	2	真野小池8号墳	慶應義塾大学文学部	
97			鐘形杏葉	5	中田横穴	いわき市教育委員会	県重文
98			雲珠・鉢状辻金具	10	中田横穴	いわき市教育委員会	県重文
99			三角錐形壺鏡	1組	中田横穴	いわき市教育委員会	県重文
100			鉸具	7	中田横穴	いわき市教育委員会	県重文
101			馬鈴	3	中田横穴	いわき市教育委員会	県重文
102			鞍縁金具	1組	中田横穴	いわき市教育委員会	県重文
103			帯飾り金具	13	中田横穴	いわき市教育委員会	県重文
104			辻金具	一括	八幡2号横穴	いわき市教育委員会	県重文
105			楕円形鏡板	一括	八幡2号横穴	いわき市教育委員会	県重文
106			轡	一括	八幡2号横穴	いわき市教育委員会	県重文
95			輪鏡	一括	八幡9号横穴	いわき市教育委員会	県重文
96			貝製飾り	4	八幡23号横穴	いわき市教育委員会	県重文
97			轡	一括	八幡23号横穴	いわき市教育委員会	県重文
110			馬鐸	一括	八幡25号横穴	いわき市教育委員会	県重文
111			素環鏡板付き轡	1	千代鶴11号横穴	いわき市教育委員会	
112			錫装板状辻金具	2	勿来金冠塚古墳	当館	
113			錫装帯飾り金具	3	勿来金冠塚古墳	当館	
114			壺鏡	1	名古谷新2号横穴	榎葉町教育委員会	
115			素環鏡板付き轡	一括	羽山1号横穴	南相馬市博物館	
116			板状辻金具	3	羽山1号横穴	南相馬市博物館	
117			歩揺付き雲珠	1	相馬市坪田	東京国立博物館	
118			馬鈴	1	相馬市坪田	東京国立博物館	
119			馬鈴	8	高松1号墳	相馬高等学校	

No.	テ	マ	展示資料名	点数	出土遺跡名	所 蔵 者	指定
120			素環鏡板付き轡	3	観音山1・2号横穴	白河市教育委員会	
121			板状辻金具	1	観音山1号横穴	白河市教育委員会	
122			貝製飾り	5	観音山1・2号横穴	白河市教育委員会	
123			帯飾り金具、鉸具、鞍金具	10	観音山1・3号横穴	白河市教育委員会	
124			鉢状辻金具	2	観音山4号横穴	白河市教育委員会	
125			棘葉形鏡板付き轡	1	笹内37号横穴	福島県教育委員会	
126			棘葉形杏葉	4	笹内37号横穴	福島県教育委員会	
127			八脚雲珠	1	笹内37号横穴	福島県教育委員会	
128			鉢状辻金具	4	笹内37・38号横穴	福島県教育委員会	
129			長方形帯飾り金具	15	笹内37号横穴	福島県教育委員会	
130			双脚鉸	1	笹内37号横穴	福島県教育委員会	
131			鞍金具、鉸具	一括	笹内37号横穴	福島県教育委員会	
132			復原馬具と復原馬	1		財団法人福島県埋蔵文化財センター白河館	
133			サラブレッド全身模型	1		日本中央競馬会福島競馬場	
134			現代競走馬用馬具	一式		日本中央競馬会福島競馬場	
135			素環鏡板付き轡	1	山ノ神1号墳	石川町教育委員会	
136			素環鏡板付き轡	1	才合地山1号横穴	須賀川市歴史民俗資料館	
137			鏡	1	才合地山1号横穴	須賀川市歴史民俗資料館	
138			花形鏡板・杏葉	一括	跡見塚古墳群	須賀川市教育委員会	
139			鉢状雲珠・辻金具	一括	跡見塚古墳群	須賀川市教育委員会	
140			鉢状辻金具	1	岩瀬郡	東京国立博物館	
141			素環鏡板付き轡	1	上ノ平1号墳	福島市教育委員会	
142		1 馬がつなぐ通信網	木簡「失馬文」	1	市川橋遺跡	多賀城市教育委員会	
143			木簡「馬券」	1	市川橋遺跡	多賀城市教育委員会	
144			木簡「餞馬収文」(復元)	1	山王遺跡	多賀城市教育委員会	
145			木簡「買上替馬」	1	荒田目条里遺跡	いわき市教育委員会	
146			墨書土器「駅家」	1	関和久遺跡	福島県教育委員会	県重文
147			墨書土器「厩酒杯」	1	大船迫A遺跡	福島県教育委員会	
148			刻書土器「馬」	1	妙音寺遺跡	郡山市教育委員会	
149			鉄製壺鏡(複製)	1	市川橋遺跡	多賀城市教育委員会	
150			木製壺鏡	1	大猿田遺跡	福島県教育委員会	
151			鉄製素環轡	1	荒田目条里遺跡	いわき市教育委員会	
152			駅鈴(複製)	1		当館	
153		2 絵馬と祈り	絵馬	3	荒田目条里遺跡	いわき市教育委員会	
154			絵馬	1	市川橋遺跡	多賀城市教育委員会	
155			木製馬形	2	御山千軒遺跡	福島県教育委員会	
156			木製馬形	2	山王遺跡	多賀城市教育委員会	
157			土製馬形	2	岸遺跡	いわき市教育委員会	
158			木製馬形	1	市川橋遺跡	多賀城市教育委員会	
159			馬頭骨(複製)	1	岸遺跡	いわき市教育委員会	
160			曲物底板	1	荒井猫田遺跡	郡山市教育委員会	
161			杏葉轡	1	信夫山月山堂廃寺	当館	県重文
162		3 兵器	木簡「馬庭」	1	市川橋遺跡	多賀城市教育委員会	
163			集積馬骨	1	山王遺跡	東北歴史博物館	
164			杏葉轡	1	新田遺跡	多賀城市教育委員会	
169	第5編	1 暮らしの中の馬	荷鞍	1		奥会津地方歴史民俗資料館	国重文
170			アブ除け	1		奥会津地方歴史民俗資料館	国重文
171			立籠	1		奥会津地方歴史民俗資料館	国重文
172			口籠	1		奥会津地方歴史民俗資料館	国重文
173			幕	1		奥会津地方歴史民俗資料館	国重文
174			馬の杓	2		奥会津地方歴史民俗資料館	国重文
175			絵馬	1		奥会津地方歴史民俗資料館	国重文
176			つなぎ石	1		奥会津地方歴史民俗資料館	国重文

No.	テ	マ	展 示 資 料 名	点数	出土遺跡名	所 蔵 者	指定
177			伯楽の巻物	1		柳林新氏	
178			絵馬	1		只見町教育委員会	国重文
179			馬鍬	1		只見町教育委員会	国重文
180			代掻シト	1		只見町教育委員会	国重文
181			ハモ	1		只見町教育委員会	国重文
182			タカバエ	1		只見町教育委員会	国重文
183			鼻棹	1		只見町教育委員会	国重文
184			猿引駒版木	1		赤羽正春氏	
185			河童引牛版木	1		赤羽正春氏	
186		2馬駆ける神事	野馬追図の屏風	1双		南相馬市博物館	
187			下り駒旗	1		相馬小高神社	
188			黒地日の丸大纏	1		相馬小高神社	
189		4スピード&スリル	優勝レイ「福島記念」	1		日本中央競馬会福島競馬場	
190			優勝カップ	1		日本中央競馬会福島競馬場	
191			古馬券・入場券・勝馬投票権	6		日本中央競馬会福島競馬場	
192			名勝負パネル	1		日本中央競馬会福島競馬場	
193			ミスターシービーの蹄鉄	1		福島市パイプのけむり	
194	エピローグ		カブ号F型	1		Honda Collection Hall	
195			F1エンジンMP4 / 4	1		Honda Collection Hall	
196	特設コーナー展示		ディープイパガ外全身模型(期間限定)	1		全国競馬・畜産振興会	
197			馬のおもちゃ各種	一括		当館学芸員	

(イ) 夏の企画展

「布の声をきく」

1. 会期 平成18年7月22日(土)～9月3日(日)
2. 入館者数 2,938人
3. 担当学芸員 民俗分野：榎 陽介・佐々木 長生
4. 趣 旨

多様な素材により布を織り上げ、その布で衣服を縫い上げる。このような素材から衣服までの流れの中で、これまで中心には取り上げられることが少なかった「縫う」ことと、「縫う人」にも焦点をあてた展覧会。

そのために、資料的にはとくに貴重だというわけではないものに「エピソード」をからみつけて展示するという手法を採用した。物語の中に資料をちりばめるとどうなるかという試みであった。

また、福島県内にある裁縫を描いた絵馬を可能な限り集めてみた。明治以降のものがほとんどである。裁縫＝女性というセットが学校教育などとの関係で強調されていくという流れの中に位置づけられる資料であろう。

衣服の展示資料としては、素材や技法の地域的な特徴が表れやすい、仕事着を中心として展示した。

5. 展示構成

①布を作る

ここでは、糸紡ぎや糸を績む作業、機織が対象となる。もちろん木綿だけではなく、カ

ラムシや麻、ゼンマイ、そしてときにはシナや羊毛なども素材として用いられてきた。それらの栽培や繊維を取り出す工程、そして、糸へと績む作業。その作業の中にどのような道具が用いられ、技術が使われていたのかに注目する。

②布を裁つ・布を縫う

「裁縫」が中心となる。これらの作業の多くは女性の手になるもので、裁縫所で奉納した絵馬などに描かれているのも女性の世界であった。そうした、性により区分された労働世界という点に留意しつつ、資料を紹介する。裁縫に使うこまごまとした、しかし愛着ある小さな道具の数々、そして、それぞれの女性の生活の記憶がしみこんだ、記憶の貯蔵庫とでもいえる布たちを展示した。

③布をまとう

ここでは縫い上げられた衣服、とくに仕事着に焦点を当てた。県内の資料及び、県外の資料を借用展示して比較し、県内の仕事着の特色を明らかにした。

6. 関連行事

①記念講演会「北の衣の文化」

講師 青森中央学院大学講師 田中忠三郎氏
日時 7月29日(日) 午後1時30分

②体験講座「からむしの糸作り」

講師 昭和村織姫
日置 睦氏、内田悦子氏
日時 8月21日(月) 午前11時

③展示解説会

7月29日(土) 8月6日(日) 8月14日(月)

9月3日(日)

7. 課題

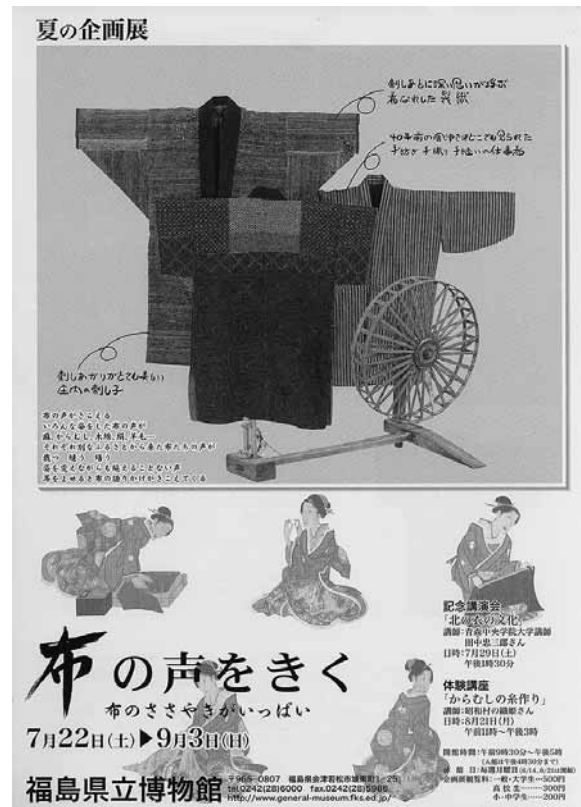
①モノと物語を絡めるという着想をよりインパクトのある方法で見せるという試みには課題が残された。

②資料の解説にも流れを作り出すような配慮が不足していた。

③地味なものだけでも興味深いはずの資料について、マスコミ、とくにテレビ局の関心を引く方法や回路というものの整備が遅れていた。



「布の声をきく」展示風景



「布の声をきく」リーフレット



「布の声をきく」展示風景

企画展「布の声をきく」展示資料一覧

テーマ	項目	資料名	数	備考	借用先	
布の誕生	布を作る道具	裂き織り反物	1		青森県立郷土館	
		紡錘車	2	鈎つき	青森県立郷土館	
		テシロ	1式		青森県立郷土館	
		オボケ	1	竹製	田中忠三郎	
		オボケ	2	イタヤ製	田中忠三郎	
		ヨッツオ	2		只見町教育委員会	
		ヒシギ	1		奥会津地方歴史民俗資料館	
		苧引き舟	3		館蔵	
		苧引き板	2		館蔵	
		苧引き鉄	2		館蔵	
		苧桶	3		館蔵	
		地機	1		館蔵	
		綿繰り機	1		館蔵	
		カード	1組		館蔵	
		紡毛機	2		館蔵	
		布の原料と布	ぜんまい布	1		当館寄託
			ぜんまい綿	1		会津民俗館
	ジョバ台		1	布を上で叩くための台	青森県立郷土館	
	ジョバ槌		1	ジョバ台の上で布を叩く用具	青森県立郷土館	
	シナ皮		1		館蔵	
	麻反物		4		田中忠三郎	
	麻反物		1	アサギ	田中忠三郎	
	麻反物		1	紺	田中忠三郎	
	シナ袋		1		田中忠三郎	
	はさみ		1	緬羊の毛刈り	館蔵	
	毛糸		3	手紡ぎ	館蔵	
	苧引きした野からむし		3		佐藤敏子	
	苧績み用具		1式		佐藤敏子	
	布の記録 縞帳		縞帳	1		小泉勝信
		縞帳	1		館蔵	
		縞柄見本	1	会津機業	館蔵	
		会津木綿商標	5	会津機業	館蔵	
	布を裁つ・布を縫う	裁縫の用具	オボケ	2	イタヤ製	田中忠三郎
			オボケ	1	アケビ製	田中忠三郎
			裁縫箱	3		田中忠三郎
			小型ミシン	1		田中忠三郎
			服飾関係雑誌	5		神奈川大学日本常民文化研究所
			裁縫書	5		神奈川大学日本常民文化研究所
			服飾関係雑誌	8		香月洋一郎
			ふくすけミシンポスター	1		香月洋一郎
		布の記憶	ジバン	3	吉田貞子氏旧蔵	館蔵
			くけ台	2	吉田貞子氏旧蔵	館蔵
			くけ台	2	坂内ハル氏旧蔵	館蔵
掛け寝巻き			3	坂内ハル氏旧蔵	館蔵	
信玄袋			1	坂内ハル氏旧蔵	館蔵	
弁当袋			1	坂内ハル氏旧蔵	館蔵	
こたつ掛け			1	坂内ハル氏旧蔵	館蔵	
雑巾			10	坂内ハル氏旧蔵	館蔵	

テーマ	項目	資料名	数	備考	借用先	
		くけ台	1		中川啓子	
		緋野良着	2		中川啓子	
		格子野良着	1		中川啓子	
		袷着物	1		中川啓子	
		綿入着物	2	佐藤政子氏旧蔵 子供用	館蔵	
		子供着物	1	佐藤政子氏旧蔵	館蔵	
		着物	2		小山サダ子	
		浴衣	1		小山サダ子	
		刺繍見本	1		小山サダ子	
		針箱	1	小松昭氏旧蔵	館蔵	
		風呂敷	3	小松昭氏旧蔵	館蔵	
		信玄袋	1	小松昭氏旧蔵	館蔵	
		こたつ掛け掛け	2		館蔵	
		麻反物	2		星八重子	
		刺繍見本	3		西村弘子	
		部分縫い	2		西村弘子	
		タンス引き出しの布	1式		神奈川大学日本常民文化研究所	
		雑巾	13		神奈川大学日本常民文化研究所	
		裁縫を描いた絵馬	絵馬	1	明治7年	大蔵寺(福島市)
	絵馬		1	明治9年	大蔵寺(福島市)	
	絵馬		1	明治15年	大蔵寺(福島市)	
	絵馬 塔寺小学校裁縫科		1	明治20年	惠隆寺(会津坂下町)	
	絵馬		1	弘化4年	曾根田天神社(福島市)	
	絵馬		1	明治40年	曾根田天神社(福島市)	
	絵馬		1	明治12年	古町観音堂(伊達市)	
	絵馬		1	明治28年	称名寺(伊達市)	
	絵馬		1	明治5年	鹿島神社(国見町)	
	絵馬		1	明治29年	観音寺(国見町)	
	刺繍絵馬		1	明治25年 汽車の絵	観音寺(国見町)	
	絵馬		1	明治36年	宮ノ下八幡神社(会津若松市)	
	絵馬		1	明治34年	千手院(郡山市湖南町)	
	絵馬		1	明治17年	薬師堂(二本松市)	
	裁縫の雛型		裁縫雛型	36		桑折町立伊達崎小学校
			裁縫雛型	12		中村とし
			裁縫雛型	2	五十嵐久美子氏旧蔵	館蔵
		裁縫雛型	12		郡山女子大学短期大学部	
	布をまとう	福島・会津の仕事着	ジバン	1	猪苗代町烏帽子	会津民俗館
			ジバン	1	猪苗代町相名目	会津民俗館
			カセギジバン	1	北塩原村樟	会津民俗館
カセギジバン			1	北塩原村樟	会津民俗館	
ハンテン			1	会津若松市東山町二幣地	会津民俗館	
カセギハンテン			1	郡山市湖南町赤津	会津民俗館	
テッポウジバン			1	昭和村大芦	会津民俗館	
テッポウジバン			1	昭和村喰丸	会津民俗館	
テッポウジバン			1	昭和村大芦	会津民俗館	
ヌノドンブク			1	昭和村大芦	会津民俗館	
アサジバン			1	会津若松市東山町二幣地	会津民俗館	
サシコハンコ			1	大越町山口	会津民俗館	
サシコハンコ			1	大越町山口	会津民俗館	

テーマ	項目	資料名	数	備考	借用先
		サシコハンコ	1	大越町山口	会津民俗館
		サシコワンバリ	1	猪苗代町島田	会津民俗館
		サシコジバン	1	南郷村和泉田	会津民俗館
		サシコワンバリ	1	会津若松市東山町二幣地	会津民俗館
		サシコワンバリ	1	会津若松市東山町中湯川	会津民俗館
		ボロテッポウ	1	会津若松市東山町二幣地	会津民俗館
		ボロサシコ	1	猪苗代町西久保	会津民俗館
		ボロサシコ	1	猪苗代町西久保	会津民俗館
		サシコワンバリ	1	猪苗代町西久保	会津民俗館
		ボロサシコ	1	昭和村喰丸	会津民俗館
		ボロサシコ	1	只見町布沢	会津民俗館
		ボロサシコ	1	館岩村湯ノ花	会津民俗館
		ボロサシコ	1	只見町布沢	会津民俗館
		ボロサシコ	1	南郷村和泉田	会津民俗館
		ボロジュバン	1	南郷村鶉巣	会津民俗館
		カタビラ	1	南郷村木伏	会津民俗館
		カタビラ	1	会津若松市東山町二幣地	会津民俗館
		カタビラ	1	会津若松市東山町中湯川	会津民俗館
		カタビラ	1	会津若松市東山町中湯川	会津民俗館
		カタビラ	1	会津若松市東山町川溪	会津民俗館
		モンペ	1	猪苗代町三城潟	会津民俗館
		サルッパカマ	1	猪苗代町三城潟	会津民俗館
		サッパカマ	1	北塩原村樟	会津民俗館
		ボロサシコサッパカマ	1	会津若松市大戸町高川	会津民俗館
		ブッコミ	1	会津若松市東山町二幣地	会津民俗館
		サッパカマ	1	会津若松市東山町一ノ渡戸	会津民俗館
		サシコサッパカマ	1	会津若松市東山町一ノ渡戸	会津民俗館
		サッパカマ	1	会津若松市東山町中湯川	会津民俗館
		サッパカマ	1	会津若松市東山町川溪	会津民俗館
		サッパカマ	1	昭和村大芦	会津民俗館
		ハンモモヒキ	1	会津若松市東山町二幣地	会津民俗館
		モモヒキ	1	南郷村和泉田	会津民俗館
		モモヒキ	1	昭和村大芦	会津民俗館
		モモヒキ	1	昭和村大芦	会津民俗館
		マエカケ	1	熱塩加納村中吉田	会津民俗館
		ドモッコ	1	郡山市湖南町三代	会津民俗館
		マチユキテッコウ	1	会津若松市一箕町滝沢	会津民俗館
		テッコウ	1	昭和村大芦	会津民俗館
		シブガラミ	1	昭和村喰丸	会津民俗館
		ツマガケ	1	昭和村喰丸	会津民俗館
		サシコタビ	1	昭和村中津川	会津民俗館
		サシコタビ	1	昭和村喰丸	会津民俗館
		サシコタビ	1	南郷村和泉田	会津民俗館
		ヤマオビ	1	猪苗代町三城潟	会津民俗館
		ニゾウ	1	布付き	会津民俗館
		ヨギ	1	喜多方市慶徳	会津民俗館
		ヨギ	1	喜多方市熱塩加納町	会津民俗館
		ヨギ	2	西会津町野沢	会津民俗館
		サシコシタギ	1	郡山市湖南町	橋本勝雄

テーマ	項目	資料名	数	備考	借用先
		田腰巻	1	郡山市湖南町	橋本勝雄
		サシコジバン	1	郡山市湖南町	橋本勝雄
		サシコ	2	郡山市湖南町	橋本勝雄
		ジバン	1	郡山市湖南町	橋本勝雄
		ヤマジバン	1	郡山市湖南町	橋本勝雄
		モンペ	1	郡山市湖南町	橋本勝雄
		サルッパカマ	2	郡山市湖南町	橋本勝雄
		サシハダッコ	2		只見町教育委員会
		サシコジバン	1		只見町教育委員会
		サシコハンテン	2		只見町教育委員会
		マイワイ	1		当館寄託
		マイワイ	1		館蔵
		新潟・東蒲原地方の仕事着	モッコサシコ	2	新潟県上川村面倉
	モッコサシコ		1	新潟県上川村面倉	会津民俗館
	モッコサシコ		1	新潟県上川村黒谷	会津民俗館
	ゼンマイモッコ		1	新潟県上川村黒谷	会津民俗館
	モッコサシコ		1	新潟県上川村東岐	会津民俗館
	フジオリジバン		1	新潟県山北町越沢	会津民俗館
	山形・庄内地方の仕事着	大泉四季農業図	1		致道博物館
		シナ布袖無し	1		致道博物館
		ソデナシ刺子	3		当館寄託
		サシコジバン	2		当館寄託
		ハンコタンナ	2		致道博物館
		ソデナシ	1		当館寄託
		サキオリ	1		当館寄託
		サシコ	3		当館寄託
		サシコジバン	2		当館寄託
	青森・津軽、南部地方の仕事着	ボロ布	1式		田中忠三郎
		ドジャ（夜着）	6		田中忠三郎
		敷物	1		田中忠三郎
		長着	1		田中忠三郎
		樹皮製着物	1		青森県立郷土館
		ツツレ	1		青森県立郷土館
		サクリ	2		青森県立郷土館
		コギン刺し着物	2		当館寄託
		コギン刺し着物の身頃	2		当館寄託
		マカナイ	2		当館寄託
		タツツケ	1		当館寄託
		奥民図彙	1		田中忠三郎
	仕事着の雛型	仕事着の雛型	94		神奈川大学日本常民文化研究所
	信仰の布	オリジリ	1		奥会津地方歴史民俗資料館
オカミサマ		1		児山由彦	
オシンメイサマ		4組		会津民俗館	
流し雛の紙雛		4		館蔵	

(ウ) 秋の企画展

「徳川将軍家と会津松平家 ー葵の絆ー」

1. 会期 平成18年9月30日(土)～11月5日(日)
2. 入館者数 19,483人
3. 担当学芸員 歴史分野：高橋 充・阿部綾子 美術分野：川延安直・小林めぐみ
4. 趣 旨

江戸幕府を樹立して泰平の世を生み出した徳川将軍家。3代将軍家光の弟である保科正之を藩祖とする会津松平家。本展の趣旨は、両家ゆかりの資料を会津の地において一堂に展示・公開することであった。

本展では、財団法人徳川記念財団の格別の御協力をいただき、歴代将軍の肖像や自筆の書画、夫人（御台所）の調度品、伝来した古文書（宗家文書）など、財団の所蔵する貴重な資料を展示した。同財団の資料が、東北地方で本格的に展示・公開されるのは、今回が初めてである。これらに加えて、歴代藩主の肖像や拝領の刀剣類など会津松平家ゆかりの資料を展示した。関係資料を通して、江戸時代を通じた両家のむすびつきをたどった。

本展は、当館の開館20周年を記念する事業であり、はじめて会津若松市および会津若松市観光公社との共催で、若松城天守閣と二会場で同時に開催した。他館との合同企画展は初めての試みであった。

主 催：福島県立博物館・会津若松市・

財団法人会津若松市観光公社

特別協力：財団法人徳川記念財団

5. 展示構成

博物館会場は「葵の絆」をテーマに、江戸時代初めから近代にいたるまで、両家の人々と、そのつながりに焦点をあてる内容、天守閣会場は「激動の幕末」をテーマに、とくに注目の集まる幕末の時期に絞って、その政局を詳細に紹介する内容とした。

①博物館会場 「葵の絆」

プロローグ

江戸幕府の成立～初代将軍徳川家康

1 泰平の世

～秀忠・家光・家綱と保科正之

2 歴代将軍の姿

～綱吉から慶喜まで

3 ふたりの御台所

～天璋院と和宮

4 会津藩と歴代藩主

～正経から容保まで

5 激動の幕末

～宗家文書にみる絆

エピローグ

その後の徳川宗家と会津松平家

②天守閣会場 「激動の幕末」

討幕運動 公武合体 京都守護職 御宸翰

6. 関連行事

①開会式（テープカット）

日時 9月30日(土)天守閣会場（午前8時30分）・博物館会場（午前9時30分）

②記念講演会1 「天下泰平の終焉ー悲劇の会津松平家と徳川将軍家ー」

講師 徳川記念財団理事長 徳川恒孝氏

日時 10月1日(日) 午後1時30分

③記念講演会2 「戊辰戦争前後の会津」

講師 中央大学教授 松尾正人氏

日時 10月8日(日) 午後1時30分

④展示解説会

9月30日(土) 11月4日(土) 11月5日(日)

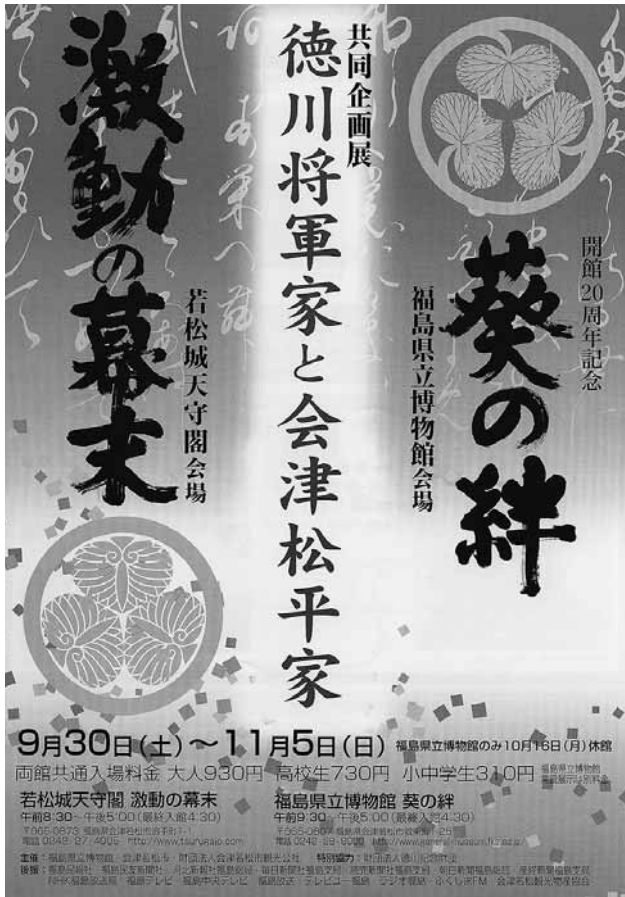
7. 成果・課題

①二会場共通の観覧券を発行し好評を得た。入館者増の要因のひとつになった。

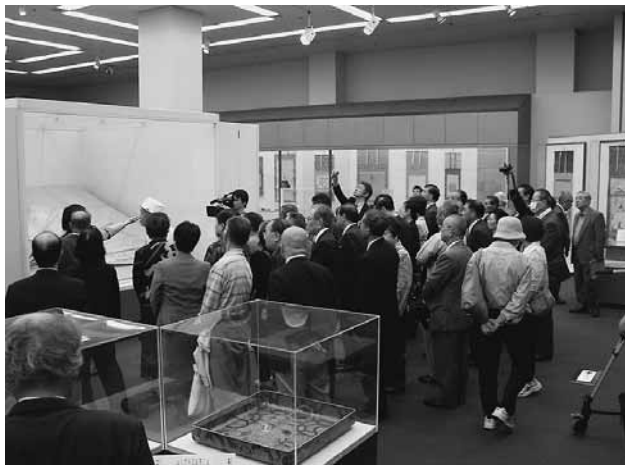
②事前記者発表、各種説明会への参加、地元新聞での関連記事連載、市内小中学校へのふくしま教育週間周知など、各方面で広報活動を強化したことが、入館者増につながった。

③共通図録の販売数が多く、展示の詳しい内容に興味関心をもった来館者が多かった。

④共同開催には、とくに広報の面において多くのメリットがあったが、初めての試みであったため準備段階での協議や調整などに時間がかかり不備もあった。会期中には従来は見られなかった種類の苦情や要望もあった。今後、同じような形態で企画展を開催する場合には改善してゆきたい。



「徳川将軍家と会津松平家」リーフレット



「徳川将軍家と会津松平家」展示解説会

企画展「徳川将軍家と会津松平家」展示資料一覧

No	指定	資料名	員数	時代	法	量	所蔵	会場
1		東照大権現像 天海賛 四代木村了琢筆	1幅	江戸時代 17世紀	97.4×41.6		徳川記念財団	県博
2		徳川家康像 狩野山雪筆	1幅	江戸時代 17世紀	97.0×40.5		日光東照宮	県博
3		会津攻伐軍令状	1通	慶長5年(1600) 7月7日	45.5×117.0		徳川記念財団	県博
4		徳川家康書状 細川忠興・黒田長政・藤堂高虎宛	1通	[慶長5年(1600)] 8月16日	24.5×56.0		徳川記念財団	県博
5		征夷大将軍宣旨	1通	慶長8年(1603) 2月12日	37.8×60.0		日光東照宮	県博
6		天曹地府祭都状	1通	慶長8年(1603) 2月	37.0×50.0		徳川記念財団	県博
7		金馬馬標	1本	江戸時代 17世紀	全長221.0		久能山東照宮博物館	県博
8	○	太刀 銘 来国光 附 黒臘色塗打刀拵	1口	刀身 鎌倉時代 14世紀 拵 桃山-江戸時代 17世紀	刃長67.8 反2.1 拵総長91.6		徳川記念財団/東京国立博物館寄託	県博
9		徳川家康自筆消息 徳川秀忠夫人浅井氏宛	1卷	慶長元年(1596) 閏7月下旬	31.5×140.0		徳川記念財団	県博
10		伝徳川家康筆 黄初平図	1幅	江戸時代 17世紀	36.0×46.5		徳川記念財団	県博
11		徳川家康筆 和歌短冊「つゐにゆく」	1幅	桃山-江戸時代 16-17世紀	34.6×5.4		徳川記念財団	県博
12		金梨子地葵紋散有職文様蒔絵広蓋	1枚	江戸時代 17世紀	縦61.0 横58.0 深8.0		日光東照宮	県博
13		竹筒	1個	桃山-江戸時代 16-17世紀	長51.8 径8.8		徳川記念財団	県博
14		東照社縁起(仮名) 模本 住吉如慶・具慶筆	4巻 (全巻の内)	寛文5年(1665)	天地各33.4		日光東照宮	県博
15		紅葉山東照宮扁額「東照大権現」	1面	元和3年(1617) 3月28日	98.3×64.8		徳川記念財団	県博
16		慈眼大師御像	1幅	寛永20年(1643) 10月5日	87.4×41.3		日光山輪王寺	県博
17		家康公、天海僧正対座の図 天海賛 狩野探幽筆	1幅	江戸時代 17世紀	89.7×29.4		寛永寺 現龍院	県博

No	指定	資	料	名	員	数	時	代	法	量	所	蔵	会場
18		東照宮神号	天海筆		1幅	江戸時代	17世紀		51.8×16.5		日光東照宮		県博
19		東照宮御影	(四月十七日拜礼)		1幅	慶安元年(1648)	12月16日		112.4×51.0		徳川記念財団		県博
20		東照宮御影	(九月十七日拜礼)		1幅	正保2年(1645)	9月16日		113.0×55.0		徳川記念財団		県博
21		東照大権現像	(靈夢) 狩野探幽筆		1幅	寛永18年(1641)	正月17日		99.5×54.5		徳川記念財団		県博
22		東照大権現像	(靈夢) 狩野探幽筆		1幅	寛永18年(1641)	2月17日		96.7×50.1		徳川記念財団		県博
23		諸家御承図	下巻		1折	江戸時代			104.8×101.8		東京国立博物館		県博
24		徳川秀忠像			1幅	江戸時代	17世紀		70.5×52.3		徳川記念財団		県博
25		徳川家光像	和歌色紙「きくやいかいこ」		1幅	江戸時代	17世紀		21.6×17.8		徳川記念財団		県博
26		徳川家光像			1幅	江戸時代	17世紀		63.0×72.3		徳川記念財団		県博
27		伝徳川家光筆	大天狗守護申付状		1幅	江戸時代	17世紀		35.0×47.6		日光山輪王寺		県博
28	◎	蒔絵箱入守袋			1式	江戸時代	17世紀				日光山輪王寺		県博
29		春日局像	伝狩野探幽筆		1幅	江戸時代	17世紀		51.1×43.5		徳川記念財団		県博
30		徳川家綱像	狩野養信筆		1幅	天保12年(1841)	3月17日		56.3×81.8		徳川記念財団		県博
31		徳川家綱筆	梅鶏図		1幅	江戸時代	17世紀		110.5×42.8		徳川記念財団		県博
32		保科正之像	(束帯) 狩野探幽筆		1幅	江戸時代	17世紀		106.3×55.2		土津神社		県博
33		保科正之像	(束帯) 狩野探幽筆		1幅	江戸時代	17世紀		106.0×55.3		土津神社/福島県立博物館寄託		県博
34		しづ祈願文			1通	江戸時代	17世紀		34.7×49.9		個人/さいたま市立博物館寄託		県博
35		保科正之像	(平服) 狩野探幽筆		1幅	江戸時代	17世紀		105.9×55.6		土津神社		県博
36		保科正光像			1幅	江戸時代	17世紀		92.5×51.0		建福寺		県博
37		徳川和子(東福門院)消息	千姫(天樹院)宛		1幅	承応2(1653) - 寛文6(1666)年			44.9×65.0		徳川記念財団		県博
38		御元服記			1冊	[正保2年(1645)]			29.4×20.8		個人/徳川林政史研究所保管		県博
39		徳川家綱書状	保科正之宛		1幅	江戸時代	17世紀		22.0×54.8		会津若松市立会津図書館		県博
40		輔養編			1冊	天保13年(1842)	版		26.0×18.0		土津神社/福島県立博物館寄託		県博
41		保科正之筆	河骨鶴鶴図		1幅	江戸時代	17世紀		30.3×43.6		徳川記念財団		県博
42		保科正之書状	片桐貞昌宛		1幅	10月1日			30.5×46.5		福島県立博物館		県博
43		保科正之書状	青山宗俊・米津田盛・石丸定次宛		1通	[寛文8年(1668)]	6月25日		36.0×51.0		個人		県博
44		保科正之書状	真田信利宛		1幅	6月20日			35.0×37.2		福島県立博物館		県博
45		家訓			1幅	江戸時代			47.4×93.4		会津若松市		県博
46		梨子地葵紋散蒔絵重箱			1基	江戸時代	17世紀		奥行21.0 幅23.0 高28.2		浄光寺		県博
47		緋地獅子牡丹金襴葵紋散五条袷姿			1領	江戸時代	17世紀		58.2×114.0		浄光寺		県博
48		徳川綱吉像	(複製 原本 法隆寺蔵)		1幅	原本 江戸時代	18世紀		84.8×41.5		徳川記念財団		県博
49		徳川綱吉筆	寿老人図		1幅	江戸時代	17-18世紀		76.0×38.5		徳川記念財団		県博
50		徳川家宣像			1幅	江戸時代	18世紀		42.0×56.6		徳川記念財団		県博
51		徳川家宣筆	和歌色紙「武蔵野は」		1幅	江戸時代	17-18世紀		17.5×15.0		徳川記念財団		県博
52		徳川家継像			1幅	享保元年(1716)			64.1×51.1		徳川記念財団		県博
53		徳川吉宗像	狩野忠信筆		1幅	昭和4年(1929)			113.2×58.0		徳川記念財団		県博
54		徳川吉宗筆	蓮之図		1幅	江戸時代	18世紀		62.0×26.0		徳川記念財団		県博
55		徳川吉宗筆	和歌色紙「五月雨の」		1幅	江戸時代	18世紀		18.0×16.5		徳川記念財団		県博
56		紅葉山八講法会図	絵巻		1巻	[延享2年(1745)]			40.6×927.8		徳川記念財団		県博
57		徳川家重像			1幅	江戸時代	18世紀		100.3×53.2		徳川記念財団		県博
58		徳川家治像			1幅	江戸時代	18世紀		61.8×55.3		徳川記念財団		県博
59		徳川家治筆	大黒天図		1幅	安永8年(1779)			50.0×29.5		徳川記念財団		県博

No	指定	資料名	員数	時代	法量	所蔵	会場
60		徳川家基像	1幅	江戸時代 18世紀	70.9×56.1	徳川記念財団	県博
61		徳川家斉像	1幅	江戸時代 19世紀	82.3×55.9	徳川記念財団	県博
62		徳川家斉筆 兜に梅の花一枝図	1幅	江戸時代 18-19世紀	55.8×98.5	徳川記念財団	県博
63		銀細工 兜に梅の花一枝	1個	江戸時代 18-19世紀	縦2.0 横4.5 高2.8	徳川記念財団	県博
64		徳川家慶像	1幅	江戸時代 19世紀	106.8×56.8	徳川記念財団	県博
65		徳川家慶 手造杯	1個	江戸時代 19世紀	径7.5 高2.5	徳川記念財団	県博
66		徳川家定像	1幅	江戸時代 19世紀	103.0×58.0	徳川記念財団	県博
67		徳川家定筆 日ノ出遠山鳥図	1幅	江戸時代 19世紀	88.5×26.8	徳川記念財団	県博
68		岩に鷹棚鋳 徳川家定遺愛	1個	江戸時代 19世紀	奥行16.0 幅23.0 高31.0	徳川記念財団	県博
69		徳川家茂像 川村清雄画	1面	明治17年 (1884) 頃	74.2×57.0	徳川記念財団	県博
70		徳川家茂像 川村清雄画	1面	明治時代中期	53.4×37.5	徳川記念財団	県博
71		天璋院像 川村清雄画	1面	明治17年 (1884)	53.5×37.5	徳川記念財団	県博
72		萌葱繻子地雪持笹御所車文様小袖	1領	江戸時代 19世紀	丈175.0 桁61.0	徳川記念財団	県博
73		茶練緯地梅枝籠目文様腰巻	1領	江戸時代 19世紀	丈180.0	徳川記念財団	県博
74		天璋院 (敬子) 書状 徳川家茂宛	1通	[文久3年 (1863)]	36.2×50.0	個人/徳川林政史研究所保管	県博
75		天璋院 (敬子) 消息 和宮宛	1通	江戸時代 19世紀	25.4×71.7	徳川記念財団	県博
76		天璋院 (敬子) 書状 徳川家茂宛	1通	[文久3年 (1863)]	16.2×125.0	個人/徳川林政史研究所保管	天守閣
77		錦手獅子香炉 磯御庭焼	1合	江戸時代 19世紀	口径14.0 胴径16.5 高27.0	徳川記念財団	県博
78		村梨子地葵牡丹紋唐草蒔絵阿古陀香炉	1合	江戸時代 19世紀	8.8×11.5×5.0	徳川記念財団	県博
79		錦手秋草文竹形文鎮 磯御庭焼	1対	江戸時代 19世紀	長16.1	徳川記念財団	県博
80		錦手布袋水滴 堅野焼	1個	江戸時代 19世紀	高5.8	徳川記念財団	県博
81		白輪子地宮牡丹唐草文茵	1枚	江戸時代 19世紀	83.0×83.0	徳川記念財団	県博
82		静寛院宮 (和宮・親子内親王) 肖像写真	1通	明治時代 19世紀	参考展示 (パネル)	徳川記念財団	両会場
83		和宮 (親子内親王) 書状 徳川家茂宛	1通	[文久4年 (1864)] 2月9日	40.7×56.0	個人/徳川林政史研究所保管	天守閣
84		和宮 (親子内親王) 書状 徳川家茂宛	1通	[元治元年 (1864)] 4月5日	32.8×46.5	個人/徳川林政史研究所保管	県博
85		徳川家茂書状写 和宮宛	1通	[元治元年 (1864)] 2月〔下旬〕	17.3×295.1	個人/徳川林政史研究所保管	天守閣
86		白輪子地流水菊牡丹藤文様打掛	1領	江戸時代 19世紀	丈180.0 桁65.0	徳川記念財団	県博
87		浅葱縮緬地松竹桜菊網干文様小袖	1領	江戸時代 19世紀	丈180.0 桁60.3	徳川記念財団	県博
88		白地竹垣に葵文様提帯	1条	江戸時代 19世紀	幅8.7 長200.0	徳川記念財団	県博
89		萌葱繻子地稲穂に雀文様掛下帯	1条	江戸時代 19世紀	幅25.0 長230.0	徳川記念財団	県博
90		黒塗葵葉菊紋散桐唐草蒔絵文台・硯箱・料紙箱	1具	江戸時代 19世紀	文台; 高16.0/硯箱; 25.3×23.0×6.0 /料紙箱; 32.5×42.5×17.5	徳川記念財団	県博
91		御所人形 冠菖蒲文着衣座姿	1躰	江戸時代 19世紀	高42.0	徳川記念財団	県博
92		御所人形 葵紋付着衣座姿	1躰	江戸時代 19世紀	高40.0	徳川記念財団	県博
93		金糸八重桜雉文様繡襦紙人・煙草人	1組	江戸時代 19世紀		徳川記念財団	県博
94		黒塗葵葉菊紋散桐煙管	6本	江戸時代 19世紀	長35.5	徳川記念財団	県博
95		銀糸綴地竹に雀文様襦紙人	1個	江戸時代 19世紀	幅21.8	徳川記念財団	県博
96		金糸楓に雀文様繡襦紙人	1個	江戸時代 19世紀	幅14.2	徳川記念財団	県博
97		桜楓に蹴鞠銀製飾物	1個	江戸時代 19世紀		徳川記念財団	県博
98		栗一鼓二管銀製飾物	1個	江戸時代 19世紀		徳川記念財団	県博
99		垣根の宿の梅が枝銀製飾物	1個	江戸時代 19世紀	高7.4 幅16.5	徳川記念財団	県博
100		藤棚銀製飾物	1個	江戸時代 19世紀	高10.0 幅12.5	徳川記念財団	県博

No	指定	資料名	員数	時代	法量	所蔵	会場
101		保科正経像	1幅	江戸時代 17世紀	110.4×51.3	建福寺	県博
102		保科正経筆 保科正之和歌書	1幅	寛文10年 (1670)	39.1×46.3	小平潟天満宮/福島県立博物館寄託	県博
103		聖光院像	1幅	近代	81.8×33.8	土津神社/福島県立博物館寄託	県博
104		土津神社絵図	1幅	近代	225.5×108.5	土津神社/福島県立博物館寄託	県博
105		土津神社神額図	1巻	[元文5年 (1740)]	幅60.2	土津神社/福島県立博物館寄託	県博
106		能面 平太	1面	江戸時代 17世紀	20.5×14.3	土津神社/福島県立博物館寄託	県博
107		会津神社志・会津神社総録	各1冊	江戸時代	21.4×30.4 / 21.2×30.0	土津神社/福島県立博物館寄託	県博
108		土津神社告文	1通	文久2年 (1862) 8月5日	35.5×123.5	土津神社/福島県立博物館寄託	県博
109		見称山葬志	1冊	江戸時代	29.5×21.0	個人	県博
110		松平正容像 狩野探常筆	1幅	江戸時代 18世紀	103.2×54.7	土津神社	県博
111		松平正容書状 吉川従長宛	1枚(断紙)	[享保11年 (1726)] 9月7日	44.6×32.4	土津神社/福島県立博物館寄託	県博
112		若松城下絵図屏風	1隻	江戸時代 19世紀	135.0×484.0	福島県立博物館	県博
113		松平容員像 狩野英信筆	1幅	江戸時代 18世紀	103.0×54.3	土津神社	県博
114		松平容頌像 狩野英信筆	1幅	江戸時代 19世紀	99.2×56.0	土津神社	県博
115		日新館童子訓	2冊	享和3年 (1803)	26.5×18.7	福島県立博物館	県博
116		日新館図	1枚	江戸時代 19世紀	23.6×75.0	福島県立博物館	県博
117		日新館教授の図	9枚	江戸時代 19世紀	各36.2×59.8	福島県立博物館	県博
118		松平容住像 狩野采信筆	1幅	江戸時代 19世紀	100.2×56.0	土津神社	県博
119		若松城下図・追鳥狩之図屏風	6曲1双	江戸時代 19世紀	各124.3×294.6	福島県立博物館	県博
120		松平容衆像 狩野采信筆	1幅	江戸時代 19世紀	109.7×58.7	土津神社	県博
121		新編会津風土記	120冊	江戸時代 19世紀	各25.9×18.4	会津若松市立会津図書館	県博
122		会津藩参勤交代図	1面	江戸時代 19世紀	59.0×135.0	会津若松市立会津図書館	天守閣
123		家世表	278冊	江戸時代 19世紀	27.3×18.3	福島県立博物館	県博
124		松平容敬像 狩野雅信筆	1幅	江戸時代 19世紀	108.3×58.2	土津神社	県博
125		玉山講義附録・伊洛三子伝心録・二程治教録	10冊	天保13年 (1842) 版	各26.0×18.0	土津神社/福島県立博物館寄託	県博
126		松平容敬筆 孔雀図	1幅	江戸時代 19世紀	128.8×50.8	個人	天守閣
127		松平容保肖像写真	1枚	近代	14.0×9.1	個人	県博
128		葵紋散牡丹蝶詩絵重祝箱	1具	江戸時代 19世紀	奥行21.0 幅12.1 高16.0	福島県立博物館	県博
129		鳥秋草蒔絵鼓	1挺	江戸時代 18-19世紀	胴長25.5	福島県立博物館	県博
130		鶴亀草花螺鈿鼓箱	1合	江戸時代 18-19世紀	奥行29.4 幅45.4 高25.5	福島県立博物館	県博
131		松平容保誓詞 (写本)	1通	[安政5年 (1858)]	28.1×77.0	会津若松市	天守閣
132		印章	4点	江戸-明治時代 18・19世紀		個人	県博
133		花押型	5点	江戸時代 19世紀		個人	県博
134		松平容保筆 和歌短冊「今日さららに」唐衣	2枚	19世紀	36.0×5.8	個人	県博
135		十八間二方筋兜	1頭	江戸時代中期		個人	天守閣
136		松平照和歌集	6冊	近代		会津若松市	天守閣
137		藍縮緬地菊花模様小袖	1頭		丈156.0	会津若松市	天守閣
138		唐太絵巻 遠藤香村筆	1巻	江戸時代 19世紀	37.0×1644.0	初瀬川文庫	天守閣
139		浦賀湾警備状況絵巻	1巻	文政年間	54.0×325.5	会津若松市	天守閣
140		ロシア人渡来絵巻	1巻	江戸時代 19世紀	54.0×227.5	会津若松市	天守閣
141		異国大船渡来之略書	1面	嘉永6年 (1853)	114.3×27.3	会津若松市	天守閣
142		徳川家茂像	1幅	江戸時代 19世紀	68.5×50.3	徳川記念財団	天守閣

No	指定	資料名	員数	時代	法量	所蔵	会場
143		徳川家茂筆 一行書「昇平多樂事」	1幅	文久元年(1861)	127.5×29.0	徳川記念財団	天守閣
144		徳川家茂所用小物類	1式	江戸時代 18-19世紀		徳川記念財団	天守閣
145		和宮下向行列瓦版	1枚	文久2年(1862)	31.5×48.4	東京都江戸東京博物館	天守閣
146		有栖川宮一品親王筆 一行書	1幅	明治16年(1883)	137.5×40.6	個人/会津若松市寄託	天守閣
147		和宮御用御車図	1巻	文久2年(1862)頃	26.7×166.0	東京国立博物館	天守閣
148		村梨子地葉菊紋散時絵旅籠箱	1具	江戸時代 19世紀	30.5×26.3×29.0	徳川記念財団	天守閣
149		猿南天時絵宮枕(夏用・冬用)	2基	江戸時代 19世紀	(夏)高18.8 幅22.0 / (冬)高19.5 幅22.0	徳川記念財団	天守閣
150		湯煎台	1基	江戸時代 19世紀	16.9×29.1×26.0	徳川記念財団	天守閣
151		金戒光明寺図	1枚	江戸時代 19世紀	35.0×47.0	個人	天守閣
152		松平容保筆 和歌懐紙「春風は」	1幅	江戸時代 19世紀	48.4×36.0	会津若松市	天守閣
153		松平容保筆 一行書「守道即天知」	1幅	江戸時代 19世紀	117.0×31.3	個人	天守閣
154		御上洛御用掛供奉御行烈附	1点	文久3年(1863)	47.0×148.5	東京都江戸東京博物館	天守閣
155		孝明天皇像(模写)	1幅	近代	102.0×44.7	東京大学史料編纂所	天守閣
156		太刀 銘 備州長船秀光 康応元年二月日 附 梨子地菊桐紋時絵糸巻太刀拵	1口	太刀 康応元年(1389)拵 江戸時代 19世紀	太刀：刃長70.8 反1.9 拵：総長105.5	東京国立博物館	県博
157		紫檀地花鳥文時絵職御太刀拵	1口	江戸時代 19世紀	総長103.0	東京国立博物館	県博
158		孝明天皇所用太刀拵絵形 狩野永岳筆	1包+1枚	江戸時代 19世紀	25.8×115.2	東京国立博物館	県博
159		蛤御門合戦図屏風	1隻	江戸時代 19世紀	157.0×366.0	個人	天守閣
160		錦絵 京都戦争図	1枚	江戸時代 19世紀	35.0×72.0	会津若松市	天守閣
161		洛中焼失図	3枚	江戸時代 19世紀	30.5×46.0	個人	天守閣
162		牡丹獅子図屏風	1隻	江戸時代 19世紀	128.3×292.4	個人	天守閣
163		東久世通禧筆 横一行	1面	19世紀	31.6×121.3	個人	天守閣
164		御意之振(御札・御暇等につき)	1通	[文久2年(1862)] 10月1日	17.2×93.6	個人/徳川林政史研究所保管	県博
165		御意之振(京地事変鎮静行届につき)	1通	[文久3年(1863)] 8月24日	17.2×31.0	個人/徳川林政史研究所保管	県博
166		御意之振(陸軍総裁職申付につき)	1通	[元治元年(1864)] 2月11日	17.3×31.5	個人/徳川林政史研究所保管	県博
167		徳川家茂書状控 徳川慶勝宛	1通	[元治元年(1864)] 4月[14日]	16.0×149.5	個人/徳川林政史研究所保管	県博
168		徳川家茂書状控 松平容保宛	1通	[元治元年(1864)] 4月15日	7.5×83.5	個人/徳川林政史研究所保管	県博
169		孝明天皇宸翰 松平容保宛	1通	文久3年(1863) 10月9日	36.2×51.4	個人	県→天
170		孝明天皇御製	1通	[文久3年(1863)] 10月9日	41.5×60.8	個人	県→天
171		錦袋	1点	19世紀	47.0×7.0	個人	県→天
172		松平容保筆 宸翰添書	1通	明治22年(1889)	36.5×49.3	個人	県→天
173		孝明天皇宸翰写 松平容保宛	1通	[文久3年(1863)] 10月9日	39.0×51.0	個人/徳川林政史研究所保管	県→天
174		孝明天皇御製写	1通	[文久3年(1863)] 10月9日	38.9×51.3	個人/徳川林政史研究所保管	県→天
175		孝明天皇宸翰 徳川家茂宛	1通	[文久4年(1864)] 1月21日	43.0×58.0	個人/徳川林政史研究所保管	県博
176		松平容保書状 会津藩家老宛	1巻	[文久4年(1864)] 2月18日	15.7×519.5	福島県立博物館	県博
177		徳川家茂書状	3枚1通	[文久4年(1864)] 2月14日	①40.3×56.5 ②40.3×56.3 ③40.3×56.2	個人/徳川林政史研究所保管	天守閣
178		孝明天皇宸翰 [深祕之御宸翰] 徳川家茂宛	3枚1通	元治元年(1864) 5月[2日]	①44.2×58.0 ②44.1×58.0 ③44.1×58.1	個人/徳川林政史研究所保管	天守閣
179		徳川家茂書状 [深祕之御請書]	1枚1通	[元治元年(1864)] 5月[6日]	縦40.4~40.7×横56.4~56.5	個人/徳川林政史研究所保管	天守閣
180		孝明天皇御書	1通	[元治元年(1864)] 6月29日	35.8×48.8	個人/徳川林政史研究所保管	天守閣
181		徳川家茂書状 中川宮朝彦親王宛	1通	[元治元年(1864)] 2月20日	19.0×161.0	個人/徳川林政史研究所保管	県博
182		大政奉還につき諸藩重臣への詰問書	1通	[慶応3年(1867)] 10月13日	17.3×134.3	個人/徳川林政史研究所保管	天守閣
183		薩藩奸党之者罪状之事(討薩の表別紙)	1通	[慶応4年(1868)] 1月	17.3×320.8	個人/徳川林政史研究所保管	天守閣

No	指定	資料名	員数	時代	法量	所蔵	会場
184		徳川慶喜上表写	1通	〔慶応3年(1867)〕12月	17.3×320.8	個人/徳川林政史研究所保管	天守閣
185		徳川慶喜上書(総督府進軍有免願につき)	1通	〔慶応4年(1868)〕3月	39.1×52.6	個人/徳川林政史研究所保管	県博
186		徳川慶喜上書別紙	1通	〔慶応4年(1868)〕3月	39.2×52.7	個人/徳川林政史研究所保管	県博
187		徳川茂栄・徳川慶頼上書(徳川慶喜上書添書)	1通	〔慶応4年(1868)〕3月	39.3×50.6	個人/徳川林政史研究所保管	県博
188		徳川茂栄・徳川慶頼上書	1通	〔慶応4年(1868)〕3月	15.5×107.7	個人/徳川林政史研究所保管	県博
189		会津藩士歎願書	1通	〔慶応4年(1868)〕2月	32.4×300.2	個人/徳川林政史研究所保管	県博
190		会津藩旗	1流	江戸時代 19世紀	316.0×32.2	東京国立博物館	県博
191		風刺画「曾我の戯」	1枚	〔明治元年(1868)〕		東京大学史料編纂所	天守閣
192		風刺画「子をとろ子をとろ」	2枚	〔明治元年(1868)〕		東京大学史料編纂所	天守閣
193		松平容保・照姫書状 萱野権兵衛宛	4通	明治2年(1869)	①19.0×45.0 ②19.0×77.0 ③20.0×45.0 ④20.0×19.0	個人	天守閣
194		六歳の静岡藩知事 徳川家達写真	1通	明治2年(1869) 6月17日	参考展示(パネル)	徳川記念財団	県博
195		徳川家名相続沙汰書	1通	〔慶応4年(1868)〕	40.5×56.7	徳川記念財団	県博
196		静岡藩知事任命書	1通	明治2年(1869) 6月	51.6×65.3	徳川記念財団	県博
197		「御袴着」袴 徳川家達着用	1具	江戸時代 19世紀	肩衣丈55.4 裾57.0 半袴丈59.5 裾35.5	徳川記念財団	県博
198		大礼服着用の徳川家達・家正写真		大正末年-昭和初年	参考展示(パネル)	徳川記念財団	県博
199		明治天皇下賜 毛植の虎	1点	明治20年(1887)	高17.3	徳川記念財団	県博
200		明治天皇下賜 毛植の猫	1点	明治20年(1887)	高14.0	徳川記念財団	県博
201		徳川慶喜祝賀会合作の書「和楽日誌」[寿考万年]	双幅	明治35年(1902)	各139.0×40.0	徳川記念財団	県博
202		徳川慶喜画 風車のある風景	1面	明治時代	23.0×32.2	個人/松戸市戸定歴史館寄託	県博
203		徳川慶喜画 西洋風景	1面	明治時代	40.2×59.8	久能山東照宮博物館	県博
204		徳川慶喜撮影写真 ぐちなしの実	1点	明治20～30年代	16.2×10.8	個人/松戸市戸定歴史館寄託	県博
205		プレモカメラ	1台	1905年頃製作	9.0×22.0×18.6	久能山東照宮博物館	県博
206		松平容保像 木宮晃陽筆	1幅	近代	72.2×52.8	福島県立博物館	県博
207		土津神社古文	1通	明治3年(1870) 5月19日	36.2×113.0	土津神社/福島県立博物館寄託	県博
208		家訓 松平容保・山川浩筆	1幅	19世紀	44.2×67.2	福島県立博物館	県博
209		松平容保筆「東照宮」	1幅	明治時代 19世紀	94.7×35.7	日光東照宮	県博
210		松平容保筆 扇面和歌「紅葉する」	1面	明治時代 19世紀	13.7	日光東照宮	県博
211		進達類綴(明治十三年一月ヨリ十二月迄)	1冊	明治13年(1880)	27.5×20.4×3.8	日光東照宮	県博
212		会津磐梯山噴火之由来	1冊	明治23年(1890) 7月15日編	25.0×16.0	個人	県博
213		高須松平家四兄弟写真		明治11年(1878) 9月3日	参考展示(パネル)	徳川林政史研究所	県博
214		秩父宮雍仁親王・勢津子妃御成婚写真		昭和3年(1928)	参考展示(パネル)	個人	県博
215		秩父宮雍仁親王・勢津子妃の御成婚記念絵葉書	1冊	昭和初年	9.0×14.1	福島県立博物館	県博
216		松平節子様会津御訪問写真	1点	昭和3年(1928)	参考展示(パネル)	個人	県博
217		秩父宮雍仁親王・勢津子妃写真	1点	昭和初年	20.0×14.0 額26.6×17.4	個人	県博
218		銀製鼓型ボンニエール	1点	昭和初年	径4.4 高5.8	個人	県博
219		秩父宮勢津子妃筆 和歌短冊「くるゝまで」	1点	昭和	36.4×6.0	個人	県博
220		秋草蒔絵短冊扶	1点	昭和	38.5×7.5	個人	県博

凡例 指定の◎は重要文化財、○は重要美術品をあらわす。

法量は、とくに表記のない場合、タテ×ヨコ。

(3) その他の展示

(ア) 「世界の昆虫と福島の昆虫展」

1. 主催 NPO法人はるなかと福島県立博物館の共催事業
2. 会期 平成18年9月15日(金)～9月24日(日)
3. 会場 福島県立博物館体験学習室 (入場無料)
4. 入館者数 2,938人
5. 展示資料
ふくしま虫の会会員の所蔵する昆虫標本と、兵庫県立人と自然の博物館所蔵の昆虫標本
6. 関連事業
講演会「昆虫の世界—なぜ大きくなれないの?—」
講師 大谷 剛氏 (兵庫県立大学教授 兵庫県立人と自然の博物館主任研究員)
日時 9月23日(土) 午後1時

(イ) 特選資料展「奥会津の職人巻物」

1. 会期 平成19年1月20日(土)～2月25日(日)
2. 会場 収蔵資料展示室 (常設展示料金で観覧)
3. 入館者数 2,430人
4. 担当学芸員 民俗分野：佐々木長生
5. 趣旨
南会津郡只見町・南郷村や大沼郡金山町・昭和村などの奥会津地方には、屋根葺、番匠(大工)、木地屋、狩人などの職人たちが、その職祖の由来や祀り方などを記載した巻物を所持し、仕事をしてきた。主に、技術に関わる職業の巻物が多いが、その中には「連尺大事」と呼ばれる商人の巻物や、小笠原流の儀式における礼儀・作法などを記載したものや産婆の巻物(嘉永三年)など、かつて「道々の輩」などと中世には幅広く職人の範囲とされてきた職種のものなど、職人の歴史を物語る

ものもみられる。いわゆる中世的世界を思わせる民俗を今日に伝えている。

只見町には、教育委員会の調査により多くの職種の職人巻物の存在が明らかになっている。神奈川大学日本常民文化研究所および当館職員等による職人巻物調査団を組織し、その調査・研究を行ってきた。

本展は、神奈川大学と本館の共同展示を開催し、奥会津地方における職人巻物の研究成果を発表し、さらなる所在確認と研究へ発展させることを目的に、特別展示として開催した。

開催にあたっては、只見町教育委員会をはじめ奥会津地方の教育委員会等の協力のもと、資料を借用し展示を行なった。また展示解説会および講座等を計画し、展示の内容理解を高めた。

6. 主な展示資料

- ①屋根葺、木地屋、桶屋、連尺商人、杜氏、小笠原流、産婆、番匠、庭師、石屋などの職人巻物
- ②その職種にかかわる道具および作業風景の写真
- ③職人の服装をはじめとする生活用具など
- ④その他

7. 関連事業

- ①関連講座 民俗講座「会津の職人巻物の民俗的世界」

講師 佐々木長生

日時 1月28日(日) 午後1時30分

- ②展示解説会 会期中3回

8. 開催協力機関

- ①神奈川大学日本常民文化研究所 (共催)
- ②只見町、南郷村、田島町、金山町、昭和村等の各教育委員会 (後援)



「世界の昆虫と福島の昆虫展」展示風景



「奥会津の職人巻物」展示風景

「奥会津の職人巻物」展示資料一覧

	資 料 名	内 容	時 代	地域名	所 蔵
1	秘鍼之巻	伯楽（馬医）の巻物	元禄8年	只見町	個人蔵
2	猿駒引絵	馬の安全祈願	昭和20年代	村上市	個人蔵
3	蒼善神絵	〃	〃	〃	〃
4	会津藩年中行事のうち四月、木流観音馬乗	木流馬頭観音祭礼		会津若松市	館蔵
5	船大工巻物	川船船大工巻物	大正11年	金山町	個人蔵
6	桶寸法秘事口伝書之巻	桶屋寸法書	弘化2年	只見町	只見町教育委員会
7	泉水之次第	庭師巻物	慶応2年		
8	捕手許状	捕物秘伝書	寛政4年	只見町	只見町教育委員会
9	要流秘棒許状	棒術の秘伝書	文政2年	只見町	只見町教育委員会
10	算法の奥義	算術秘伝書	宝暦8年	只見町	只見町教育委員会
11	職人巻物複製品	複製品31本をハンズオンコーナーに展示		只見町	只見町教育委員会
12	小笠原伝授婚礼秘事揃	婚礼式次第	明治時代	只見町	只見町教育委員会
13	小笠原伝授献立百ヶ条口伝書	献立秘伝書	〃	〃	個人蔵
14	小笠原伝授規式作法之膳法	配膳秘伝書	〃	〃	〃
15	カンツル（雄蝶）	婚礼祝酒注ぎ	大正時代	〃	〃
16	カンツル（雌蝶）	〃	〃	〃	〃
17	島台・富貴台	婚礼祝飾	〃	〃	只見町教育委員会
18	掛軸「老人と鶴」	婚礼祝掛軸	明治時代	〃	個人蔵
19	掛軸「松と鶴」	〃	〃	〃	〃
20	掛軸「姥と鶴」	〃	〃	〃	〃
21	折型	婚礼のし等折型	昭和初期	〃	〃
22	折型許状	小笠原流折型免許状	嘉永5年	〃	只見町教育委員会
23	元山許状		文化14年	〃	〃
24	元山巻物		不明	〃	〃
25	元山許状		大正7年	〃	〃
26	広刃	元山伐採具	昭和10年代	〃	〃
27	三尺鋸	〃	〃	〃	〃
28	前挽	元山たて挽具	〃	〃	〃
29	はし鉈	元山用具	〃	〃	〃
30	番匠巻物	大工巻物	昭和50年代	〃	個人蔵
31	大工道具一式	鑿・鉋など	昭和30年代	〃	只見町教育委員会

(ウ) まほろん移動展「新編陸奥国風土記巻之五 会津郡・耶麻郡 その1」

1. 会 期 平成19年3月10日(土)～5月13日(日)
2. 会 場 収蔵資料展示室（常設展示料金で観覧）
3. 入館者数 12,746人
4. 担当学芸員 考古分野：高橋 満・森 幸彦・藤原妃敏・横須賀倫達
5. 趣 旨

まほろん（福島県文化財センター白河館）ではその膨大な収蔵資料を県民にわかりやすく紹介するため、毎年古代における行政単位の「郡」ごとに遺跡や遺物を紹介する展示を行っている。平成18年に開催された標記企画を博物館とまほろんとの連携による「移動展」という形で当館にて行った。会津郡・耶麻郡

の資料は多量なので今回は「その一」縄文時代・弥生時代の資料を紹介した。来年度は「その二」古墳・奈良・平安時代の資料を紹介する予定である。当館では、まほろん収蔵資料に加えて三島町、会津美里町、金山村、喜多方市、南会津町各教育委員会の協力を得て資料を補足し、ストーリー性を強化した。猪苗代町と磐梯町にまたがる法正尻遺跡の縄文土器を中心に荒屋敷遺跡の木製品・漆製品で豊かな縄文文化を紹介し、弥生時代は初公開油田遺跡をはじめ宮崎遺跡、一ノ堰遺跡、桜町遺跡など再葬墓から方形周溝墓にいたるお墓の変遷を中心に紹介した。

6. 関連行事

展示解説会

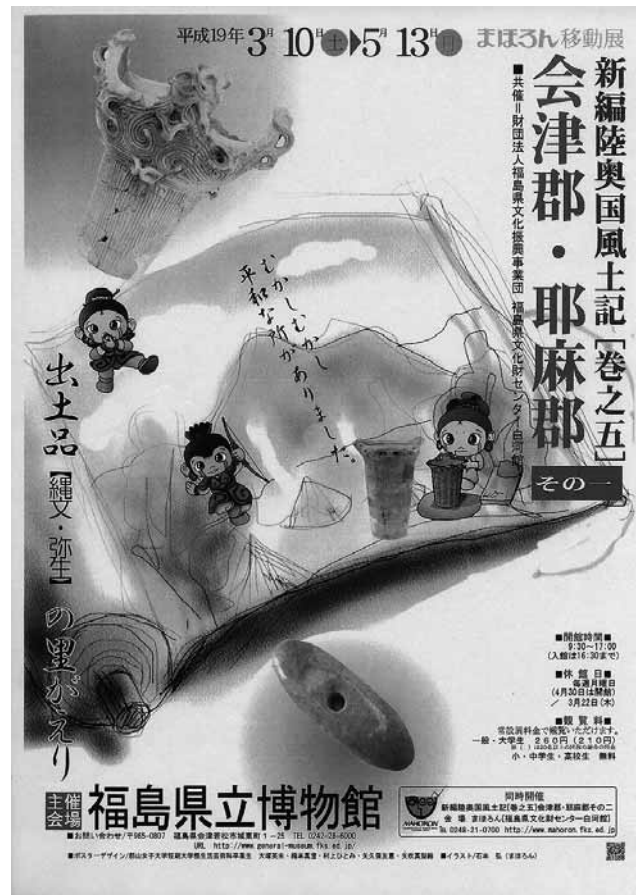
講師 森 幸彦

4月28日(土) 参加者30名

5月13日(日) 参加者12名

7. 成果・課題

- ①当館の企画展を移動した『馬と人との年代記』以来、まほろんとの連携事業は2度目であり支障なく遂行することができた。
- ②資料を補足しストーリー性を持たせることによって、よりわかりやすい展示となった。
- ③会津美里町油田遺跡の資料を初公開し紹介することが出来た。
- ④パンフレットを作ることが出来なかった。来館者からの要望が多くあった。
- ⑤コーナー毎に創作『陸奥国風土記』を置いて興味を惹く試みを行ったが、本当に存在するものと誤解した観覧者も多かった。一方でこのコピーを望む声も多くあったが、流布することにより誤解を招く恐れがあるためお断りした。
- ⑥年度末に主担当者が異動する予想外の状況が生じ、借用立会者が返却立会できない事態になった。
- ⑦「まほろん」という愛称が浸透していないため「まほろん移動展」というタイトル自体がわからない観覧者も多かった。
- ⑧常設展料金で入場できたため、観覧者数は多かったが収入は少なかった。



まほろん移動展ポスター



まほろん移動展展示風景



まほろん移動展展示風景

(4) 移動展

県立博物館の展示を見たくても「会津若松は遠すぎて」という県民の声がしばしば聞かれる。また、当館で実施した企画展の一部や、当館の収蔵品を市町村の博物館・資料館で公開して欲しいという要望も多い。県立博物館では、収蔵品を県内各地で広く公開することで、県民や市町村の要望に応え、県民に文化に対する理解をさらに深めてもらうという目的で、県内の博物館や文化施設での展示を開催している。

平成18年度は、福島県埋蔵文化財センター白河館（まほろん）の協力を得て、春に実施した企画展「馬と人との年代記」のダイジェスト版を移動展として開催した。

「馬と人との年代記 in まほろん ー大陸からふくしまへー」

1. 会 期 平成18年 8月5日(土)～9月18日(日)
2. 会 場 福島県文化財センター白河館（まほろん）
3. 入館者数 5,570人
4. 担当学芸員 考古分野：横須賀倫達・木本



移動展「馬と人との年代記」リーフレット

元治・藤原妃敏・森 幸彦・高橋 満

5. 趣 旨

趣旨は春の企画展と同じ。移動展では、春の企画展で展示した資料の中から福島県とのつながりが深い資料を中心に、完成直後の中田横穴の復元品を加えて展示した。

6. 展示構成

- 1編 古代中国の馬具
- 2編 馬文化の渡来
- 3編 ふくしまの古墳に眠る馬の記憶
- 4編 駅伝と絵馬

7. 関連行事

- ①ウマ講座「考古学から探るウマの世界」
講師 横須賀倫達
期日 8月13日(日)
- ②学芸員とめぐる展示ツアー（展示解説会）
講師 横須賀倫達
8月5日(土) 8月13日(日)

8. 成果・課題

入館者数は、春の企画展を超える数を集めた。これは入館料が無料であること、まほろんの入館者数自体が伸びたことなどが理由として考えられる。

課題として、開催期間が夏休み中であり、まほろんの来館者層が子供中心であったことから子供が入館者の多くを占めたが、内容がやや難解であったこと、子供向けのコーナーがなかったことなど、この層に十分な対応ができていなかった。春の企画展同様、対象と考える層が曖昧であったことが問題であった。



移動展「馬と人との年代記」展示風景

移動展「馬と人との年代記」展示資料一覧

No.	テーマ	資料名	点数	地域	所蔵者	指定
1	室外展示	馬頭琴	2		当館	
2		絵本「スーホの白い馬」	3		当館	
3	1編 古代中国の馬	人面文飾牌	2		福島県個人蔵	
4		円形飾り金具	29		福島県個人蔵	
5		鈴付竿頭金具	1		福島県個人蔵	
6		害	1		福島県個人蔵	
7		鑣	3		福島県個人蔵	
8		らん鈴	2		福島県個人蔵	
9		銜	2		福島県個人蔵	
10		馬面	2		福島県個人蔵	
11		害・轄	12		福島県個人蔵	
12		蓋弓帽	2		福島県個人蔵	
13		ミニチュア馬具 轡	3		福島県個人蔵	
14		ミニチュア馬具 馬鐸	4		福島県個人蔵	
15		ミニチュア馬具 馬面	1		福島県個人蔵	
16		ミニチュア馬具 鏡	2		福島県個人蔵	
17	2編 日本に馬が やってきた	馬形土製品	2	天王壇古墳	本宮町教育委員会	県重文
18		馬鐸	1	吉ノ内1号墳	角田市郷土資料館	
19		楕円形鏡板付き轡	1	吉ノ内1号墳	角田市郷土資料館	
20		馬形埴輪	1	原山1号墳	当館	県重文
21		馬形埴輪	1	丸塚古墳	相馬市教育委員会	市重文
22		馬形埴輪	2	経塚1号墳	会津坂下町教育委員会	
23	3編 豪族の乗り物だった馬	鉄製楕円形鏡板付き轡	1	高見町12号墳	南相馬市教育委員会	
24		馬鐸	2	真野小池8号墳	慶應義塾大学文学部	
25		鐘形杏葉	2	中田横穴	いわき市教育委員会	県重文
26		雲珠	1	中田横穴	いわき市教育委員会	県重文
27		辻金具	2	中田横穴	いわき市教育委員会	県重文
28		鉸具	2	中田横穴	いわき市教育委員会	県重文
29		鞍縁金具	1	中田横穴	いわき市教育委員会	県重文
30		帯飾り金具	8	中田横穴	いわき市教育委員会	県重文
31		辻金具	2	八幡2号横穴	いわき市教育委員会	県重文
32		楕円形鏡板	1	八幡2号横穴	いわき市教育委員会	県重文
33		轡	2	八幡2号横穴	いわき市教育委員会	県重文
34		輪鏡	1	八幡9号横穴	いわき市教育委員会	県重文
35		貝製飾り	4	八幡23号横穴	いわき市教育委員会	県重文
36		轡	1	八幡23号横穴	いわき市教育委員会	県重文
37		馬鐸	1	八幡25号横穴	いわき市教育委員会	県重文
38		素環鏡板付き轡	1	千代鶴11号横穴	いわき市教育委員会	
39		錫装板状辻金具	2	勿来金冠塚古墳	当館	
40		錫装帯飾り金具	3	勿来金冠塚古墳	当館	
41		壺鏡とそのレプリカ	4	名古谷新2号横穴	楢葉町教育委員会	
42		素環鏡板付き轡	1	羽山1号横穴	南相馬市博物館	
43		板状辻金具	3	羽山1号横穴	南相馬市博物館	
44		馬鈴	8	高松1号墳	相馬高等学校	
45		素環鏡板付き轡	3	観音山1・2号横穴	白河市教育委員会	
46		板状辻金具	1	観音山1号横穴	白河市教育委員会	
47		貝製飾り	6	観音山1・2号横穴	白河市教育委員会	
48		帯飾り金具、鉸具、鞍金具	11	観音山1・3号横穴	白河市教育委員会	
49		鉢状辻金具	2	観音山4号横穴	白河市教育委員会	

No.	テーマ	資料名	点数	地域	所蔵者	指定
50		棘葉形鏡板付き轡	1	筑内37号横穴	福島県教育委員会	
51		棘葉形杏葉	4	筑内37号横穴	福島県教育委員会	
52		八脚雲珠	1	筑内37号横穴	福島県教育委員会	
53		鉢状辻金具	4	筑内37・38号横穴	福島県教育委員会	
54		長方形帯飾り金具	15	筑内37号横穴	福島県教育委員会	
55		双脚鋌	1	筑内37号横穴	福島県教育委員会	
56		鞍金具、鉸具	5	筑内37号横穴	福島県教育委員会	
57		復原馬具と復原馬	1		(財)福島県埋蔵文化財センター白河館	
58		素環鏡板付き轡	1	山ノ神1号墳	石川町教育委員会	
59		素環鏡板付き轡	1	才合地山1号横穴	須賀川市歴史民俗資料館	
60		鐙	1	才合地山1号横穴	須賀川市歴史民俗資料館	
61		花形鏡板・杏葉	3	跡見塚古墳群	須賀川市教育委員会	
62		鉢状雲珠・辻金具	5	跡見塚古墳群	須賀川市教育委員会	
63		素環鏡板付き轡	1	上ノ平1号墳	福島市教育委員会	
64	中田横穴復元品			(財)福島県埋蔵文化財センター白河館		
65	4編 古代の 駅伝と 絵馬	木簡「買上替馬」	1	荒田目条里遺跡	いわき市教育委員会	
66		墨書土器「駅家」	1	関和久遺跡	福島県教育委員会	県重文
67		刻書土器「馬」	1	妙音寺遺跡	郡山市教育委員会	
68		鉄製素環轡	1	荒田目条里遺跡	いわき市教育委員会	
69		駅鈴（複製）	1		当館	
70		絵馬	3	荒田目条里遺跡	いわき市教育委員会	
71		木製馬形	2	御山千軒遺跡	福島県教育委員会	
72		土製馬形	2	岸遺跡	いわき市教育委員会	
73		馬頭骨	2	岸遺跡	いわき市教育委員会	

(5) 展示解説

(ア) 展示解説員

当館では、22名の展示解説員を配置し、展示の解説を中心とした業務を担当している。ただ、企画展会期中には展示室内の必要人員が不足するので、それを補足するため、学芸員が展示室で解説を行った。平成18年度は1コマ45分で計172コマ補った。

展示解説員は、通常の展示解説のほか次の解説業務を実施している。

1. やさしい展示解説会

展示解説員による常設展の定時解説会。原則的に土・日曜日、各2回（午前11時、午後2時開始、ただし、他の行事と重なる時間帯は実施せず）行い、1回の所要時間は約30分間。土・日曜日とも総合展示室全体を対象に解説を行った。

実施状況 計103回 参加人数 369人（土曜日53回 196人、日曜日50回 173人）

2. 通し解説

非定期の常設・企画展解説。個人・団体の要望に応じ、展示解説員1人が総合展示室を解説。

実施回数 計45回

3. 部屋送り解説

非定期の常設・企画展解説。主に個人の要望に応じ、各展示室担当の解説員が交代で解説。

実施回数 計144回

4. ガイダンス

学校団体向けに当館の概要や展示資料の紹介、利用上の諸注意などを行う。

実施回数 計6回

(イ) 展示解説のための印刷物

常設展示を解説した印刷物を次のとおり出



やさしい展示解説会

版している。なお、企画展示については、その都度展示解説図録を発行している。平成18年度の販売冊数については、本書のIV利用状況 2. 出版物販売を参照のこと

①福島県立博物館常設展示解説図録

常設展示の解説図録。昭和61年初版発行 106 p.

②福島県立博物館ガイドブック

常設展示の展示内容をコンパクトに解説。裏方の館活動も紹介。昭和61年発行 28 p.

③博物館と遊ぼう！

子供に展示に対する興味を起こさせるように工夫した解説書。平成7年発行 61 p.

④Fukushima Museum Permanent Exhibition Guide Book

英文の展示解説パンフレット。希望する来館者に無償配布。平成18年発行 14 p.

⑤解説シート

展示資料を詳しく解説するためのB5版1枚両面の印刷物。常設展示を中心に、各コーナーで解説する資料あるいはテーマを設け、計21ヶ所に設置している。

解説シートの作成件数 (平成19年3月31日現在)

常設展示	大テーマ	テーマ数
総合展示	原 始	2
	古 代	2
	中 世	2
	近 世	2
	近・現代	2
	自然と人間	2
部門展示	民 俗	2
	自 然	2
	考 古	2
体験学習室	歴史・美術	1
		2



福島県立博物館ガイドブック



福島県立博物館常設展示解説図録



博物館と遊ぼう！



Fukushima Museum Permanent Exhibition Guidebook

4. 調査研究事業

(1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向けて、新たな研究成果と展示資料の収集のため、考古・歴史・民俗・美術・自然の各分野がテーマを設定し、調査を実施している。

(ア) 考古資料の材質・製作技法に関する研究

1. 趣旨

出土した状態の考古資料は、そのままでは当時の姿を理解することが難しい。また、製作技術の分析にはその材質や技術的な特徴を把握することが必要である。本研究では展示資料を復元するためのバックデータを収集することを目的とする

2. 調査概要

平成18年度は、以下の諸資料の再整理・資料化を行った。

①新地町三貫地貝塚出土製塩土器資料

館蔵資料データベース化作業の一環で、報告書〔福島県立博物館調査報告第17集〕1988〕掲載資料以外に縄文時代晩期の製塩土器片が多量に存在することが確認された。今年度は製塩土器の実態解明のため、珪酸分析をおこなった。

②いわき市勿来金冠塚古墳出土品

前年度に引き続き、資料の復元的研究を実施した。今年度は、鉄製品について10月に明治大学博物館にて、金銅製品・土器類・装身具類について11月に東京国立博物館にて実測・写真撮影作業を行った。なお、これらの成果、および3年に及んだ調査成果のまとめについて、18年度発行の当館研究紀要に発表している。

③南相馬市羽山1号横穴出土鉄製品

資料を南相馬市より借用し、当館において実測作業、X線透過撮影を実施した。また、



蛍光X線調査

11月に(財)福島県文化振興事業団の協力の下、蛍光X線分析による材質調査を実施し、その結果、馬具の鉾に錫が被せられていることが判明した。これは前年度に行った勿来金冠塚古墳出土資料に続き、全国で2例目である。

(イ) 展示室における効果的な歴史理解に資する歴史資料の研究

1. 趣旨

この調査研究は、県内外の観覧者が、展示室において効果的に福島県の歴史に関する理解を深めることができるように、各時代のさまざまな様相を象徴的に示すことができる実物資料について、歴史事象を多角的にとらえることができるような周辺資料も含めて、調査研究することを目的とする。

その成果は、当館の常設展示の展示替えにおける歴史関係展示資料の候補や複製資料を製作する候補を選定する際に活用する。

①古代資料：本県に関わる出土文字資料

②中世資料：国家の変動と本県の武士の動向がわかる歴史資料

③近世資料：幕藩制下における支配形態と民衆の動向がわかる歴史資料

④近現代資料：国家の動向と本県の役割がわかる歴史資料

2. 調査概要

①恵日寺関係資料（古代・中世）撥縷尺関連資料など

②会津松平家関係資料（近世）松平容保書状松平家所用印 節子妃写真など

③土津神社所蔵資料（近世・近現代）土津神社経営関係古文書など

④会津の絵地図（近世・近現代）磐梯山噴火南会津の村絵図など

(ウ) 福島県における衣生活文化の研究

1. 趣旨

福島県内の衣料の歴史と材質を中心に明らかにすることを目的とする。幸い、大沼郡昭和村のようにカラムシの栽培の本州唯一の地域もあり、わが国のカラムシ栽培とそれを材料とする越後上布・縮などの伝統織物の歴史を解き明かす重要な位置にある。また、大沼郡三島町の縄文晩期の荒屋敷遺跡からは、当時の布（アングイン）や布織目の圧痕のある土器片の出土などの資料もあり、布の歴史を知る上で多くの資料を有している。本研究は、これら出土繊維をも含め、麻・シナ・藤・木綿などの衣料の変遷と各地の資料館等に保存

されている資料を調査し、福島県内の衣の民俗を明らかにするものである。

2. 調査概要

平成18年度は、西会津地方の仕事着の調査を軸に、耶麻郡の衣生活の調査を行った。具体的には、旧山都町・旧熱塩加納村の山村部の仕事着の変遷を中心に調査した。

また、昭和村のからむし工芸博物館の協力により、体験講座「からむしの糸作り」を開催し、カラムシの紡績技術について、体験を主にした調査を行った。

さらに、企画展「布の声をきく」の開催により、資料の提供と資料に関する情報が得られた。特に、会津若松市および猪苗代町などの普段着・晴着などの寄贈を受け、その調査を行った。

(エ) 福島県域の大名文化に関する研究

1. 趣旨

戦国時代末から江戸時代にかけて、福島県域には多くの領主、大名の支配地が存在した。本研究では、関連諸大名を取り巻く文化の様相を、大名自身の作品、彼らが養成した学者、画家、工人らの資料、学問に関わる資料を通して明らかにする。なお、この成果はリニューアル展示のテーマ内容、ならびに企画展に反映させる。

2. 調査概要

浪江町貴布禰神社で中村藩相馬家藩主所用調度、須賀川市個人宅で会津藩御抱絵師永峯伊水作品、須賀川市民俗資料館で白河藩松平家関連の狩野安信作品の調査を行った。調査成果の一部は、企画展「徳川将軍家と会津松平家」図録に反映させた。

(オ) 恐竜時代のふくしまに関する研究

1. 趣旨

本県に分布する中生代のジュラ紀～白亜紀の地層は、本県の大地の基盤をなす重要な位置を占めている。特に最近、本県浜通りに分布する相馬およびいわき地域の中生代の地層から、恐竜をはじめとする脊椎動物、植物化石など、重要な化石の発見が相次ぎ、これらをもとに、地史や古環境を再考することが必要となってきている。本研究では、本県中生代の岩石・化石資料を収集し、調査を進め、東アジア全体の形成史を背景としながら、当時の生物相および古環境がどのようなものであったかを明らかにする。調査にあたっては、大学等の研究機関はもちろんのこと、地域の研究団体との共同研究・情報交換を積極的に進める。

2. 調査概要

平成18年度は、相馬地域に分布するジュラ紀中期～白亜紀初期の相馬中村層群の調査を中心に実施した。

(1) コレクション調査

平成18年4月21日～22日 南相馬市博物館にて恐竜の歩行跡化石の調査。相馬市在住の個人コレクターから貝類化石の借用。

(2) 現地地質調査および化石の採取

平成19年2月3日～4日 南相馬市深野にて貝類化石採取

3. 鑑定調査

(1) 化石鑑定

収集した相馬中村層群産の化石について、次のとおり専門家に鑑定を依頼した。大部分は同定できたが、従来報告されていない種類のものがあり、一部は継続研究することとした。

①二枚貝化石 東京大学名誉教授 速水 格氏

②巻貝化石 国立科学博物館研究員 加瀬友喜氏

(2) 岩石鑑定

収集した相馬中村層群産の堆積岩8個について、パリノ・サーヴェイ株式会社に鑑定を依頼した。

(2) その他の調査研究事業

(ア) 鈴木敬治植物化石コレクション整理事業

1. 趣旨

福島大学名誉教授の故鈴木敬治氏により、本県を中心とした地域から採集された植物化石標本および関連資料等、約2万点が当館に寄贈されている。これらは、鈴木氏の長年にわたる古植物研究によって収集されたすべての資料である。新生代の植物化石コレクションとしては本邦屈指のものであり、新種を設定する模式標本も多く、学術的価値が高い。

これらの標本を最新の学術動向に沿うように順次整理・登録し、博物館資料として万全の体制を整える。また、将来予定されている博物館リニューアルにおいては、本コレクションを、当館の最も重要な自然史資料の一つとして広く公開する予定である。さらに、資料目録を編纂・刊行して、研究者に対する資料利用の便宜を図る計画である。

2. 事業概要

平成18年度は、図書、手稿ファイル、ならびに写真ファイル等、多数の二次資料の整理作業を行った。しかしながら、手稿ファイル

及び写真ファイルについては、タイトルや内容を逐一確認して詳細に整理するには膨大な時間と手間を要するため、今年度は仮番号・仮タイトルによる所蔵リスト作成と、書棚の配架整理を行った。図書資料は、約1,100冊を図書登録データベースに正式登録した。さらに、データベースへの登録済みリストの校正と編集作業に、一部取りかかることが出来た。

平成19年度はデータベース登録済みリストの最終校正と編集作業を行い、今日までに登録が終了した資料の目録原稿を作成して、本事業に一応の目途をつける。ただし、予算削減により平成19年度はコレクション目録の印刷が不可能となったため、同日録の出版は平成20年度以降の事業と成る予定である。

(イ) 収蔵資料鑑定整理事業

当館では、採集・寄贈などにより自然史資料の収集を進めている。これらには、さまざまな化石や鉱物・岩石が含まれる。これらの資料は、種類の同定など正確な鑑定を経て初めて標本としての価値をもち、展示や研究資料として活用できる。そのため当館では、毎年収集した資料および既に収蔵されているもののうち、学芸員では鑑定できない資料の鑑定を、それぞれの専門家に依頼し行っている。

平成18年度は次の資料の鑑定を依頼した。

①福島県産新生代貝類化石

鑑定者 筑波大学地球科学系教授 小笠原憲四郎氏

期 日 平成19年2月17日～18日

②福島県産鉱物標本

鑑定者 鉱物研究家 橋本悦雄氏

期 日 平成19年3月11日

③福島県産新生代脊椎動物化石

鑑定者 国立科学博物館主任研究員 甲能直樹氏

期 日 平成19年3月29日～30日

(ウ) 古文書整理事業

福島県域に現存する古文書は、他地域と比較して近世初期からの地方文書を大量に含むなど、たいへん良質な事で全国の研究者から注目されている。こうした古文書は、近年の自治体史編纂事業によって、少しずつではあるが人々の目にふれるようになってきた。しかし、保存管理の不備が多々指摘されはじめ、ようやく所在が確認された古文書がその後破損したり、再び所在が確認できなくなったものもある。また、自治体史編纂事業によって整理が進行しているとはいえ、未整理の古文

書が古物商・古本屋によって買われ、入札会等に陳列されているのも事実である。

こうした現状は、我々に未整理の古文書の整理と、そのマイクロ撮影による古文書原本の保存が急務であることを知らせている。本事業は、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供し、原本を保存することを目的としている。

平成18年度は、「土津神社寄託資料」を中心に、諸家寄贈・寄託資料の整理を実施した。マイクロ撮影は、前年度より継続して「堀切家寄託資料」の撮影を行った。

(3) 職員の研究活動

(ア) 研究成果の公表

1. 印刷物（単行本・自治体史・報告書・紀要・学術雑誌）

竹川重男・阿部綾子，2007.2，第三編 近世第六章交通・第七章一揆・訴願. 塩川町史第四巻，資料編Ⅱ 古代・中世・近世，p.861-982，喜多方市。

阿部綾子，2007.3，将軍家元服儀礼における加冠・理髪役について. 福島県立博物館紀要，第21号，p.69-75，福島県立博物館。

榎 陽介・佐々木長生・田中忠三郎・犬塚幹士，2006.7，福島県立博物館企画展図録「布の声をきく」. 87p，福島県立博物館。

川延安直，2007.3，鈴木亮平筆「白虎隊自刃の図」習作スケッチ 一戦後の白虎隊自刃図の一作例一. 福島県立博物館紀要，第21号，p.143-150，福島県立博物館。

柳田直美・川延安直，2007.3，徳川記念財団所蔵徳川幕府歴代将軍画像について. 福島県立博物館紀要，第21号，p.151-162，福島県立博物館。

木本元治，2007.3，「春秋左氏伝」と「公羊伝」に見る異民族. 福島県立博物館紀要，第21号，p.27-46，福島県立博物館。

佐々木長生，2007.3，『会津農書』にみる村落風景 一『会津幕之内誌』と『佐瀬家記録』を中心に一. 福島県立博物館紀要，第21号，p.77-100，福島県立博物館。

佐治 靖，2007.3，開発と自然 そしてマイナー・サブシステム 一浅瀬の海のタコ漁を事例に一. ビオストーリー，第5号，p.98-130. 生き物文化誌学会。

佐治 靖，2007.3，阿武隈高地におけるニホンミツバチの伝統的養蜂. 福島県立博物館紀要，第21号，p.47-67，福島県立博物館。

佐治 靖，2007.3，エイノバンバの生活誌

1. 福島県立博物館紀要, 第21号, p.101-141, 福島県立博物館.
- 佐藤洋一・井 憲治・福田秀生・堤 仙匡・芳賀英一・吉田 功・菅原祥夫・佐藤 啓・今野 徹・林紘太郎, 2007. 3, 第1章 遺跡分布調査の概要. 福島県内遺跡分布調査報告13, 福島県文化財調査報告書第440集, p.1-3, 福島県教育委員会.
- 高橋 充・阿部綾子・川延安直・小林めぐみ・中岡 進・柳田直美・徳川典子・藤田英昭・小林 明, 2006. 9, 福島県立博物館 若松城天守閣 共同企画展 展示解説図録「徳川将軍家と会津松平家」. 139p, 福島県立博物館.
- 高橋 充, 2006.11, 築田家文書 御用・公用日記, 第二巻, 歴史春秋社.
- 坂内三彦・佐藤健郎・渡部正俊・若林 繁・高橋 充・山崎四朗・小林清治, 2007. 2, 第二編中世. 塩川町史 第四巻, 資料編Ⅱ 古代・中世・近世, p.52-63, 喜多方市.
- 竹谷陽二郎, 2007. 2, 序章 西会津の自然. 西会津町史 第1巻 通史Ⅰ (原始・古代・近世・中世), p.1-21, 西会津町.
- 藤原妃敏, 2006. 4, ふくしまの曙, 旧石器時代・縄文時代・弥生時代. 歴春ふくしま文庫, 49, 182p., 歴史春秋社.
- 藤原妃敏, 2007. 1, 太古の会津・旧石器時代の会津. 会津若松市史1 あいづのあけぼの, 石器から古墳の時代へ, p.2-15, 会津若松市.
- 松田隆嗣, 2006.10, シリーズ5 森林文化, 出土品からみた木の文化(1) 特徴と保存. 林業福島, No.507, p.7, 社団法人福島県林業協会.
- 松田隆嗣, 2006.11, シリーズ6 森林文化, 出土品からみた木の文化(2) 針葉樹 モミ. 林業福島, No.508, p.8, 社団法人福島県林業協会.
- 松田隆嗣, 2007. 2, シリーズ9 森林文化, 土品からみた木の文化(3) 広葉樹 ブナ ケヤキ. 林業福島, No.511, p.8, 社団法人福島県林業協会.
- 松田隆嗣, 2007. 3, シリーズ10 森林文化, 出土品からみた木の文化(4) 特徴と保存. 林業福島, No.512, p.7, 社団法人福島県林業協会.
- 横須賀倫達・木本元治・高橋 満・佐々木長生・川延安直・小林めぐみ・関口 功, 2006. 4, 福島県立博物館平成18年度第1回企画展図録「馬と人との年代記 -大陸から日本、そして福島へ-」. 122p., 福島県立博物館.
- 横須賀倫達, 2007. 3, 集落を囲む溝 -陸奥南部における大化前代の一様相-. 茂木雅博(編), 日中交流の考古学, p.191-208, 同成社.
- 横須賀倫達, 2007. 3, 勿来金冠塚出土遺物の調査Ⅲ -装身具類・土器類・武具類(追加)と古墳の評価-. 福島県立博物館紀要, 第21号, p.1-26, 福島県立博物館.
2. 学会発表
- 松田隆嗣, 2006. 6, 福島県立博物館におけるI P Mの導入について. 文化財保存修復学会第28回大会研究発表要旨集, p.18-19, 文化財保存修復学会.
- 松田隆嗣, 2006. 6, 福島県須賀川市仏坊古墳群12号墳出土箱式石棺の切り取り・保存処理. 文化財保存修復学会 第28回大会研究発表要旨集, p.246-247, 文化財保存修復学会.
- (イ) 他団体による委嘱等
- 阿部綾子: 青森県史編纂委員 青森県
阿部綾子: 塩川町史編纂委員 喜多方市
阿部綾子: 北会津村史編纂委員 会津若松市
榎 陽介: 塩川町史編纂委員 喜多方市
榎 陽介: 相馬市史執筆委員 相馬市
木本元治: 西会津町史執筆委員 西会津町
木本元治: 塩川町史編纂委員 喜多方市
川延安直: 喜多方市美術品収集委員 喜多方市
小林めぐみ: 飯野町史編纂委員 飯野町
小林めぐみ: 伊南村史編纂委員 南会津町
佐々木長生: 小高町史執筆委員 南相馬市
佐々木長生: 相馬市史執筆委員 相馬市
佐々木長生: 人類文化研究のための非文字資料の体系化 神奈川大学
佐治 靖: ドメスケーション研究会共同研究 国立民族学博物館
佐治 靖: 科学研究費特定領域「資源人類学」共同研究
高橋 充: 資料館建設委員会委員 会津坂下町
高橋 充: 塩川町史編纂委員 喜多方市
高橋 充: 伊南村史編纂委員 南会津町
高橋 充: 二本松城調査指導委員会委員 二本松市
高橋 充: 向羽黒城整備委員会委員 会津美里町
高橋 充: 北会津村史編纂委員 会津若松市
竹谷陽二郎: 幾春別川ダム化石保全検討委員

会調査部会委員 北海道開発局
竹谷陽二郎：相馬市史執筆委員 相馬市
藤原妃敏：会津若松市文化財保護審議委員
会津若松市
藤原妃敏：塩川町史編纂委員 喜多方市
藤原妃敏：原町市史編纂専門研究員 原町市
藤原妃敏：新鶴民俗資料館運営委員 会津美
里町
松田隆嗣：会津藩松平家墓所保存整備指導会
議委員 会津若松市

松田隆嗣：会津藩主松平家墓所保存修理検討
会委員 猪苗代町
森 幸彦：原町市史編纂専門研究員 原町市
森 幸彦：文科省体験プログラム支援事業「ま
ほろん鉄づくり」指導 文化財センター白
河館
(ウ) **研究助成金等**
川延安直：美術に関する調査研究. 鹿島美術
財団

5. 教育普及事業

(1) 講座・講演会

当館では、館長と学芸員自らおよび外部講師

に依頼し、一般県民向けの各種の講座や講演会を実施している。

平成18年度行事一覧

1. 木曜の広場

テ	マ	講 師	講師所属	期 日	参加者数
博物館再発見 1	磐梯山の噴火	赤坂憲雄 竹谷陽二郎	館長 学芸員	4月20日(木)	56
博物館再発見 2	近世の絵画「会津と白河」	赤坂憲雄 川延安直	館長 学芸員	5月18日(木)	60
博物館再発見 3	大名の学問	赤坂憲雄 小林めぐみ	館長 学芸員	6月15日(木)	65
博物館再発見 4	『近世展示』を解剖する	赤坂憲雄 佐治 靖	館長 学芸員	7月20日(木)	65
博物館再発見 5	会津のオンパ様	赤坂憲雄 榎 陽介	館長 学芸員	8月17日(木)	62
博物館再発見 6	戦争と人々の暮らし	赤坂憲雄 関口 功	館長 学芸員	10月5日(木)	53
博物館再発見 7	城下の暮らし	赤坂憲雄 阿部綾子	館長 学芸員	10月19日(木)	58
博物館再発見 8	板碑について	赤坂憲雄 高橋 充	館長 学芸員	11月16日(木)	62
博物館再発見 9	恵日寺絵図を読む	赤坂憲雄 木田 浩	館長 学芸員	12月21日(木)	93
博物館再発見10	大陸からふくしまへ	赤坂憲雄 横須賀倫達	館長 学芸員	1月18日(木)	63
博物館再発見11	縄文社会	赤坂憲雄 高橋 満	館長 学芸員	2月15日(木)	61
博物館再発見12	縄文時代の信仰	赤坂憲雄 森 幸彦	館長 学芸員	3月15日(木)	92

2. 考古学講座

テ	マ	講 師	講師所属	期 日	参加者数
縄文土器をつくろう		高橋 満	学芸員	8月19日(土)	24
縄文土器の野焼き		森 幸彦・高橋 満	学芸員	10月1日(日)	24
勾玉をつくろう		藤原妃敏	学芸員	11月12日(日)	35

3. 民俗講座

テ	マ	講 師	講師所属	期 日	参加者数
記録映像を見る 1	「只見川流域の雛流し」	榎 陽介	学芸員	5月2日(火)	21
民俗映像を見る 2	「①わら人形を作る ②只見の漁と鮎」	榎 陽介	学芸員	5月13日(土)	10
民俗映像を見る 3	「カンゼンブシとフカグツゲンベエ」	榎 陽介	学芸員	6月3日(土)	15
藍染めをやってみよう		澤田けい子	奥会津地方歴史 民俗資料館学芸員	7月28日(金)	19
会津の職人巻物の民俗的世界		佐々木長生	学芸員	1月28日(日)	85
会津の野鍛冶		鈴木克彦	学芸員	2月4日(日)	50

4. 歴史講座

テ マ	講 師	講師所属	期 日	参加者数
シリーズ会津藩①「土津神社と会津松平家」	高橋 充	学芸員	6月10日(土)	95
シリーズ会津藩② 「將軍家の元服儀礼と会津藩主」	高橋 充	学芸員	7月8日(土)	90
シリーズ会津藩③「松平容保書状とその周辺」	阿部綾子	学芸員	8月12日(土)	60
シリーズ会津藩④ 「会津藩の諜報活動—会義隊隊長の回顧録を読む—」	木田 浩	学芸員	9月9日(土)	93
史跡探訪「若松城を歩く」	高橋 充 木田 浩ほか	学芸員	10月14日(土)	36
身近な歴史を発見しよう 1	歴史分野	学芸員	2月10日(土)	13
身近な歴史を発見しよう 2	歴史分野	学芸員	2月17日(土)	13
身近な歴史を発見しよう 3	歴史分野	学芸員	3月3日(土)	13
身近な歴史を発見しよう 4	歴史分野	学芸員	3月11日(日)	12

5. 美術講座

テ マ	講 師	講師所属	期 日	参加者数
近くで楽しむ博物館収蔵品ガイド 1 洛中洛外図屏風と小袖	川延安直・小林めぐみ	学芸員	4月28日(金)	25
近くで楽しむ博物館収蔵品ガイド 2 松平定信像と『集古十種』	川延安直・小林めぐみ	学芸員	5月19日(金)	19
近くで楽しむ博物館収蔵品ガイド 3 浦上玉堂と七絃琴	川延安直・小林めぐみ	学芸員	6月16日(金)	28
やきものの本質を知る 宗像窯で作るMY茶碗 1	宗像利浩	宗像窯 8代目当主	6月18日(日)	12
やきものの本質を知る 宗像窯で作るMY茶碗 2	宗像利浩	宗像窯 8代目当主	7月16日(日)	11
近くで楽しむ博物館収蔵品ガイド 4 秦西王侯騎馬図屏風と蒔絵洋櫃	川延安直・小林めぐみ	学芸員	7月21日(金)	24
近くで楽しむ博物館収蔵品ガイド 5 軍記物語絵と甲冑	川延安直・小林めぐみ	学芸員	10月20日(金)	25
近くで楽しむ博物館収蔵品ガイド 6 飲中八仙図と酒器	川延安直・小林めぐみ	学芸員	11月17日(金)	23
うるしの技に挑戦 金継ぎ 1	二瓶和男	会津工芸新生会	11月19日(日)	13
うるしの技に挑戦 金継ぎ 2	二瓶和男	会津工芸新生会	11月26日(日)	12
会津型紙でカレンダー作り 1	冠木昭子他 1	喜多方染織グル ープれんが代表	12月2日(土)	15
会津型紙でカレンダー作り 2	冠木昭子他 1	喜多方染織グル ープれんが代表	12月3日(日)	15
近くで楽しむ博物館収蔵品ガイド 7 阿弥陀来迎図と法華経	川延安直・小林めぐみ	学芸員	12月15日(金)	56

6. 自然史講座

テ マ	講 師	講師所属	期 日	参加者数
化石をさがそう	竹谷陽二郎・相田 優 ・星 幸	学芸員	5月27日(土)	33
化石標本をつくろう	相田 優・竹谷陽二郎 ・星 幸	学芸員	5月28日(日)	26
鶴ヶ城の野鳥	古川裕司	学芸員	11月19日(日)	39

7. 保存科学講座

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加者数
見えない光で資料を調べる ー赤外線写真・X線写真を用いた資料調査の実際ー			松田隆嗣		学芸員	10月7日(土)		7

8. ふくしまを知る講座

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加者数
向羽黒山城を歩く			高橋	充ほか	学芸員	5月20日(土)		32

9. 指導者向け研修講座

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加者数
福島県立博物館研修講座			木田	浩	学芸員	8月4日(金)		12

10. 体験講座

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加者数
昔話を語ろう			横山	幸子	語り部	8月6日(日)		15
おもちゃをつくろう「まわり灯籠をつくろう」			小島	明美ほか	展示解説員	8月14日(月)		25
からむしの糸作り			昭和村の織姫の皆さん		昭和村の織姫	8月21日(月)		45
綿の糸紡ぎ			NPO法人はるなかの皆さん		NPO法人はるなか	8月21日(月)		33
草木染め1			山根正平・山根好子		染織工芸家	8月26日(土)		13
草木染め2			山根正平・山根好子		染織工芸家	8月27日(日)		13
わらざうりをつくろう			鈴木	幸雄	伝統技術保持者	11月11日(土)		19
おもちゃをつくろう「すりこぎトンボをつくろう」			國府	由美子ほか	展示解説員	11月18日(土)		18
おもちゃをつくろう「てくてくカメさんをつくろう」			幕田	しのぶほか	展示解説員	3月10日(土)		25

11. 伝統技術実演

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加者数
須賀川の絵のぼり製作			大野	青峰・大野弘子	伝統技術保持者	5月3日(水)		75

12. 実演

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加者数
昔語り			横山	幸子	語り部	4月23日(日)		20
機織り			山根	正平	染織工芸家	4月30日(日)		33
昔語り			山田	登志美	語り部	5月4日(日)		30
昔語り			横山	幸子	語り部	6月25日(日)		22
昔語り			山田	登志美	語り部	7月23日(日)		30
機織り			山根	正平	染織工芸家	8月13日(日)		25
昔語り			山田	登志美	語り部	8月20日(日)		30
昔語り			横山	幸子	語り部	9月24日(日)		12
会津の唐人凧づくり			鈴木	英夫	伝統技術保持者	10月15日(日)		15
三島の編組細工			長谷川	テル子	伝統技術保持者	10月29日(日)		27
注連縄づくり			鈴木	幸雄	伝統技術保持者	12月17日(日)		20
昔語り			山田	登志美	語り部	3月25日(日)		48

13. 企画展記念講演会

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加者数
あなたも馬博士に「馬がウマれて日本にくるまで」			穴沢	味光	福島県考古学会副会長	5月14日(日)		92
北の衣の文化			田中	忠三郎	青森中央学院大学講師	7月29日(土)		93
天下泰平の終焉ー悲劇の会津松平家と徳川将軍家ー			徳川	恒孝	徳川記念財団理事長	10月1日(日)		285
戊辰戦争前後の会津			松尾	正人	中央大学教授	10月8日(日)		240

14. 企画展記念公演

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加者数
馬頭琴コンサート		「白い馬」	バヤラト	& サローラ	演奏者	4月29日	(土)	280

15. 企画展関連講座

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加者数
やさしい馬講座		「日本書紀と馬の考古学」	横須賀	倫達	学芸員	5月7日	(日)	40
やさしい馬講座		「馬鹿」の語源～古代中国の馬と故事成語～	木本	元治	学芸員	6月4日	(日)	38

16. 企画展展示解説会・展示解説日

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加者数
探検！馬の世界～学芸員と巡る展示ツアー			横須賀	倫達	学芸員	4月29日	(土)	30
探検！馬の世界～学芸員と巡る展示ツアー			横須賀	倫達	学芸員	5月7日	(日)	22
探検！馬の世界～学芸員と巡る展示ツアー			横須賀	倫達	学芸員	5月14日	(日)	28
探検！馬の世界～学芸員と巡る展示ツアー			木本	元治	学芸員	6月4日	(日)	8
探検！馬の世界～学芸員と巡る展示ツアー			横須賀	倫達	学芸員	6月11日	(日)	10
布の声をきく			榎	陽介・佐々木長生	学芸員	7月29日	(土)	50
布の声をきく			榎	陽介・佐々木長生	学芸員	8月6日	(日)	25
布の声をきく			榎	陽介・佐々木長生	学芸員	8月14日	(月)	15
布の声をきく			榎	陽介・佐々木長生	学芸員	9月3日	(日)	23
徳川将軍家と会津松平家			柳田	直美	徳川記念財団学芸員	9月30日	(土)	80
徳川将軍家と会津松平家			高橋	充・阿部綾子	学芸員	11月4日	(土)	80
徳川将軍家と会津松平家			高橋	充・阿部綾子	学芸員	11月5日	(日)	100

17. ふくしまけんぱく四季のイベント

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加者数
日本最古の笛と世界最古の民族楽器			天田	透・荒井ABO誠	演奏家	9月23日	(土)	160
クリスマスコンサートと朗読－森に寄せて－			会津大管弦楽団Dolce	前田智子	会津大サークル 作詞家	12月16日	(土)	325

18. はくぶつかんで遊ぼう！

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加者数
こいのぼりをつくろう！			大竹	さやかほか	展示解説員	5月5日	(金)	99
七夕かざりをつくろう！			大竹	さやかほか	展示解説員	7月2日	(日)	74
おもしろ実験室☆水の結晶をつくろう！			柏木	由佳野ほか	展示解説員	10月8日	(日)	97
クリスマスカードをつくろう！			大竹	さやかほか	展示解説員	12月10日	(日)	115
鬼の面をつくろう！			遠藤	智子ほか	展示解説員	2月3日	(土)	71

19. その他の共催事業

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加者数
馬と猿との年代記 第1部 「猿まわし一座がやってきた!」			周防猿まわしの会		周防猿まわしの会	6月8日	(木)	700
馬と猿との年代記 第2部 「馬をめぐるフォークロア」			赤坂憲雄 佐々木長生		館長 学芸員	6月8日	(木)	80
NPO法人はるなか講演会「桜と自然」			花と緑の研究所研究員		小山 徹	8月27日	(日)	35
NPO法人はるなか桜守養成講座			花と緑の研究所研究員		小山 徹	8月27日	(日)	40
NPO法人はるなか 「世界の甲虫と福島昆虫展」			NPO法人はるなか		NPO法人はるなか	9月15日 ～24日	(土) (日)	
NPO法人はるなか講演会 「昆虫の世界－なぜ大きくならないの?－」			大谷	剛	兵庫県立大学教授	9月23日	(土)	90

テ　　ー　　マ	講　　師	講師所属	期　　日	参加者数
NPO法人はるなか講演会「会津漆器の後」	エルマー・ヴァインマイヤー	ギャラリー日々主宰	2月18日(日)	84
会津史学会公開講演会「会津の城館」	石田明夫	日本考古学会員	10月28日(土)	180
会津史談会公開講演会「旅人たちの見た会津の民俗ー古松軒・泉光院・パードの旅からー」	佐々木長生	学芸員	12月7日(木)	133



木曜の広場「縄文時代の信仰」



考古学講座「勾玉をつくろう」



歴史講座「身近な歴史を発見しよう」



美術講座「近くで楽しむ博物館収蔵品ガイド」



自然史講座「鶴ヶ城の野鳥」



体験講座「わらぼうりをつくろう」



体験講座「まわり灯籠をつくろう」



実演「注連縄づくり」



はくぶつかんで遊ぼう！「七夕かざりをつくろう」

★四季のイベント

地域に開かれた親しみやすい博物館を目指すため、「四季のイベント」と称し、エントランスホールを中心にして、2つのイベントを試行的に開催した。

「日本最古の笛と世界最古の民族楽器」

1. 日時 平成18年9月23日(土) 午後1時30分～3時
2. 会場 エントランスホール
3. 参加者数 160名
4. 出演 天田 透氏 (横笛・フルート奏者)、荒井ABO誠氏 (ディジュリドゥー奏者)
5. 内容

玉川村江平遺跡から出土した奈良時代の横笛の復元品演奏を中心として、オーストラリア原住民アボリジニの民族楽器とコラボレーションを行った。また、世界でも演奏者がほとんどいないバスフルートとディジュリドゥーのセッションも行った。演奏者の天田透さんはドイツ在住のフルーティストで「江平の笛」復元に尽力された方である。荒井ABO誠さんは東京のライブハウスオーナーで、二

人とも著名な即興ジャズ演奏家である。予算的裏付けが無かったことから伝統技術実演の旅費・謝金で対応したため、ほとんどボランティア参加といってよい。

6. 成果

①今回の企画は音楽（ジャズ）愛好者を対象に博物館への感心を深めていただくというねらいであった。しかしこれは対象への有効な広報方法を見出すことができず、成功したとは言えなかった。

②むしろ普段からの博物館利用者が古代音楽への興味から多数来館し聴講したと言える。観覧者動員という点では効果を挙げ、聴講者からはきわめて感動的だったという声が多数寄せられた。

③博物館での定期的イベント実施への布石ともなった。

「クリスマスコンサートと朗読－森にのせて－」

1. 日時 平成18年12月16日(土) 午後1時30分
2. 会場 エントランスホール
3. 参加者数 325名
4. 出演 前田智子氏・会津大学管弦楽団Dolce
5. 内容
演奏：威風堂々・G線上のアリア・星に願いを
朗読：月夜の食卓（前田智子作）・おおきな木（長田弘作）他
6. 成果

300人を超える参加者があり、博物館の知名度が大きく向上した。

講師として地域住民が参加したことで、博物館と利用者の連携が深まった。

(2) 体験学習室

エントランスホールの脇に配置された無料空間。昔のおもちゃで遊んだり、昔の着物を着た

りできる体験コーナー。また、資料を実際に手にとって触ったりできるハンズオンコーナーもある。ここには展示解説員が常駐し、来館者に応対している。



体験学習室

1. 体験試着コーナー

体験件数 1623件

展示衣装 春：当世具足・水干・打掛・半袴

夏：小袖・推古朝・古墳男子・天武朝女子

秋：町人旅・武士旅・へん綴・壺装束

冬：山伏・直垂・白拍子

着付けた衣装などの写真を撮影、体験学習室内に掲示。希望者に配布した。



春衣装試着

2. ハンズオンコーナー

① 4月～9月 化石にさわってみよう

化石ハンズオン資料一覧

No	資料名	学名・英名	産地	地質時代	地層名
1	ユウパタングス (ウニ)	<i>Eupatagus antillarum</i>	アメリカ合衆国フロリダ州	新生代古第三紀漸新世	
2	ハタイスルボウ (二枚貝)	<i>Anadara hataii</i>	福島県棚倉町・塙町	新生代新第三紀中新世	
3	アルゴベクテン (二枚貝, ホタテガイのなかま)	<i>Argopecten evergladensis</i>	アメリカ合衆国フロリダ州	新生代新第三紀中新世	
4	カルカロクレス (サメの歯)	<i>Carcharocles megalodon</i>	アメリカ合衆国サウスカロライナ州	新生代新第三紀中新世	
5	クリペアスター (ウニ)	<i>Clypeaster</i> sp.	イタリヤ	新生代新第三紀中新世	
6	ラムナ (サメの歯)	<i>Lamna obliclia</i>	モロッコ	新生代新第三紀中新世	
7	珪化木 (カシのなかま)	Petrified Wood (Oak)	アメリカ合衆国オレゴン州	(新生代新第三紀中新世?)	
8	ウバトリガイ (二枚貝)	<i>Serripes groenlandicus</i>	福島県棚倉町・塙町	新生代新第三紀中新世	
9	ホタテガイ (二枚貝)	<i>Mizuhopecten pseudoyessoensis</i>	福島県広野町	新生代新第三紀鮮新世	大年寺層
10	オオヘビガイ (巻貝)	<i>Serpulorbis</i> sp.	福島県広野町	新生代新第三紀鮮新世	大年寺層
11	ナガウバガイ (二枚貝)	<i>Spisula voyi</i>	福島県広野町	新生代新第三紀鮮新世	大年寺層
12	テレブラチュウラ (腕足類)	<i>Terebratula ampulla</i>	スペイン	新生代新第三紀鮮新世	
13	バイソンのかかとの骨	Bison bones	アメリカ合衆国ネブラスカ州	新生代第四紀更新世	
14	バイソンの脊椎骨	Bison bones	アメリカ合衆国ネブラスカ州	新生代第四紀更新世	
15	バイソンの角	Bison bones	アメリカ合衆国ネブラスカ州	新生代第四紀更新世	

No	資料名	学名・英名	産地	地質時代	地層名
16	方解石化した巻貝の殻		インドネシア	新生代第四紀更新世	
17	オキシジミ (二枚貝)	<i>Cyclina sinensis</i>	福島県小高町	新生代第四紀更新世	
18	石灰岩中のアンモナイト	Ammonite in limestone	ドイツ	中生代ジュラ紀	
19	ベレムナイト (矢石類, イカやタコのなかま)	<i>Belemnitida</i> gen. et sp. indet.	ロシア モスクワ	中生代ジュラ紀	
20	恐竜のウンチ	Coprolite	アメリカ合衆国ユタ州	中生代ジュラ紀	
21	ダクティリオセララス (アンモナイト)	<i>Dactyloceras</i> sp.	ドイツ	中生代ジュラ紀	
22	ローファ (二枚貝, カキのなかま)	<i>Lopha marshii</i>	フランス	中生代ジュラ紀	
23	リコプテラ (硬骨魚類)	<i>Lycoptera</i> sp.	中華人民共和国遼寧省	中生代ジュラ紀	
24	オルソスフィンクテス (アンモナイト)	<i>Orthosphinctes</i> sp.	マダガスカル	中生代ジュラ紀	
25	パキテウシス (矢石類, イカやタコのなかま)	<i>Pachyteuthis</i> sp.	ロシア ミハイロフ	中生代ジュラ紀	
26	ペリスフィンクテス (アンモナイト)	<i>Perisphinctes</i> sp.	フランス	中生代ジュラ紀	
27	リンコネラ (腕足類)	<i>Rynchonella</i> sp.	フランス	中生代ジュラ紀	
28	エコネセララス (アンモナイト)	<i>Aconeceras trautscholdi</i>	ロシア サラトフ	中生代白亜紀	
29	クレオニセララス (アンモナイト)	<i>Cleoniceras</i> sp.	マダガスカル	中生代白亜紀	
30	恐竜の卵の殻	Dinosaur egg	アルゼンチン	(中生代白亜紀?)	
31	エキノコリス (ウニ)	<i>Echinocorys</i> sp.	ドイツ	中生代白亜紀	
32	ユウアスピドセララス (アンモナイト)	<i>Euaspidoceras douvillei</i>	フランス	中生代白亜紀	
33	グリフエア (二枚貝)	<i>Gryphea arcuata</i>	イギリス	中生代白亜紀	
34	ホライテス (アンモナイト)	<i>Hoplites bennettianus</i>	フランス	中生代白亜紀	
35	ホプロスカフイテス (アンモナイト)	<i>Hoploscapites</i> sp.	アメリカ合衆国サウスダコタ州	中生代白亜紀	
36	リパロセララス (アンモナイト)	<i>Liparoceras</i> sp.	イギリス	中生代白亜紀	
37	ミクラスター (ウニ)	<i>Micraster</i> sp.	ドイツ	中生代白亜紀	
38	モササウルスの歯 (海生ハチュウ類)	Mosasaurus teeth	モロッコ	中生代白亜紀	
39	プロライエリセララス (アンモナイト)	<i>Prolylliceras</i> sp.	ペルー	中生代白亜紀	
40	スピノサウルスの歯 (海生ハチュウ類)	Spinosaurus teeth	モロッコ	中生代白亜紀	
41	アトリッパ (腕足類)	<i>Atryper</i> sp.	中華人民共和国	(古生代)	
42	アサファス (三葉虫)	<i>Asaphus raniceps</i>	ロシア ボルコフ	古生代オルドビス紀	
43	ダクティナ (三葉虫)	<i>Ductina vietnamica</i>	中華人民共和国広西壮族自治区	古生代デボン紀	
44	リトウイテス (オウムガイ)	<i>Lituites</i> sp.	中華人民共和国	古生代デボン紀	
45	ネオメタカンサス (三葉虫)	<i>Neometacanthus</i> sp.	モロッコ	古生代デボン紀	
46	オルソスピリファー (腕足類)	<i>Orthospirifer oweni</i>	アメリカ合衆国インディアナ州	古生代デボン紀	
47	ファコプス (三葉虫)	<i>Phacops</i> sp.	モロッコ	古生代デボン紀	
48	ストリンゴセファルス (腕足類)	<i>Stringocephalus</i> sp.	中華人民共和国雲南省	古生代デボン紀	
49	ウォックルメリア (アンモナイト)	<i>Wocklumeria</i> sp.	モロッコ	古生代デボン紀	

その他、約20点ほどの化石を展示した。

②10月～3月 民具をはいてみよう

民具ハンズオン資料一覧

No.	資料名
1	丸カンジキ
2	爪カンジキ
3	ゲンベエ
4	ワラ長靴
5	ワラジ
6	足半
7	雪踏俵
8	蓑
9	菅笠



踏み俵



わら靴

3. 季節行事に関する手作り資料の展示

- 7月 七夕飾り 12月 クリスマスツリー
1月 団子さし 3月 手作り雛人形



手作り雛人形

(3) 学校教育との連携

学校および文化施設との連携をはかり、次の事業を実施している。

(ア) 展示室での自主学習

1. 博物館見学のしおり (小・中学生用)

クイズ形式のワークシート。常設展示を見学して書き込みながら学べるように構成されている。展示資料をよく観察することによって様々な考え方・まとめ方ができる内容。小・中学生の個人および団体来館者に無償配布している。



博物館見学のしおり

2. ワークシート

ホームページからダウンロードでき、利用する団体の学習目的にあわせて使用できる。常設展示室のテーマごとの主な展示品を題材にして、クイズ形式で作成している。

(イ) 体験学習メニュー

来館した児童生徒が博物館資料を直接観察することで、多様なものの見方、考え方を育てることに有効であるとの主旨から、「古代の技に挑戦 (考古)」「化石にふれてみよう (自然)」「糸紡ぎ (民俗)」「度量衡の統一と農民の暮らし (歴史)」という体験メニューを用意した。

実施状況 (分野・回数)

4月 (考古・1回、歴史・1回) 5月 (考

ゲストティーチャー実施一覧

月 日	講 師	内 容	実 施 先
6月25日	木田 浩	戦国時代	湯川町立箕川小学校
7月5日	木田 浩	戦国時代	会津坂下町立坂下小学校
9月9日	森 幸彦	柳津縄文探検	会津若松市立謹教小学校
10月4日	竹谷陽二郎	化石採集とクリーニング	伊達市立栗野・白根小学校
10月12日	相田 優	東山の化石について	会津慈光幼稚園
10月18日	相田 優	東山の化石について	会津慈光第二幼稚園
10月21日・11月18日	森 幸彦・高橋 満・横須賀倫達	土器造り	ザベリオ学園小学校

古・4回、歴史・1回) 6月(考古・3回、歴史・1回) 7月(自然・1回、民俗・1回、歴史・1回) 8月(考古・1回) 9月(考古・1回) 10月(考古・1回、自然・1回) 11月(自然・2回、歴史・1回) 合計 21回



古代の技に挑戦(土器づくり)



化石にふれてみよう

(ウ) 指導者向け研修(博物館研修講座)

学校教員や文化施設の学習担当者を募集し、博物館の利用方法を案内するとともに、学校や公民館等での体験授業や体験講座の実施の支援となるべく、博物館で行っている講座の実践例やノウハウを紹介した。

平成18年8月4日(金) 参加者12名

(エ) 体験用具の貸出

歴史資料や自然資料を用いた体験授業を支援するため、学校に博物館資料の貸出を行っている。

用具貸出状況

11月9日 化石・岩石採集用ハンマー・タガネ 郡山市立薫小学校

(オ) ゲストティーチャー

博物館学芸員の専門知識や経験を館外でも活用するために、学校の要請に沿って現地に赴き、体験学習を中心とした授業を実施した。



ゲストティーチャー(箕川小学校にて)

(カ) 職場体験

児童生徒の適切な進路選択に寄与すべく、学校からの要請を受け入れ、実際に博物館業務を体験させた。

- ①会津美里町立高田第一中学校(3名)施設および学芸員の仕事状況見学及び体験
- ②北塩原村立第一小学校(1名)施設および学芸員の仕事状況見学及び体験
- ③福島県立会津養護学校(1名)図書ラベル貼り、コンピュータ入力作業など

(キ) 博物館実習

大学における学芸員資格取得のための「博物館実習」を実施。県内の大学生および県内出身の大学生を受け入れている。



職場体験

人数 14名

実習期間 8月29日(火)～9月3日(日)

実習生所属大学一覧

No	大 学 名	人 数
1	成蹊大学	1
2	専修大学	1
3	茨城大学	2
4	新潟大学	4
5	国土館大学	1
6	米沢女子短大学	1
7	東北芸術工科大学	1
8	駒澤大学	1
9	佛教大学	1
10	神奈川大学	1
	合 計	14

博物館実習プログラム

月 日 (曜)	時 間	内 容	担 当	場 所
8月 29日 (火)	8:50～9:00	出席確認・事前連絡	資料整理班 (関口)	第2会議室
	9:00～	実習生紹介	資料整理班 (関口)	事務室
	9:10～9:30	オリエンテーション	資料整理班 (関口)	第2会議室
	9:40～10:30	博物館の概要	学芸課長	第2会議室
	10:40～12:00	博物館の設備 —昼食—	資料整理班 (関口)	館内
	13:00～15:20	常設展・企画展観覧(自由観覧)		展示室
30日 (水)	15:30～16:30	展示を観覧して(感想・質問等)	資料整理班 (相田・木本・関口・阿部)	第2会議室
	16:40～	諸連絡、実習日誌の作成・提出	資料整理班 (関口)	第2会議室
	9:05～	出席確認・諸連絡	資料整理班 (関口)	第2会議室
	9:10～10:00	博物館の資料と調査研究	資料整理班 (相田)	第2会議室
	10:10～11:00	資料保存の科学	保存科学 (松田)	第2会議室
	11:10～12:00	自然資料について —昼食—	自然分野 (竹谷・相田・星)	第2収蔵庫
31日 (木)	13:00～16:30	自然資料の取り扱い 諸連絡、実習日誌の作成・提出	自然分野 (竹谷・相田・星) 資料整理班 (関口)	第2収蔵庫 第2会議室
	9:05～	出席確認・諸連絡	資料整理班 (関口)	第2会議室
	9:10～10:00	リニューアルに向けて	企画・運営班 (森)	第2会議室
	10:10～11:00	博物館の広報普及活動	学習・広報班 (鈴木)	第2会議室
	11:10～12:00	美術資料について —昼食—	美術分野 (川延・小林)	第2会議室
	13:00～16:30	美術資料の取り扱い 諸連絡、実習日誌の作成提出	美術分野 (川延・小林) 資料整理班 (関口)	第2会議室 第2会議室
9月 1日 (金)	9:05～	出席確認・諸連絡	資料整理班 (関口)	第2会議室
	9:10～10:00	博物館の学習支援活動	学習・広報班 (佐々木)	第2会議室
	10:10～11:00	図書資料の整理・登録・管理	資料整理班 (相田・小林・渡辺)	第2会議室
	11:10～12:00	民俗資料について —昼食—	民俗分野 (佐々木・榎・鈴木)	第1収蔵庫
	13:00～16:30	民俗資料の取り扱い 諸連絡、実習日誌の作成提出	民俗分野 (佐々木・榎・鈴木) 資料整理班 (関口)	第1収蔵庫 第2会議室
	2日 (土)	9:05～	出席確認・諸連絡	資料整理班 (関口)
9:10～10:00		博物館の展示	展示班 (榎)	第2会議室
10:10～11:00		図書資料の整理・登録・管理	資料整理班 (相田・渡辺)	図書室
11:10～12:00		歴史資料について —昼食—	歴史分野 (阿部・森田)	第2会議室
13:00～16:30		歴史資料の取り扱い 諸連絡、実習日誌の作成提出	歴史分野 (阿部・森田) 資料整理班 (関口)	第2会議室 第2会議室
3日 (日)		9:05～	出席確認・諸連絡	資料整理班 (関口)
	9:10～10:00	考古資料について	考古分野 (木本)	第2会議室
	10:10～12:00	考古資料の取り扱い —昼食—	考古分野 (木本・横須賀)	第2収蔵庫
	13:00～14:20	考古資料の取り扱い	考古分野 (木本・横須賀)	第2収蔵庫
	14:30～15:30	実習を終えて(質疑・意見交換)	資料整理班 (相田・木本・関口・阿部)	第1会議室
	15:40～17:00	①実習のまとめ・反省作成提出 ②諸連絡、実習日誌の作成・確認・提出等	資料整理班 (関口)	第2会議室

(4) 生涯学習・研究支援

(ア) 相談コーナー

エントランスホール内に配置された無料空間。展示図録・報告書・紀要など博物館によ



相談コーナー

る刊行物の他、図鑑・辞書など博物館資料に関連した一般図書を2,033冊配架。入館者が自由に閲覧できる。平成18年度は105冊増加した。また、入館者の展示や資料に関する質問や相談に対して、学芸員が答える場でもある。

(イ) 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し実施した。

分野別特別観覧件数

考古分野：1件 歴史分野：19件

美術分野：2件 合計：22件

(ウ) 講師派遣

公民館や研究団体などの他団体から依頼された講座・講演に対して、学芸員および展示解説員を講師として派遣した。

講師派遣状況

月 日	講 師	演 題	主 催
6月16日	榎 陽介	「塩川の民俗（暮らしと仕事）」	喜多方市中央公民館「郷土歴史講座」
5月18日	高橋 充	「戦国時代の武将」	白河市中央公民館『白河文化財教室』
7月27日	木田 浩	「戊辰戦争…会津への道」	白河市中央公民館『白河文化財教室』
7月28日	佐々木長生	「イザベラ・バードの見た会津の民俗」	両沼中学校研究会
10月3日	高橋 充	「徳川家と会津松平家」	会津若松市高齢福祉課「あいづわくわく学園」
10月5日	高橋 充	「徳川家と会津松平家」	会津若松市高齢福祉課「ゆめ寺子屋」
10月26日	高橋 充	「会津藩と徳川將軍家との関係」	猪苗代町公民館
11月17日	佐々木長生 ・木田 浩	「ぐるっと湖南新発見」	湖南公民館
11月19日	木田 浩	「白虎隊が走った道（旧滝沢街道）をゆく」	北会津公民館「とげちょくらぶ」
11月30日	小林めぐみ	「お姫さまの婚礼道具」	白河市中央公民館『白河文化財教室』
2月15日	高橋 充	「歴史こぼれ話」	会津若松市高齢福祉課「ゆめ寺子屋」

6. 広報公聴活動および出版事業

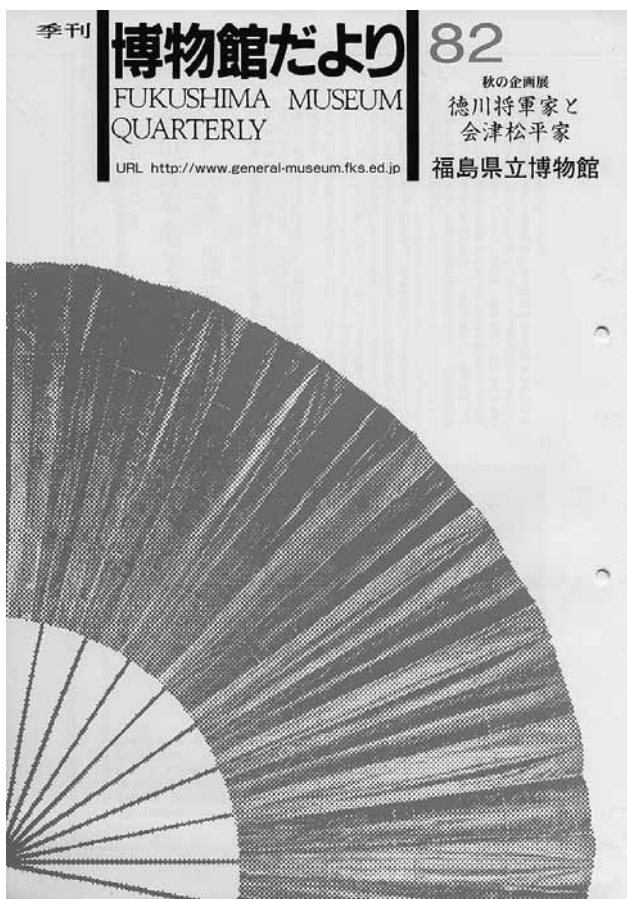
(1) 広報活動

(ア) 広報用印刷物

博物館の広報を目的とする印刷物として、次のものを発行した。

広報用印刷物の印刷部数と送付先

種 類	サイ ズ	印 刷 数	主 な 送 付 先
ポスター	B 2	企画展 3,000枚×3回 移動展 600枚 まほろん移動展 600枚 計 10,200枚	県内小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 博物館友の会会員（町貼り協力者） 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
リーフレット	A 4	企画展 35,000枚×3回 移動展 20,000枚 計 125,000枚	県内および近県の新聞社・放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 博物館友の会会員（町貼り協力者） 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
博物館だより (博物館の広報誌)	A4 8頁	3,500冊×4回=14,000冊	県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の国立・県立図書館・大学図書館 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
年間催し物案内	20×39.3cm 四つ折	45000枚×1回=45,000枚	県内の放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
はくぶつかんニュース	A 4 両面	16,000枚×12回=192,000枚	県内公立小・中・高校 県内私立小・中学校 県内図書館・公民館・教育施設 県内市町村教育委員会 県教育事務所
月行事予定表	A 4	1,200枚×12回=14,400枚	県内および新潟県の新聞社・放送局 県内タウン情報誌 会津若松市記者クラブ 会津若松市・周辺市町村の観光・広報係 県内主要文化施設
投げ込み（企画展の記者発表などマスコミ向けイベント情報の提供）	A 4 (館内印刷)	随時	県内新聞社・放送局・タウン情報誌 場合により近県のマスコミに提供 県政記者クラブ 会津若松市記者クラブ



博物館だより第82号

(イ) 広告

特に企画展等の広報を目的とする広告を下のとおり実施した。

(ウ) ホームページ

当館ではホームページを開設している。ホームページでは、館の利用案内、企画展などのイベント、主な収蔵資料、学校団体が利用する際の手びきなど、各種情報を発信してい

る。また、「博物館だより」や観覧料減免申請書など種々のダウンロードサービスを提供している。

(エ) ニュースメール

当館ではニュースメールを作成し、企画展、テーマ展示、講座、講演会などの催し物の情報などを、随時マスコミ向けに発信している。

平成18年度：Vol.1～Vol.20

(オ) 取材

マスコミによる下記の取材は主要なもののみを掲載した。

①春の企画展「馬と人との年代記―大陸から日本、そして福島へ―」内覧会 4月21日

読売新聞社、朝日新聞社、福島民報社、福島民友新聞社、TUF、VOICE

②秋の企画展「徳川将軍家と会津松平家」事前記者発表 7月6日

朝日新聞社、河北新報社、毎日新聞社、福島民友新聞社、福島民報社、TUF、FCT、NHK、FTV

③夏の企画展「布の声をきく」内覧会 7月21日

朝日新聞社、読売新聞社、毎日新聞社、福島民報社、福島民友新聞社、福島FM

④秋の企画展「徳川将軍家と会津松平家」内覧会 9月29日

読売新聞社、福島民報新聞社、福島民友新聞社、FCT、VOICE、会津嶺

⑤冬の特選資料展「奥会津の職人絵巻」内覧会 1月19日

朝日新聞社、読売新聞社、河北新報社、毎日新聞社、福島民友新聞社、福島民報社、

広告掲載一覧

展示会ほか	看板(駅前・博物館周り)	フラッグ(入口前広場・駐車場)	バスフロントマスク(市内バス)	新聞	タウン情報誌
夏の企画展「布の声をきく」	○		○	福島民報社	
秋の企画展「徳川将軍家と会津松平家」	○		○	福島民報社	
特選資料展「奥会津の職人絵巻」	○		○	福島民報社・福島民友新聞社	
まほろん移動展「新編陸奥国風土記巻之五 会津郡・耶麻郡 その1」	○	○	○	福島民報社・福島民友新聞社・朝日新聞社・読売新聞社	○
第3土曜イベント(平成19年度)				福島民報社・福島民友新聞社	

平成18年度ホームページアクセス件数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
36,131	37,744	34,228	36,863	37,419	37,775	37,804	36,378	35,826	36,687	33,934	25,673

NHK、TUF、VOICE

- ⑥まほろん移動展「新編陸奥国風土記卷之五
会津郡・耶麻郡 その1」内覧会 3月9日

(カ) 報道・記事

主要なものを掲載した。

1. 春の企画展「馬と人との年代記」

①放映

5月2日 FMふくしま「ふくしまイブニングブレイク」

②新聞

4月22日 福島民報「きょうから「馬と人」
展 発掘史料などを紹介」

4月22日 福島民友「「馬」考古遺物200点
公開 県立博物館春の企画展」

4月25日 読売新聞「馬の飼育文化たどる」

4月30日 福島民友「美しい旋律に酔う
若松で馬頭琴コンサート」

5月1日 福島民報「馬頭琴の響き味わう
県立博物館企画展コンサート」

5月15日 福島民報「「馬」の企画展ちな
み講演会」

5月16日 朝日新聞「馬と人 かかわり探
る」

5月31日 朝日新聞（全国版夕刊）「人と
馬のかかわり探る 福島・北海道で企画
展」（執筆者：宮代栄一）

6月9日 毎日新聞「華麗なジャンプに
園児ら大きな拍手 県立博物館で猿回し
一座公演」

6月9日 福島民報「こけし」（コラム、
猿まわしについて）

6月9日 福島民友「奥の細道」（コラム、
猿まわしについて）

③雑誌・情報誌

HORSE・MATE 第48号「馬と人との年代
記—福島県立博物館の企画展から—」（社
日本馬事協会

Hippophile 第26号「福島県立博物館『馬
と人との年代記』訪問記」（小山良太）
日本ウマ科学会

2. 夏の企画展「布の声をきく」

①放映

ふくしまFM「ふくしまイブニングブレイ
ク」

②新聞

7月22日 福島民報「懐かしい「布」への
思い 県立博物館きょうから企画展」

7月22日 福島民友「「布の一生」を紹介
県立博物館きょうから企画展」

7月23日 福島民報「布の変遷から生活回

顧 県立博物館で企画展開始」

7月25日 毎日新聞「明治～昭和初期 布
製品など展示」

8月1日 福島民報「企画展に合わせ講演
会「北の衣の文化」テーマ」

3. 秋の企画展「徳川将軍家と会津松平家」

①放映

FCT「おしえて！うつくしま」事前準備
状況（6月21日取材）

FTV「サタふく」（9月25日取材）

FCT「おしえて！うつくしま」（9月29
日取材）

NHK総合「情報テラス」（10月23日生放送）

②新聞

○会期前

3月4日 福島民報 記事「今秋 初の共
同特別展 市議会一般質問」

3月4日 福島民友 記事「共通入場券発
行を協議 若松市会」

4月24日 福島民報 「美術館・博物館年
間ラインアップ」

6月14日 福島民友 記事「初の共同企画
展 観光関係者対象に説明会」

7月7日 福島民報 記事「会津と将軍家
絆に光」

7月7日 福島民友 記事「容保かかわる
宗家文書」

7月9日 朝日新聞（県内） 記事「未公
開文書など公開へ」

8月19日 毎日新聞（県内） 記事「徳川
家と会津松平家 来月30日から」

9月5日 河北新報 記事「会津若松で企
画展 忠節の歴史たどる」

9月7日 河北新報 記事「会津若松・30
日から企画展 藩祖の遺訓守り抜く」

○会期中

9月30日 福島民友 記事「開幕前に内覧
会」

9月30日 福島民報 記事「公開前に報道
陣に説明」

10月1日 福島民報 記事「将軍家と松平
家展開幕」

10月1日 福島民友 記事「徳川将軍家と
会津松平家開幕」

10月2日 福島民友 記事「若松で共同企
画展記念講演」

10月2日 福島民報 記事「徳川財団理事
長会津語る」

10月18日 福島民友 記事「資料入れ替え
新作品展示」

- 10月20日 福島民報 記事「若松で木曜会
企画展の秘話語る」
- 10月30日 福島民報 寄稿「徳川将軍家と
会津松平家展に寄せて」(徳川恒孝)
- 11月2日 読売新聞(県内) 記事「5日
まで 県立博物館」
- 11月4日 福島民報 記事「企画展あす閉
幕」

福島民報連載「徳川将軍家と会津松平家 企
画展見どころ」

- 1 9月18日 手紙から見る保科正之(高
橋 充)
- 2 9月24日 将軍2人の肖像画(川延安
直)
- 3 10月1日 二人の御台所(小林めぐみ)
- 4 10月8日 謁見と台本(阿部綾子)
- 5 10月15日 庶民にとっての幕末(中岡
進)
- 6 10月22日 江戸から明治へ(柳田直美)
- 7 10月29日 東照宮(高橋 充)

福島民友「徳川将軍家と会津松平家 学芸員
が選ぶ名品」

- 1 9月20日 会津攻伐軍令状(高橋 充)
- 2 9月21日 東照大権現像(川延安直)
- 3 9月22日 紫檀地花鳥文蒔絵螺鈿太刀
拵(小林めぐみ)
- 4 9月23日 家世実紀(阿部綾子)
- 5 9月24日 獅子牡丹図屏風(中岡 進)
- 6 9月25日 孝明天皇宸翰 徳川家茂宛
(藤田英昭)
- 7 9月26日 村梨子地葉菊紋散蒔絵旅櫛
箱(柳田直美)

③雑誌・情報誌・広報誌

- 記事「ASA たちあおい」10月号
- 広告「会津まつりガイドニュース」(会津
若松観光物産協会)7月15日発行
- 広告「会津まつりガイドニュース」(会津
若松観光物産協会)9月1日発行
- 記事「ボイス」515「会津学 4 まっすぐ
な会津が見えてくる」10月7日号
- 記事「ボイス」516「おめでとう二十歳の
博物館 企画展内覧会」10月14日号
- 広告「うつくしまふくしま教育ニュース」
31(県教委)10月発行
- 広告「極上の会津ガイドブック」(JR東
日本)
- 「みらんしょ」秋号(会津若松市観光公社)
- 「徳川記念財団会報」7号(5月発行)展
覧会予告
- 「徳川記念財団会報」8号(11月発行)開

催報告

4. 移動展「馬と人との年代記 in まほろん」
①新聞

- 8月15日 福島民友「古墳時代の馬具を
展示 白河のまほろんで移動展」
- 8月15日 毎日新聞「馬と人との歴史に
焦点 県内出土馬の尻飾りなど200点 白
河で展覧会」

(2) 公聴活動

館の運営に反映させるため、次の行事につい
て利用者に対するアンケート調査を実施した。

- ①常設展
- ②企画展「馬と人との年代記」「布の声をきく」
「徳川将軍家と会津松平家」
- ③特選資料展「奥会津の職人巻物」
- ④県博移動展「馬と人との年代記inまほろん」
- ⑤解説員によるやさしい展示解説会
- ⑥講座「博物館で遊ぼう！」

(3) 出版事業

平成18年度は次の出版物を刊行した。

(ア) 企画展図録

- ①福島県立博物館平成18年度第1回企画展図
録「馬と人との年代記—大陸から日本、そし
て福島へ—」1,500冊
- ②福島県立博物館企画展図録「布の声をきく」
1,500冊
- ③福島県立博物館 若松城天守閣 共同企画
展 展示解説図録「徳川将軍家と会津松平家」
3,000冊

(イ) 紀要

福島県立博物館紀要 第21号 600冊

(ウ) 年報

福島県立博物館年報 第20号 600冊



企画展図録「馬と人との年代記」



企画展図録「布の声をきく」



企画展図録「徳川将軍家と会津松平家」

7. 博物館友の会活動への支援

(1) 友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して博物館だよりの送付、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等研究活動の支援などを行っている。

(2) 友の会の活動状況

(ア) 友の会の概要

①発 足 平成元年3月10日

②設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

③平成18年度会員数

個人会員：299名 家族会員：181家族 高校生会員：12名 賛助会員：4（個人2・法人2）

(イ) 平成18年度事業概要

1. 行事の開催

「馬と猿との年代記」

春の企画展「馬と人との年代記」への協賛事業。各地に残される民俗資料や行事に馬と猿との深い関係が窺われることから、来館者に無形民俗文化財として残される猿まわしの公演を提供することで、馬に関する理解を一層深めるもらうために行った。

○第1部 公演「猿まわし一座がやってきた!」

日時 平成18年6月8日(木) 午前11時～午後2時

会場 博物館エントランスホール（午前）、正面玄関前広場（午後）

出演 周防猿まわしの会



猿回し一座がやってきた

内容 午前・午後、2組の猿によるそれぞれ30分程度の猿回しの公演

参加者数 780名

幼稚園児を招待 第1回公演（午前）は慈光幼稚園：園児36名／引率4名、若葉幼稚園：園児70名／引率4名、第3保育園：園児36名／引率4名、第2回公演（午後）は中央保育園：園児20名／引率3名

○第2部 対談「馬をめぐるフォークロア」

講師 赤坂憲雄・佐々木長生

日時 6月8日(木) 午後2時

会場 博物館講堂

2. 研修旅行の実施

①春の研修旅行

研修先 太宰府天満宮 九州国立博物館 佐賀県立九州陶磁文化会館 など

期 日 平成18年5月23～25日

参加者 52名

②秋の研修旅行

研修先 下野街道（中山宿から大内宿）

期 日 平成18年10月9日

参加者 32名



友の会研修旅行

3. 会報の発行

年4回、会報を発行し会員に配布した。

4. 博物館事業への協力

①博物館展示観覧

平成17年度友の会会員入館者数 1,527件

②博物館講座への協力

博物館自然史講座「化石をさがそう」に、友の会サークルである「友の会化石・鉱物探検隊」が参加・協力した。

5. 会議

①役員会 平成18年5月4日 9月3日

10月19日 平成19年3月3日

②総 会 平成19年3月15日(木)



友の会会報第70号

(ウ) サークル活動

1. 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成12年に設立された。

会員数32名。野外での巡検や化石・鉱物の採集、研修会等の活動を行っており、博物館の行事にも随時協力している。

平成18年度は、春から秋にかけて県内および山形県の化石・鉱物産地を計7回訪れ、地層見学と標本採集を行い、冬季に2回の研修会を実施した。また、5月27日に埴町で開催された博物館自然史講座「化石をさがそう」に協力し、講座参加者に対する採集指導と安全確保を行った。

その他、平成20年度に予定している友の会20周年記念事業について、探検隊としての行事参加を検討した。

2. 古文書愛好会

平成14年に発足した古文書愛好会は、随時20~30名が参加し、活動を続けてきた。メンバーはそれぞれ5つの班に分かれ、チームを組んで古文書の解読・考察にあたっている。

平成18年度は月1回・第2土曜日に開催し、班ごとに順番に発表を行い、毎回最後に全員で文字・内容の検討を行った。テキストは当初から県指定文化財の築田家文書（福島県立博物館寄託）を用いている。築田家は江戸時代には一貫して若松城下の検断(町役人)をつとめた家で、その文書は城下の諸相を伝える良質な史料であるため、これまで学習してきた成果を冊子にまとめることを企画し計画に着手した。



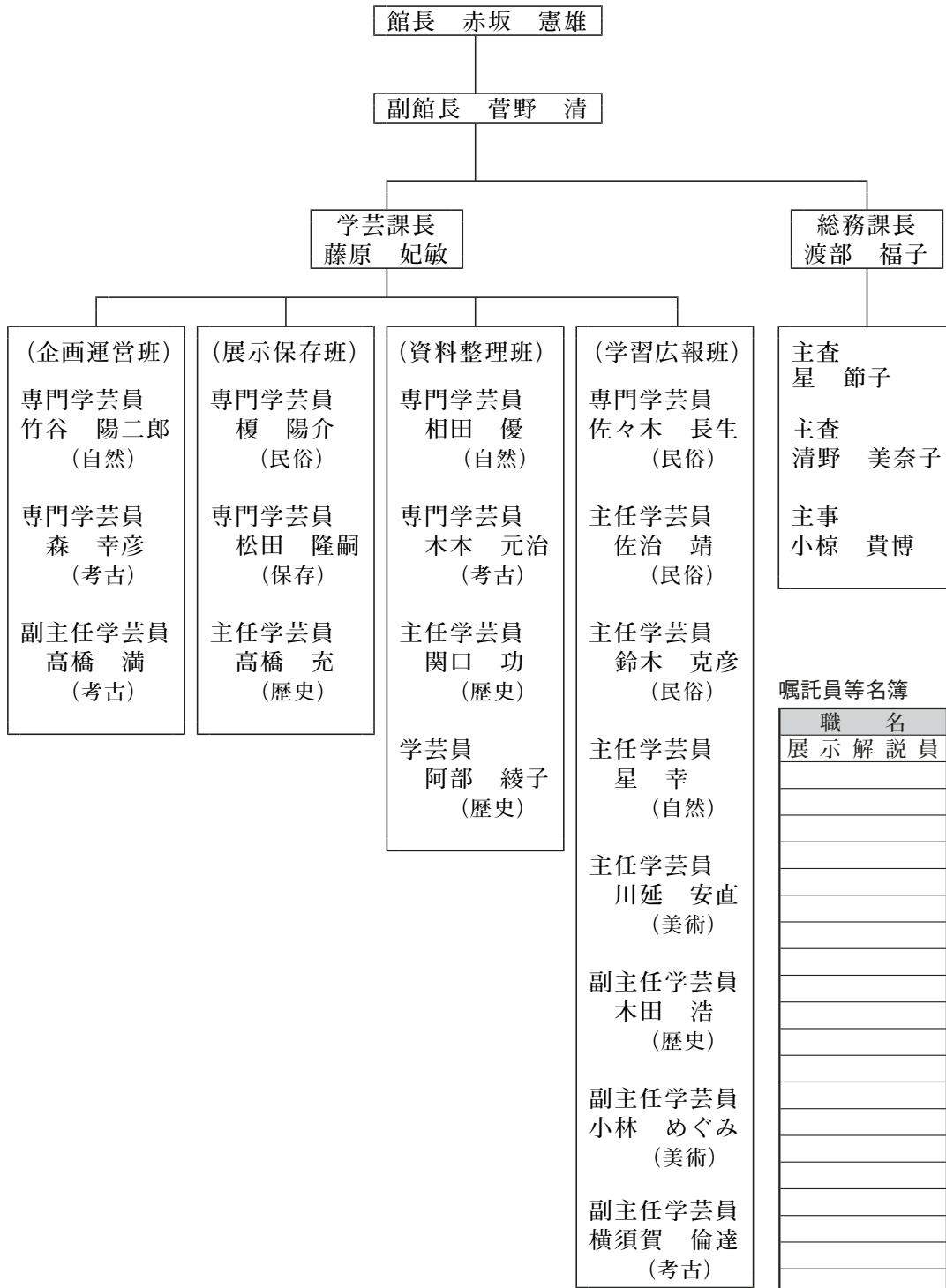
化石・鉱物探検隊巡検

III 管理運営

1. 組織・職員

福島県立博物館の組織

(平成18年4月1日現在)



嘱託員等名簿

職名	氏名
展示解説員	柏木 由佳野
	平野 久美子
	今泉 奈穂美
	松葉 容子
	宮淵 絵里子
	丸山 文子
	小島 明美
	國府 由美子
	大竹 さやか
	赤羽 愛
	渡邊 麻衣子
	幕田 しのぶ
	山内 明美
	菅原 卓己
	遠藤 智子
橋本 好恵	
菊池 百合子	
酒井 彰子	
高久 麻衣	
五十嵐 早苗	
大坪 千絵美	
大竹 陽子	
資料整理員	森田 鉄平
	花積 竜一
	斎藤 史子
臨時事務補助員	小林 麻梨
	渡部 郁美
臨時労務員	渡邊 麻衣
	吉田 有美

2. 予 算

平成18年度は、下表のとおり予算を執行した。

平成18年度予算執行状況

歳 入

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)				金 額
使用料及び手数料				14,977
	使 用 料			14,977
		行政財産使用料		449
			建 物 使 用 料	449
		教 育 使 用 料		14,528
			博 物 館 使 用 料	14,528
財 産 収 入				4,411
	財 産 売 払 収 入			4,411
		物 品 売 払 収 入		4,411
			そ の 他 物 品 売 払 代 金	4,411
諸 収 入				826
	雑 入			826
		雑 入		826
			雑 入	826
合 計				20,214

歳 出

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)				金 額
労 働 費				1,829
	雇 用 対 策 費			1,829
		緊 急 雇 用 対 策 費		1,829
			共 済 費	189
			賃 金	1,640
教 育 費				257,688
	教 育 総 務 費			3,597
		事 務 局 費		3,576
			報 酬	2,400
			職 員 手 当	315
			共 済 費	110
			賃 金	743
			報 償 費	8
		財 務 管 理 費		21
			交 際 費	0
			使 用 料 及 び 賃 借 料	21
	社 会 教 育 費			254,091
		博 物 館 費		254,091
			報 酬	48,556
			共 済 費	6,910
			賃 金	1,377
			報 償 費	3,457
			旅 費	6,583
			需 用 費	86,816
			需 用 費 (食 糧 費)	82
			役 務 費	12,302
			委 託 料	74,805
			使 用 料 及 び 賃 借 料	1,471
			工 事 請 負 費	10,361
			備 品 購 入 費	1,245
			負 担 金、補 助 及 び 交 付 金	80
			公 課 費	46
合 計				259,517

3. 委員会の開催

(1) 運営協議会

(ア) 運営協議会委員

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関であり、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者のうちから10名に委嘱している。また、平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

(イ) 会議

第1回 平成18年7月6日(木)

議題

①平成18年度事業計画について

②その他

第2回 平成19年2月16日(金)

議題

①平成18年度事業実施概要について

②平成19年度事業計画について

③その他

運営協議会委員名簿

区分	氏名	役職名
学校教育	北 條 スミ子	郡山市立朝日が丘小学校長
	小 山 泰 雄	須賀川市立第一中学校長
	佐 治 和 則	県立葵高等学校長
社会教育	会長 高 城 俊 春	(財)福島県文化振興事業団理事長
	薄 崇 雄	喜多方市中央公民館長
学識経験者	副会長 伊 藤 豊 松	喜多方市文化財保護審議会会長
	五十嵐 まりい	会津若松市教育委員会委員長
	高 瀬 かづ子	県文化財保護審議会委員
	吉 川 キヌエ	公募委員
	齋 藤 たか子	公募委員

IV 利用状況

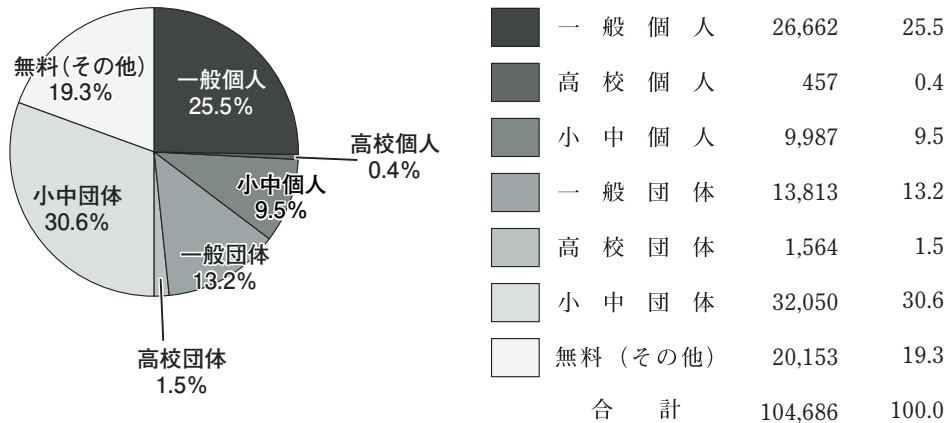
1. 入館者統計

(1) 平成18年度入館者統計

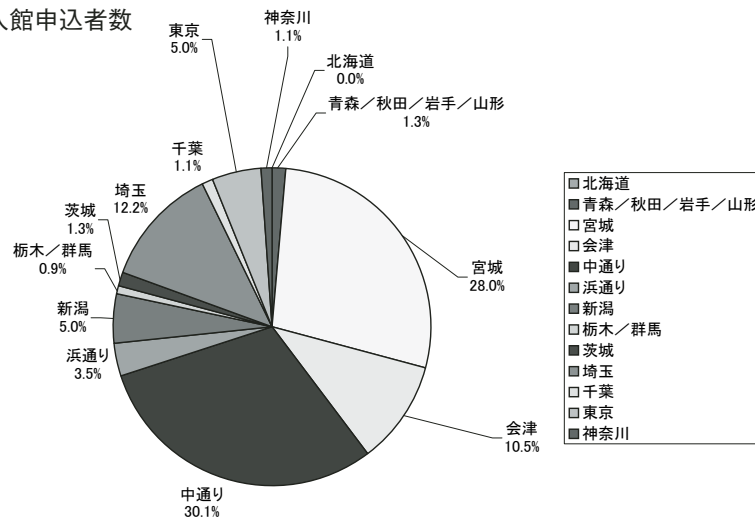
月別区分別入館者数

月別	常設展				企画展			合計		構成比
	日数	有料 人数	無料		日数	有料 人数	無料 人数	日数	人数	
			小中高 人数	その他 人数						
4	26	1,621	4,032	709	9	491	166	26	7,019	6.7%
5	27	2,105	6,426	1,042	27	1,560	248	27	11,381	10.9%
6	25	1,951	10,064	1,482	11	453	201	25	14,151	13.5%
7	26	1,737	2,357	579	10	452	121	26	5,246	5.0%
8	29	2,673	1,484	4,401	29	1,710	280	29	10,548	10.1%
9	26	2,681	7,235	2,691	4	666	132	26	13,405	12.8%
10	30	2,800	6,520	1,749	30	13,252	1,143	30	25,464	24.3%
11	25	2,107	1,709	548	5	3,317	1,348	25	9,029	8.6%
12	23	549	296	1,144	0	0	0	23	1,989	1.9%
1	23	813	147	508	0	0	0	23	1,468	1.4%
2	24	1,571	323	1,034	0	0	0	24	2,928	2.8%
3	26	1,172	259	627	0	0	0	26	2,058	2.0%
合計	310	21,780	40,852	16,514	125	21,901	3,639	310	104,686	100.0%

区分別入館者の状況



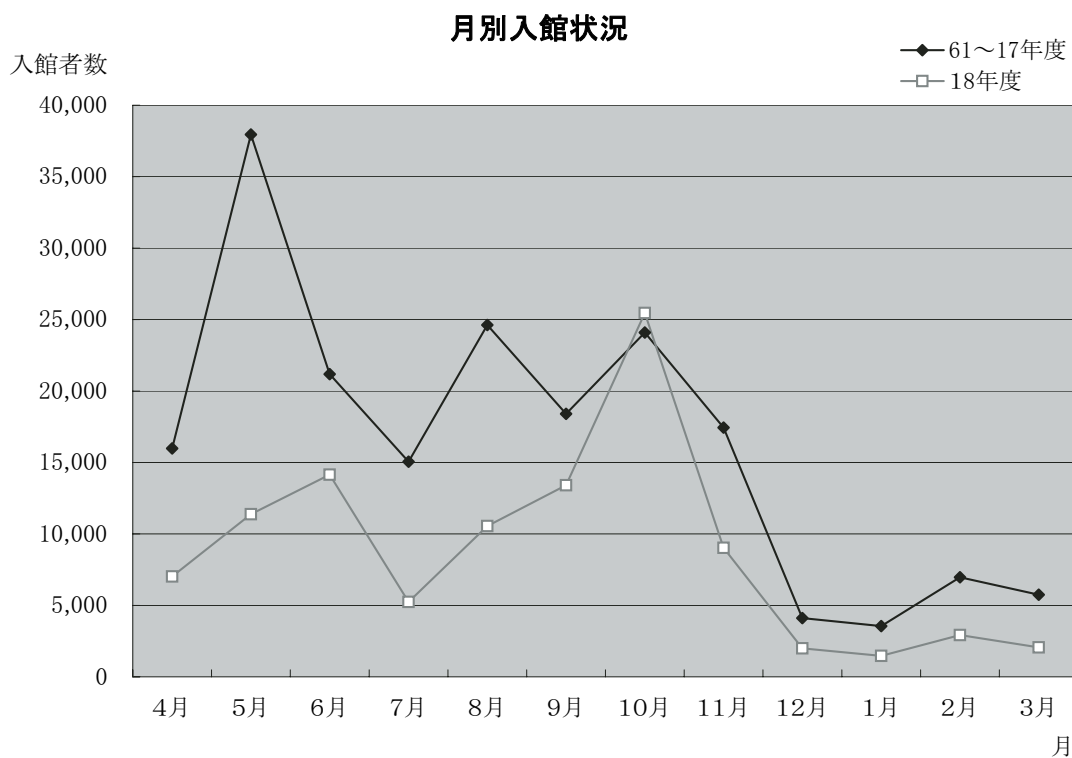
平成18年度地域別学校団体入館申込者数



(2) 入館者の推移

入館者の推移 (年度別・月別)	61	62	63	元	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
4月		25,919	20,561	25,699	22,750	22,851	16,637	17,975	15,320	16,571	12,433	13,521	14,922	13,456	10,539	8,473	8,028	4,899	8,770	8,440	7,019
5月		48,367	35,853	52,872	50,265	52,723	56,983	50,452	38,693	42,832	40,138	39,844	34,430	30,999	21,341	20,267	19,242	13,884	19,287	14,548	11,381
6月		17,831	14,823	20,356	19,043	23,592	23,841	29,319	20,737	28,622	18,185	22,279	24,933	23,659	18,775	16,475	17,211	12,884	16,768	12,008	14,151
7月		23,356	22,651	18,456	24,050	20,340	22,800	21,138	12,328	15,340	9,725	8,036	9,541	9,051	7,127	5,682	4,706	8,732	20,318	7,507	5,246
8月		40,749	32,396	31,127	34,218	33,257	37,431	28,490	25,837	23,785	21,495	15,803	16,208	13,607	13,184	8,451	14,702	10,630	34,732	7,157	10,548
9月		24,259	20,198	18,248	17,008	21,882	20,334	18,285	16,551	16,428	15,879	13,082	13,794	12,175	12,794	13,423	19,901	12,525	35,813	8,787	13,405
10月	31,758	27,099	29,648	26,832	34,201	21,851	18,565	20,022	28,034	20,252	64,772	26,015	18,431	15,696	15,609	12,192	10,688	13,000	11,227	11,972	25,464
11月	49,868	27,082	21,234	16,058	18,482	15,682	17,592	15,629	19,857	15,096	50,811	10,290	9,061	7,937	8,120	5,825	5,265	7,693	5,440	4,374	9,029
12月	8,860	5,548	4,512	3,369	2,303	3,618	4,028	6,989	7,839	2,048	9,473	2,125	2,395	1,582	1,801	5,797	1,078	1,665	2,192	926	1,989
1月	6,531	4,010	4,959	4,048	3,813	8,675	5,073	4,993	4,732	2,701	3,141	2,111	3,218	2,714	829	1,412	1,196	1,235	855	1,159	1,468
2月	13,614	7,653	6,350	6,986	5,982	7,006	9,096	9,137	9,197	7,631	6,700	7,578	9,770	4,795	5,353	3,836	3,183	3,733	2,019	2,815	2,928
3月	11,850	7,878	4,405	4,873	7,115	6,530	7,606	8,640	8,742	7,160	5,616	6,686	3,575	3,676	2,897	2,818	2,386	2,734	1,690	2,262	2,058
合計	122,481	259,751	217,590	228,924	239,230	238,007	239,986	231,069	207,867	198,466	258,368	167,370	160,278	139,347	118,369	104,651	107,586	93,614	159,111	81,955	104,686
日数	133	297	296	299	299	298	297	293	296	298	294	295	295	294	301	303	306	302	302	305	310
日平均	921	875	735	766	800	799	808	789	702	666	879	567	543	474	393	345	352	310	527	269	338
月平均	20,414	21,646	18,133	19,077	19,936	19,834	19,999	19,256	17,322	16,539	21,531	13,948	13,357	11,612	9,864	8,721	8,966	7,801	13,259	6,830	8,724
累計	122,481	382,232	599,822	828,746	1,067,976	1,305,983	1,545,969	1,777,038	1,984,905	2,183,371	2,441,739	2,609,109	2,769,387	2,908,734	3,027,103	3,131,754	3,239,340	3,332,954	3,492,065	3,574,020	3,678,706

入館者の推移グラフ（年度別月別）



(3) 企画展入館者統計

企画展入館者統計

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	合計
61	武家の文化	61.10.18～61.11.16	27日	18,806人	1,967人	4,474人	25,247人
	福島のまつり	62. 1.17～62. 3. 1	37	6,302	456	755	7,513
	計		64	25,108	2,423	5,229	32,760
62	福島の顔	62. 4.18～62. 6.14	48	13,008	510	7,077	20,595
	植物化石展	62. 7.18～62. 9.15	51	14,116	1,267	7,149	22,532
	会津の仏像	62.10.17～62.12.13	49	14,670	440	904	16,014
	陸奥の古瓦	63. 1.23～63. 3.21	50	4,069	151	291	4,511
	計		198	45,863	2,368	15,421	63,652
63	境の神・風の神	63. 4.16～63. 6.12	49	9,804	1,046	5,668	16,518
	江戸時代の流通路	63. 7.16～63. 9.11	50	16,240	1,502	5,729	23,471
	東国の埴輪	63.10. 8～63.12.11	54	15,585	1,472	4,702	21,759
	鉱物の世界	元. 1.21～元. 3.19	49	4,160	470	2,653	7,283
	計		202	45,789	4,490	18,752	69,031
元	縄文の四季	元. 4.18～元. 6.11	48	13,246	2,293	27,743	43,282
	町の成立とにぎわい	元. 7. 4～元. 9. 3	54	16,611	1,151	8,120	25,882
	中通りの仏像	元. 9.22～元.11.26	55	15,356	1,895	6,486	23,737
	東北の陶磁史	2. 1.20～ 2. 3.18	50	5,058	151	1,532	6,741
	計		207	50,271	5,490	43,881	99,642
2	垂欧堂田善とその系譜	2. 4.21～ 2. 6.10	44	12,274	2,507	22,522	37,303
	太古の生きものたち	2. 7. 6～ 2. 9. 2	51	17,519	1,407	10,681	29,607
	秀吉・氏郷・政宗	2. 9.22～ 2.11.25	55	18,273	2,481	8,516	29,270
	日本の音色	3. 1.19～ 3. 3.21	53	5,567	149	1,731	7,447
	計		203	53,633	6,544	43,450	103,627
3	シルクロード紀行	3. 4.16～ 3. 6. 9	48	13,878	3,319	27,384	44,581
	縄文絵巻	3. 7.20～ 3. 9.23	57	21,276	1,734	10,548	33,558
	浜通りの仏像	3.10.10～ 3.12. 8	51	12,293	1,030	3,528	16,851
	ふくしま鉱山のあゆみ	4. 1.18～ 4. 3.15	49	7,626	138	2,043	9,807
	計		205	55,073	6,221	43,503	104,797
4	マンガ文化の源流	4. 4.18～ 4. 6. 4	49	12,151	2,192	27,981	42,324
	恐竜のあるいた道	4. 7.18～ 4. 9.23	57	22,049	1,459	11,772	35,280
	定信と文晁	4.10.17～ 4.12. 6	43	10,333	1,083	2,549	13,965
	発掘ふくしま	5. 1.16～ 5. 3.21	55	7,004	338	1,831	9,173
	計		204	51,537	5,072	44,133	100,742
5	明治はじめて物語	5. 4.17～ 5. 6.13	48	12,810	1,542	28,085	42,437
	稲とくらし	5. 7.17～ 5. 9.23	58	19,467	1,195	8,349	29,011
	東北からの弥生文化	5.10.16～ 5.12. 5	42	12,436	936	3,178	16,550
	会津の自然史	6. 1.22～ 6. 3.21	51	6,928	418	2,350	9,696
	計		199	51,641	4,091	41,962	97,694
6	玉堂と春琴・秋琴	6. 4.23～ 6. 6. 5	37	8,816	346	16,330	25,492
	げんき・病・元気	6. 7.23～ 6. 9.18	49	14,075	1,027	6,232	21,334
	会津大塚山古墳の時代	6.10. 8～ 6.12. 4	48	18,285	751	7,095	26,131
	村芝居の世界	7. 1.21～ 7. 3.26	55	7,676	268	2,445	10,389
	計		189	48,852	2,392	32,102	83,346
7	探検員化石ワールド	7. 4.22～ 7. 6.11	44	9,187	1,608	26,208	37,003
	海のまくあけ	7. 7.22～ 7. 9.17	50	14,101	1,003	5,889	20,993
	福島1000年時のかたち	7.10. 7～ 7.11.26	43	9,379	1,342	3,417	14,138
	いにしえの木匠	8. 1.20～ 8. 3.24	55	5,760	74	1,907	7,741
	計		192	38,427	4,027	37,421	79,875

年度	企画展名	期 間	日 数	一 般	高 校	小 中	合 計
8	福島 の 山 岳 信 仰	8. 4.20～ 8. 6. 9	44	8,931	976	12,432	22,339
	地震・火山・津波	8. 7.20～ 7. 9.16	51	11,671	443	6,176	18,290
	秀吉と桃山文化	8.10. 5～ 8.11.24	43	45,643	1,583	8,929	56,155
	近代子どもの世界	9. 1.18～ 9. 3.23	54	3,733	130	2,427	6,290
	計		192	69,978	3,132	29,964	103,074
9	縄文たんけん	9. 4.19～ 9. 6. 8	43	5,282	1,164	23,052	29,498
	日本の魚学・水産学事始め	9. 7.19～ 9. 9.15	51	6,396	396	4,082	10,874
	染める	9.10.10～ 9.12. 7	51	6,165	118	7,372	13,655
	遠澤と探幽	10. 1.24～10. 3.15	43	5,854	433	775	7,062
	計		188	23,697	2,111	35,281	61,089
10	戦国の城	10. 4.18～10. 6.14	49	8,731	600	19,452	28,783
	発掘ふくしま2	10. 7.18～10. 9.13	50	7,930	484	5,954	14,368
	天の絹絲	10.10.10～10.12.13	55	6,521	133	3,009	9,663
	日本の美	11. 1.26～11. 2.21	23	5,055	101	567	5,723
	計		177	28,237	1,318	28,982	58,537
11	氷河時代	11. 4.17～11. 6.13	49	6,351	680	20,052	27,083
	新弥生紀行	11. 7.17～11. 9.15	43	6,128	409	3,438	9,975
	生の中の死	11.10. 9～11.12.12	54	5,826	225	2,103	8,154
	豊かなる世界へ	12. 1.22～12. 3.20	51	3,426	103	448	3,977
	計		197	21,731	1,417	26,041	49,189
12	集古十種	12. 4.22～12. 6.11	44	4,843	81	7,960	12,884
	海獣パレオパラドキシア	12. 7.15～12. 9.10	49	6,013	363	4,074	10,450
	英雄たちの系譜	12.10. 7～12.12.10	55	5,838	139	3,326	9,303
	安積良斎と門人たち	13. 1.20～13. 3.20	51	2,963	73	115	3,151
	計		199	19,657	656	15,475	35,788
13	食と考古学	13. 4.21～13. 6.10	44	3,330	281	8,964	12,575
	肖像に見る福島を築いた人々	13. 7. 7～13. 8.26	44	3,630	118	1,148	4,896
	武者たちが通る	13. 9.22～13.11.11	44	4,437	385	2,675	7,497
	計		132	11,397	784	12,787	24,968
14	化石芸術	14. 4.27～14. 6.30	56	3,921	552	6,928	11,401
	雪村展	14. 8.10～14. 9.23	39	11,362	169	1,149	12,680
	計		95	15,283	721	8,077	24,081

年度	企画展名	期 間	日 数	一 般	高 校	小 中	無 料	合 計
15	発掘された日本列島2003	15. 7.15～15. 8.13	26	2,473	386	647	1,424	4,930
	発掘ふくしま3	15. 8.20～15. 9.23	30	1,833	40	479	432	2,784
	《笑い》の想像力	15.10.11～15.12. 7	50	3,190	47	456	769	4,462
	計		106	7,496	473	1,582	2,625	12,176
16	戊辰戦争といま	16. 4.17～16. 6.13	49	6,451	190	3,191	1,048	10,880
	アートオブスター・ウォーズ展	16. 7. 3～16. 9.26	75	46,019	5,631	11,234	1,552	64,436
	ふくしまの工芸	16.10.23～16.12. 5	36	2,524	65	182	626	3,397
	計		160	54,994	5,886	14,607	3,226	78,713
17	老い	17. 4.23～17. 6. 5	39	1,732	80	414	814	3,040
	婚 礼	17. 9.23～17.11. 6	39	2,480	45	233	1,020	3,778
	計		78	4,212	125	647	1,834	6,818
18	馬と人との年代記	18. 4.22～18. 6.11	45	1,679	24	801	615	3,119
	布の声をきく	18. 7.22～18. 9. 3	40	2,137	53	284	464	2,938
	徳川将軍家と会津松平家	18. 9.30～18.11. 5	36	14,879	126	1,918	2,560	19,483
	計		121	18,695	203	3,003	3,639	25,540

※平成16年度のアートオブスター・ウォーズ展については高校生の区分は中学生・高校生、小・中学生の区分は小学生と読替え

2. 出版物販売

出版物売上表

書籍名	価格	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
常設展示図録	1,100	1	8	3	8	10	7	9	7	2	3	3	5	66	72,600
武家の文化	1,100	0	2	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	6	6,600
福島のまつり	750	0	2	0	0	1	0	1	1	0	1	0	1	7	5,250
ふくしまの顔	1,000	0	0	1	1	1	0	0	1	0	0	0	0	4	4,000
会津の仏像	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
陸奥の古瓦	800	1	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	1	4	3,200
江戸時代の流通路	1,000	1	0	3	0	4	2	0	1	1	3	1	3	19	19,000
鉱物の世界	800	1	0	1	1	0	2	0	0	0	1	2	0	8	6,400
縄文の四季	1,000	2	2	1	0	2	1	0	1	0	0	1	0	10	10,000
まちの成立とにぎわい	1,000	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1	0	0	4	4,000
東北の陶磁史	1,200	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
亜欧堂田善とその系譜	2,000	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	4,000
太古の生きものたち	1,000	2	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	1	6	6,000
秀吉・氏郷・正宗	1,200	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日本の音色	1,500	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	3,000
シルクロード紀行	2,000	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	2	4,000
縄文絵巻	1,500	2	2	1	3	3	0	1	2	1	0	1	3	19	28,500
浜通りの仏像	1,000	2	0	0	3	1	1	0	1	0	0	0	2	10	10,000
ふくしま鉱山のあゆみ	1,500	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2	4	6,000
マンガ文化の源流	2,000	0	0	1	0	2	1	1	1	0	0	0	1	7	14,000
恐竜のあるいた道	1,000	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2	2,000
定信と文晁	1,900	0	4	1	3	0	0	2	1	1	0	0	0	12	22,800
発掘ふくしま	1,500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
明治はじめて物語	1,000	0	0	0	1	0	0	3	0	1	0	0	1	6	6,000
稲とくらし	1,500	0	0	0	0	4	0	1	0	0	0	0	0	5	7,500
東北からの弥生文化	1,500	0	0	0	1	0	6	0	0	3	1	0	1	12	18,000
会津の自然史	1,500	1	0	1	0	0	1	0	0	1	0	9	1	14	21,000
玉堂と春琴・秋琴	2,200	0	0	0	0	1	3	1	2	0	0	0	0	7	15,400
げんき・病・元気	1,500	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	3	4,500
会津大塚山古墳の時代	1,500	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
村芝居の世界	1,800	0	0	1	0	4	1	1	0	0	0	0	0	7	12,600
探検員化石ワールド	1,500	2	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	1	6	9,000
海のまくあけ	1,500	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	3	4,500
福島1000年時のかたち	1,700	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
いにしえの木の匠	1,200	0	1	3	2	0	0	1	0	0	0	0	2	9	10,800
福島の山岳信仰	1,500	0	0	1	3	5	1	3	0	1	1	2	2	19	28,500
地震・火山・津波	1,000	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2	2,000
近代子どもの世界	1,700	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	2	3,400
縄文たんけん	1,800	0	3	0	0	1	0	0	0	1	0	1	4	10	18,000
日本の魚学・水産学事始め	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1,000

書籍名	価格	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
染める	1,200	1	0	1	3	6	4	1	1	0	1	0	0	18	21,600
遠澤と探幽	2,500	0	1	0	1	1	1	4	3	0	0	0	0	11	27,500
戦国の城	1,600	0	0	2	2	5	2	21	5	0	0	0	2	39	62,400
発掘ふくしま2	1,400	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
天の絹糸	2,500	0	1	1	3	6	3	1	1	1	0	0	2	19	47,500
日本の美	1,500	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1,500
氷河時代	1,400	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0	0	4	5,600
新弥生紀行	2,200	0	3	0	2	0	0	0	1	3	0	0	1	10	22,000
生の中の死	1,800	0	0	0	2	1	0	2	1	3	0	0	1	10	18,000
豊かなる世界へ	1,100	0	1	0	0	4	1	1	0	0	0	0	0	7	7,700
集古十種	2,100	0	4	4	4	4	3	8	6	4	2	1	1	41	86,100
海獣パレオパラドキシア	1,200	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1,200
英雄たちの系譜	1,000	0	1	0	0	3	0	1	0	0	0	0	0	5	5,000
食と考古学	1,000	3	6	3	1	4	2	4	0	0	1	0	2	26	26,000
肖像に見る福島を築いた人々	1,700	0	0	0	2	1	2	9	7	0	0	0	0	21	35,700
武者たちが通る	800	1	2	2	1	1	4	17	8	1	3	4	3	47	37,600
化石芸術	1,000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
発掘ふくしま3	1,100	1	9	3	0	2	2	1	0	1	0	0	0	19	20,900
笑いの想像力	2,000	0	1	1	1	4	1	1	0	0	0	0	1	10	20,000
戊辰戦争といま	1,000	9	17	11	4	12	12	113	37	8	11	6	16	256	256,000
老い	2,000	1	1	0	2	2	0	1	0	0	0	0	0	7	14,000
婚禮	1,500	5	1	0	2	2	6	0	1	1	0	2	0	20	30,000
馬と人との年代記	1,600	35	174	74	10	2	28	5	0	7	2	0	5	342	547,200
布の声をきく	1,300	0	0	0	98	194	37	8	19	1	0	2	3	362	470,600
徳川将軍家と会津松平家	1,200	0	0	0	0	0	70	1,027	393	21	8	8	6	1,533	1,839,600
紀要(数量)		5	5	14	4	1	3	3	1	1	0	3	4	44	
紀要(金額)		9,700	8,500	22,600	6,300	1,500	4,700	4,800	1,700	1,600	0	5,000	6,000	72,400	72,400
ふくしまの仏像(仏像図説)	1,300	4	1	2	0	6	2	4	1	1	2	1	3	27	35,100
福島の古墳	1,200	3	9	3	0	9	5	1	4	3	3	0	3	43	51,600
福島の化石	1,500	6	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	8	12,000
戦時下の福島	800	4	1	1	1	2	1	5	0	0	0	1	1	17	13,600
福島の年中行事	1,100	0	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	3	3,300
博物館と遊ぼう	1,000	4	7	1	4	2	1	2	4	2	0	0	2	29	29,000
ガイドブック	300	15	6	6	6	16	7	7	7	0	0	3	4	77	23,100
手引き(小)	700	1	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4	2,800
常世原田遺跡	600	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	0	0	4	2,400
ふくしまの農具	1,000	3	1	1	1	1	1	4	2	0	1	0	0	15	15,000
ふくしまの古文書	900	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
報告書(数量)		9	5	11	9	9	18	17	11	7	7	2	9	114	0
報告書(金額)		6,700	4,700	10,400	10,900	9,500	23,000	18,300	14,800	7,900	10,100	2,000	9,400	127,700	127,700
絵葉書	50	82	60	41	54	29	28	137	42	0	18	7	9	507	25,350
合計		210	344	212	246	375	273	1,443	574	80	71	61	112	4,001	4,410,600

V 法 規

福島県立博物館条例

(昭和61年3月25日 福島県条例第30号)

(設 置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律(昭和31年法律第162号)第30条及び地方自治法(昭和22年法律第67号)第244条第1項の規定に基づき、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、福島県立博物館(以下「博物館」という。)を設置する。

(位 置)

第2条 博物館は、会津若松市城東町8番地に置く。

(業 務)

第3条 博物館において行う業務は、次のとおりとする。

- 1 歴史、考古、民俗、美術工芸、自然等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の資料(以下「博物館資料」という。)を収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- 4 博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行うこと。
- 5 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務を行うこと。

(観覧料)

第4条 博物館の展示品(以下「展示品」という。)を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。

(観覧料の免除)

第5条 知事は、公益上の必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(観覧料不返還の原則)

第6条 既納の観覧料は、返還しない。ただし、規則で定める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

(遵守事項)

第7条 博物館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 1 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 2 物品を販売し、又は頒布しないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 3 展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと(教育委員会の許可を受けた場合を除く。)
- 4 所定の場所以外において、喫煙及び飲食を行わないこと。
- 5 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 6 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(入館の規制等)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 1 前条の規定に違反した者
- 2 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者
- 3 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(職 員)

第9条 博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(委 任)

第10条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理その他この条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則(平成9年3月25日条例第52号)

この条例は、平成9年4月1日から施行する。

附 則(平成11年12月24日条例第93号)

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則(平成15年3月24日条例第53号)

この条例は、平成15年4月1日から施行する。

別表(第4条関係)

区 分	普通観覧料の額(一人当たり)		特別観覧料の額
	個 人	団 体	
一般(大学生を含む。)	260円	210円	その都度知事が定める額
高校生及びこれに準ずる者	無 料	無 料	その都度知事が定める額
中学生及び小学生	無 料	無 料	その都度知事が定める額

備考

- 1 「普通観覧料」とあるのは、常設展の展示品のみを観覧する場合の観覧料をいい、「特別観覧料」とあるのは、企画による展示品を観覧する場合の観覧料をいう。
- 2 「団体」とあるのは、20人以上の団体をいう。

福島県立博物館運営協議会条例

(昭和61年3月25日 福島県条例第31号)

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、福島県立博物館(以下「博物館」という。)の適正な運営を図るため、福島県立博物館運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(組織)

第2条 協議会の委員(以下「委員」という。)の定数は、10人以内とする。

(委員の任命及び任期)

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第6条 協議会の庶務は、博物館において処理する。

(雑則)

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

福島県立博物館条例施行規則

(昭和61年3月25日 福島県教育委員会規則第5号)

(休館日)

第1条 福島県立博物館(以下「博物館」という。)の定期的休館日は、次のとおりとする。

1 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律178号)に規定する休日(次号において「休日」という。)に当たるときを除く。

2 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。

3 1月1日から同月4日まで

4 12月28日から同月31日まで

2 博物館の長(以下「館長」という。)は、必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(開館時間)

第2条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、館長は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

(観覧手続)

第3条 館長は、福島県立博物館条例(昭和61年福島県条例第30号。以下「条例」という。)第4条の規定により観覧料を納入した者に対し、観覧券(様式第1号)を交付するものとする。

(観覧料の免除及びその手続)

第4条 館長は、条例第5条の規定により、次の表の上欄に掲げる場合における普通観覧料について、同表の下欄に掲げる額を免除するものとする。

普通観覧料を免除する場合	免除する額
1 大学生(これに準ずる者として福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)が別に定める者を含む。)及びその引率者並びに高校生、中学生及び小学生(これらに準ずる者として教育長が別に定める者を含む。)の引率者が、学校教育に基づく活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
2 県、又は市町村が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の100分の50に相当する額(引率者にあつては全額)

3 国民の祝日に関する法律第2条に定めるこどもの日、敬老の日及び文化の日に観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
4 知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証の交付を受けている者が観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
5 その他免除することが公益上適当と認めるとき。	教育長が別に定める額

2 観覧料の免除を受けようとする者（前項の表の第3号又は第4号のいずれかに該当する場合に観覧料の免除を受けようとする者を除く。）は、前項の表の第1号又は第2号に該当する場合にあっては観覧しようとする日の3日前まで、第5号に該当する場合にあっては10日前までに観覧料免除申請書（様式第2号）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の規定により観覧料の免除を承認したときは、観覧料免除承認書（様式第3号）を交付するものとする。
（観覧料の返還）

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、それぞれ当該各号に定めるところにより、観覧料の全部又は一部を返還するものとする。

1 観覧しようとする者の責めによらない理由により観覧することができなくなったとき。全額

2 その他やむを得ない理由があると認めるとき。教育長が別に定める額

2 観覧料の返還を受けようとする者は、観覧料返還申請書（様式第4号）に観覧券を添えて、館長に提出しなければならない。

（博物館資料の特別利用）

第6条 博物館が所蔵し、又は寄託を受けている博物館資料を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、館長の承認を受けなければならない。

（教育長への委任）

第7条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（昭和63年3月25日教育委員会規則第9号）

この規則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則（平成4年7月28日教育委員会規則第14号）

この規則は、平成4年9月1日から施行する。

附 則（平成7年3月31日教育委員会規則第15号）

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則（平成8年3月29日教育委員会規則第16号）

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則（平成8年8月20日教育委員会規則第20号）

この規則は、平成8年10月1日から施行する。

附 則（平成12年3月31日教育委員会規則第16号）

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成14年3月26日教育委員会規則第14号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成15年3月24日教育委員会規則第3号）

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

様式第1号（第3条関係）

観 覧 券 （ 観 覧 者 の 区 分 ） （ 金 額 ） 福 島 県 立 博 物 館	観 覧 券 （ 観 覧 者 の 区 分 ） （ 金 額 ） 福 島 県 立 博 物 館
--	--

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

様式第2号(第4条関係)

年 月 日

福島県立博物館長

住所又は所在地
氏名又は名称及
び代表者の氏名
申請者 印

観覧料免除申請書

次の理由により観覧料を免除してください。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日	時	分から	分まで
観覧者の種別 及び人数	一般	人	その他()	人
	大学生		()	
	高校生			
	中学生		引率者	
	小学生		合計	
免除申請の理由				
引率者の職及び氏名	職	氏名		
連絡先及び電話番号	電話 ()			
観覧料	免除率	免除金額	免除の根拠	
※ 円 ※		※ 円 ※		
第 年 月 日				
上記のとおり承認してよろしい。				
館長	副館長	総務課長	主任	

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

様式第3号(第4条関係)

第 号

年 月 日

様

福島県立博物館長 印

観覧料免除承認書

観覧料の免除について、次のとおり承認します。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日	時	分から	分まで
観覧者の種別 及び人数	一般	人	その他()	人
	大学生		()	
	高校生			
	中学生		引率者	
	小学生		合計	
免除申請の理由				
注意事項				
観覧料	免除率	免除金額		
円		円		

様式第4号(第5条関係)

年 月 日

福島県立博物館長

住所又は所在地
氏名又は名称及
び代表者の氏名
申請者 印

観覧料返還申請書

次の理由により観覧料を返還してください。

展覧会の名称				
観覧料の納入月日	年	月	日	
既納観覧料の 区分及び金額	区	分	人数	金額
			人	円
			合計	
返還を申請する理由				
連絡先及び電話番号	電話 ()			
観覧料	返還率	返還金額	返還の根拠	
※ 円 ※		※ 円 ※		
上記のとおり返還してよろしい。				
館長	副館長	総務課長	主任	
受付月日	・	・	決裁月日	・

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

福島県立博物館組織規則

(昭和61年3月25日 福島県教育委員会規則第6号)

(目的)

第1条 この規則は、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の組織に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(課)

第2条 博物館に次の課を置く。

総務課
学芸課

(事業分掌)

第3条 総務課においては、次の事務を行う。

- 1 館内事務の総合調整及び企画調査に関すること。
- 2 公印の管理に関すること。
- 3 人事に関すること。
- 4 文書の収受、発送、編集及び保存に関すること。
- 5 予算の編成、経理及び執行に関すること。
- 6 物品の調達及び処分に関すること。
- 7 財産の管理に関すること。
- 8 観覧料の徴収に関すること。
- 9 福島県立博物館運営協議会に関すること。
- 10 前各号に掲げるもののほか、他課の所掌に属しない事務に関すること。

2 学芸課においては、次の事務を行う。

- 1 博物館資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。
- 2 博物館資料に関する調査及び研究に関すること。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- 4 博物館資料に関する解説書、年報、調査研究報告書等の作成に関すること。
- 5 博物館資料に関する相談、情報提供その他博物館資料に関する教育の普及に関すること。
- 6 国立博物館、公立博物館その他の教育機関及び関係団体との連絡提携に関すること。
- 7 前各号に掲げるもののほか、博物館資料に関する専門的事項に関すること。

(館長)

第4条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は、上司の命を受け、博物館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

(副館長)

第5条 博物館に副館長を置く。

- 2 副館長は、館長を補佐し、博物館の事務を整理する。

(課長)

第6条 博物館の課に課長を置く。

- 2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理し、所属職員を指揮監督する。

第7条 削除

(学芸員等)

第8条 博物館に主任専門学芸員、専門学芸員、主任学芸員、副主任学芸員及び学芸員を置く。

- 2 主任専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の高度な学芸事務を処理する。
- 3 専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の学芸事務を処理する。
- 4 主任学芸員は、上司の命を受け、担任の学芸事務を処理する。
- 5 副主任学芸員は、上司の命を受け、高度な学芸事務をつかさどる。
- 6 学芸員は、上司の命を受け、学芸事務をつかさどる。

(主任主査その他の職)

第9条 博物館に、第4条から前条までに規定する職のほか、必要に応じ、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職の職務は、それぞれ同表の当該下欄に掲げるとおりとする。

職	職務
主任主査	上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。
主査	上司の命を受け、担任の事務を処理する。
副主査	上司の命を受け、高度な事務をつかさどる。
主事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
専門員	上司の命を受け、担任の専門的業務に従事する。

附則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附則（平成6年3月15日教育委員会規則第4号）

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附則（平成13年3月27日教育委員会規則第6号）

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則（平成14年3月29日教育委員会規則第18号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則

（昭和61年3月25日 福島県規則第11号）

福島県立博物館条例（昭和61年福島県条例第30号）第5条、第6条ただし書き及び別表に規定する知事の権限は、福島県教育委員会に委任する。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

福島県立博物館収集展示委員会設置要綱

（設 置）

第1条 福島県立博物館に収蔵する博物館資料（以下「資料」という。）の収集並びに展示計画について審議するため、福島県立博物館収集展示委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（組織等）

第2条 委員会は12人以上の委員を持って構成する。

2 委員は学識経験者のうちから福島県立博物館長（以下「館長」という。）が委嘱する。

3 委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長及び副委員長は委員の互選により選出する。

4 委員長は委員会を代表し、会務を掌握する。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

（会 議）

第3条 委員会は必要のつど館長が招集する。

2 委員会は資料収集の適否及び展示計画等について審議し、その結果を館長に報告する。

3 委員会は特に必要がある場合、委員以外の専門的分野に関する学識経験者の指導及び助言を求めることができる。

（展示計画作成委員）

第4条 委員会は展示計画原案作成のため、委員のうちから6人の展示計画作成委員（以下「展示委員」という。）を選任する。

2 展示委員は次の任務を遂行する。

(1) 展示計画原案の作成

(2) 展示計画作成のための基礎的資料の収集

(3) 展示計画作成に関する専門的指導

（任 期）

第5条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（庶 務）

第6条 委員会の庶務は、福島県立博物館において処理する。

（その他）

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が定める。

附 則

この要綱は、昭和56年5月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正

福島県立博物館資料所在調査要領

1) 調査の目的

福島県内に散在する考古、歴史、民俗美術工芸等の資料について、その所在及び内容を把握し、県立博物館の活動のための基礎データを得ることを目的とする。

2) 調査の実施

(1) 調査員

イ) 調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から館長が委嘱する。

ロ) 委嘱期間は、4月1日から3月31日までの1年間とする。

(2) 調査の内容

資料の種類、形状、用途、数量、由来、時代、保存状況、所有者等について調査する。

(3) 調査の時期

4月1日から3月31日とする。

(4) 調査カードの作成・提出

調査員は、調査資料についてカードを作成し、福島県立博物館に提出する。

福島県立博物館資料調査員設置要綱

(設 置)

第1条 福島県立博物館の収集、展示、研究等に関する基礎データを得るため福島県立博物館資料調査員（以下「資料調査員」という。）を置く。

(選 任)

第2条 資料調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から、福島県立博物館館長（以下「館長」という。）が委嘱する。

(職 務)

第3条 資料調査員は、福島県内に散在する考古、歴史、民俗、美術工芸等の資料について、所在及び内容を調査し、その結果を館長に報告する。

(任 期)

第4条 資料調査員の任期は1年とする。

2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(補 足)

第5条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、昭和55年4月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正。

福島県立博物館友の会規約

(名 称)

第1条 本会の名称は、福島県立博物館友の会という。

(目 的)

第2条 本会は、博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は次の事業を行う。

- 1 広報活動
- 2 講演会・研修会等の開催
- 3 博物館に関連する事業への協力
- 4 図書等の斡旋等の事業
- 5 その他必要な事業

(会員及び会費)

第4条 会員の種類は次のとおりとし、会員には会員証を交付する。

- ① 個人会員 本会の目的に賛同し、年額2,000円を納めた個人。
- ② 家族会員 本会の目的に賛同し、年額3,000円を納めた生計を一にする家族。
- ③ 高校生会員 本会の趣旨に賛同し、年額500円を納めた高校生個人。
- ④ 賛助会員 本会の目的に賛同し、特に会の発展に協力するため、年間10,000円を納めた個人及び団体。

2 会員の期間は、入会の年4月1日から翌年の3月31日までの1年間とする。

3 会員が退会した場合であっても、既に納入した会費はこれを返還しない。

(会員の特典)

第5条 会員は次の特典を受けることができる。

- 1 博物館の展示を観覧する場合に、特別な便宜を受けることができる。
- 2 会報、博物館だより、博物館の各種催しの案内等の情報の提供を受けることができる。
- 3 会の事業に参加することができる。
- 4 会員が歴史や文化等の研究に際し、指導を受けることができる。

(役 員)

第6条 本会に次の役員を置く

会 長	1名
副 会 長	若干名
幹 事	若干名
監 事	2名

2 幹事のうち1名は、福島県立博物館学芸課長の職にある者を充てる。

(役員を選出及び任期)

第7条 役員は総会において選出し、任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

2 補欠のため任ぜられた役員の任期は、前任者の残任期間とする。

(役員職務)

第8条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。

3 幹事は、本会の会務を運営し、その実務に携わる。

4 監事は、本会の会計を監査する。

(会議)

第9条 総会は、毎年1回会長が招集し、事業計画、予算、決算、役員選任、その他重要事項をはかるものとする。

2 役員会は、必要のつど会長が招集する。

3 総会及び役員会の議長は、会長があたるものとする。

4 議事は、出席者の過半数により決する。

(顧問)

第10条 本会は、顧問をおくことができる。顧問は、役員会の承認を得て、会長が委嘱する。

(会計年度)

第11条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わるを原則とする。

2 本会の経費は、会費、寄付金、事業収入等をもってあてるものとする。

(事務局)

第12条 本会の事務を処理するための事務局を、福島県立博物館内に置くものとする。

2 本会の事務局員は会長が委嘱する。

(その他)

第13条 本規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項については、会長が別に定める。

附 則

1 この規約は、平成元年4月1日から施行する。

2 この規約は、平成3年4月1日から施行する。(第6条第2項関係)。

3 この規約は、平成5年4月1日から施行する。(第4条第1項②関係)。

4 この規約は、平成7年4月1日から施行する。(第11条第1項、第12条第1項関係)。

5 この規約は、平成8年4月1日から施行する。(第4条第1項③関係)。

6 この規約は、平成11年4月1日から施行する。(第6条第1項関係)。

VI 施設の概要

1. 建築概要

設計者	(株)佐藤武夫設計事務所	展示工事	1,257,500
工事監理	福島県会津若松建設事務所 (株)佐藤武夫設計事務所	外構工事	368,688
施工者	建築本体工事 福島県立博物館(本体)工事 清水建設(株)・会津土建(株)・秋山建設(株) 共同企業体 電気設備工事 福島県立博物館建設(電気設備)工事 六興電機(株)・吉田電工(株)共同企業体 空調設備工事 福島県立博物館建設(空調設備) 工事 新日本空調(株)・若松ガス工業(株)共同企業体 火災報知その他設備工事 福島県立博物館建設(火災報知その他設備)工事 (株)富士工業商会 給排水衛生設備工事 福島県立博物館建設(給排水衛生設備) 工事 (株)共立配管工業所 昇降機設備工事 福島県立博物館建設(昇降機設備)工事 ダイコー(株)	その他庁用備品等	201,739
面積	敷地面積 37,269.6㎡ 建築面積 10,986.23㎡ 延面積 11,071.44㎡ 1階 9,980.45㎡ 2階 1,090.99㎡	規模	地上2階
建築事業費	6,451,641千円 内訳 建物本体 4,623,714	最高の高さ	20.6m
		最高の軒高	13.6m
		地域地区	住居地域 風致地区第1種
		構造	主体構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 一部鉄骨造 基礎構造 場所打ちコンクリート杭
		外部仕上げ	屋根厚0.6硫化銅板 特殊一字葺 外壁 特焼磁器質タイル打込プレキャスト コンクリート版 建具 アルミ断熱サッシ電解着色仕上げ
		内部仕上げ	(エントランスホール・展示ロビー) 床 花崗岩ジェットバーナー仕上げ 壁 凝灰岩リブ付厚40m/m 天井 練付合板 クリアラッカー仕上げ (総合展示室) 床 カーペットタイル 壁 プラスターボード厚12m/m 天井 アルミ特殊ルーバー天井 (講堂) 床 カーペットタイル 壁 凝灰岩リブ付 天井 練付合板 アクリルラッカー仕上げ (第1収蔵庫) 床 プナフローリングボード厚12m/m 壁 杉板厚12m/m ヒブクラハギ張 天井 杉板厚12m/m 本実張
		工期	着工 昭和59年7月7日 完成 昭和61年3月25日

2. 設備

電気設備

- 電気設備 受電電圧3相3線式6.6KV50Hz変圧器容量(業務用)1575KVA(冬季用)400KVA
- 非常用電源 発電機3相3線式6.6KV50Hz400KVA蓄電池密閉型アルカリAH-P-E200AH86セル
- その他 電話設備、インターホン設備、TV共同視聴設備、自動火災報知器設備、防火戸等制御設備、ガス漏警報設備、非常用放送設備、ITV監視設備
- 視聴設備 TVカメラ、ビデオ調整卓、ビデオデッキ、音響総合ラック

空調設備

- 空調方式 各室ユニット型空調機 17系統ファンコイルユニット方式
- 熱源設備 ガス直焚冷水発生器(150RT)×2ガス焚鉄セクションボイラー(396.00kcal/H)水冷式チーリングユニット(120RT)

衛生設備

- 給水 市水道 受水槽:50㎡

- 消火設備 (屋内)スプリンクラーとハロン消火設備の併用、(屋外)野外消火栓

- ### 昇降機設備
- 油圧式エレベーター 定格荷重:3t1基
油圧式リフト 定格荷重:2t1基

- ### 融雪設備
- ロードヒーター・屋根ヒーター、陸屋根ヒーター・ドレンヒーター、外気温度地面温度・降雪感知器・乾地面温度・湿地面温度センサーの組み合わせにより自動運転または手動運転。

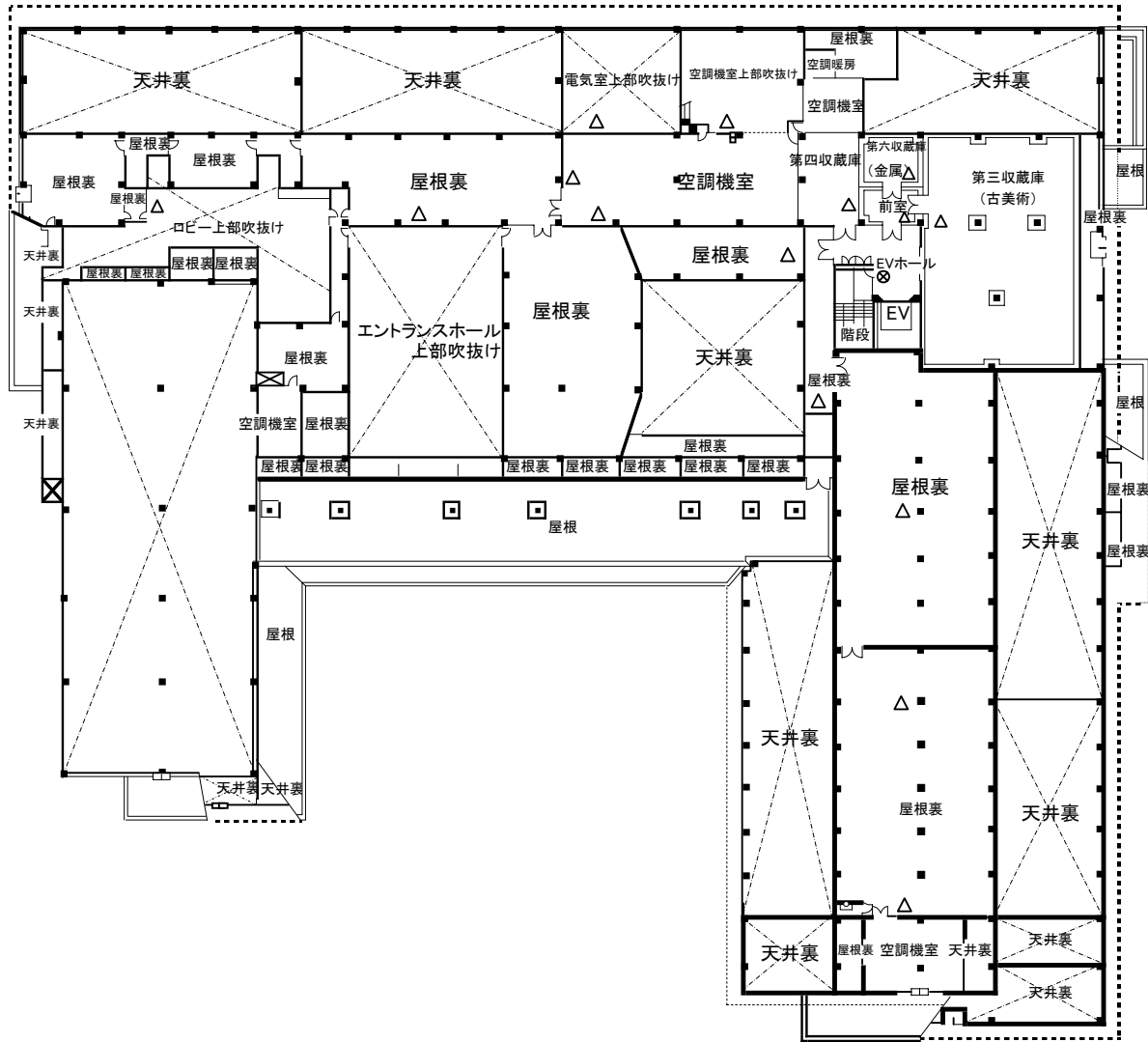
- ### 監視設備
- 分散形総合監視制御システムにより、受電設備・防災設備・熱源設備・空調設備・融雪設備・庭園設備等を遠方発停制御及び計測監視を行う。

- ### 電話設備
- 電子交換外線3回線内線64回線

- ### 火災報知設備
- 受信盤P型1級60回線(自火報)33回線(防排煙設備)、煙感知機274箇所、熱感知機93箇所、排煙区画8系統、平面地盤(照光式)により表示

- ### 防犯設備
- 電波センサー・電子サイン・ITVを必要箇所に設置し、監視制御システムと併用

2 階平面図



各室面積表

室名	面積(㎡)	備考	室名	面積(㎡)	備考
収蔵スペース	2,294.8 (㎡)		応接室	36.5	
荷受場	90.5		第1会議室	34.8	
荷解場	164.5		第2会議室	70.7	
荷受人控室	25.1		更衣室	13.2	
一時収蔵庫	30.4		湯沸室	5.0	
燻蒸室	30.7		印刷室	16.2	
工作室	39.6		救護室	13.2	
写真室	57.0	スタジオと暗室	警備員室	30.0	
第1収蔵庫	614.2	歴史・民俗	宿直室	25.1	
第2収蔵庫	617.7	考古・地質	倉庫A	29.4	
第3収蔵庫	393.6	古美術	倉庫B	43.6	収集用(1)
第4収蔵庫	75.6	剥製・植物標本	車庫	55.8	
第5収蔵庫	104.9	液浸	展示準備室(1)(2)	31.7	総合展示室用
第6収蔵庫	51.5	金属	展示準備室(3)(4)	71.1	部門・企画・収蔵資料用
研究スペース	788.3 (㎡)		機械スペース	1,253.1 (㎡)	
研究室	238.4		空調機室1F	393.2	
自然作業室	37.6		空調機室2F	479.4	
保存科学室	77.2		電気室	132.5	
考古作業室	72.3		中央監視室	52.8	
薬品庫	8.8		発電気室	50.2	
図書室	300.0		バッテリー室	14.4	
情報処理室	54.0		受水槽室	66.7	
展示スペース	2,815.1 (㎡)		ハロンボンベ室	31.7	
総合展示室	1,536.9		E V 機械室	17.1	
部門展示室	585.8		電話交換機室	6.3	
企画展示室	484.1		V T R 機械室	8.8	
収蔵資料展示室	208.3		サービス・共用スペース	2,507.54 (㎡)	
教育普及スペース	693.1 (㎡)		エントランス・ホール	461.1	
講堂	257.8		レストラン	83.7	厨房含む
講堂倉庫	15.0		売店・相談コーナー	73.3	ロッカー含む
体験学習室	173.5		便所(展示)	32.6	
視聴覚室	65.6		便所(中央)	68.8	
効果室	32.1		便所(管理)	31.3	
実習室	128.3		展示ロビー	513.8	ビデオブース・ワークショップを含む
実習準備室	20.8		レストコーナー	40.3	
管理スペース	719.5 (㎡)		その他	1202.64	
事務室	166.1		計	11071.44	
館長室	45.6				
副館長室	31.5				

4. 施設の修理・改築

- 平成7年8月9日 消防施設整備工事（スプリンクラー設備修繕）（～10.31）
- 平成8年10月1日 博物館地域福祉推進特別対策事業（誘導表示等設置 段差解消スロープ 車椅子駐車場2台分）（～9.3.19）
- 平成12年10月27日 給水ポンプ取替工事（～13.1.9）
- 平成14年9月12日 博物館東・北面外壁タイル補修工事（～12.16）
- 平成15年9月19日 非常用蓄電池取替工事（～11.20）
- 10月21日 吸収冷温水機真空部取替工事（～16.1.8）
- 平成16年10月5日 屋根補修工事（～12.17）
- 12月21日 吸収冷温水機真空部取替他工事（～17.3.18）
- 平成17年7月22日 屋根補修工事（～10.4）
- 平成18年1月6日 熱源コントローラー交換工事（～18.3.17）
- スプリンクラーヘッド交換工事（～18.3.17）
- 平成19年1月5日 スプリンクラー設備修繕工事（～19.3.23）

VII 利用案内

●開館時間

午前 9 時 30 分～午後 5 時（最終入館は午後 4 時 30 分まで）

●休館日

◎毎週月曜日（祝祭日にあたる場合は開館）

◎祝祭日の翌日（土・日・祝祭日にあたる場合は開館）

◎年未年始（12月28日～1月4日）

◎その他、館内くん蒸などのために臨時に休館することがあります。

●観覧料

◎常設展（ ）内は、団体20人以上の料金

一般・大学生260円（210円）高校生以下は無料

◎企画展 そのつど定めます。

★学校の引率者、大学の教育活動、公民館等の団体は申請により減免措置を受けることができます。（常設展のみ）

★身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は無料

また1種（精神障害者保健福祉手帳にあっては1級）の認定を受けている方に限り、介護者1名が無料。

★知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証を交付されている方は無料。（常設展のみ）

★展示室以外の入館は無料。

●常設展無料開放日

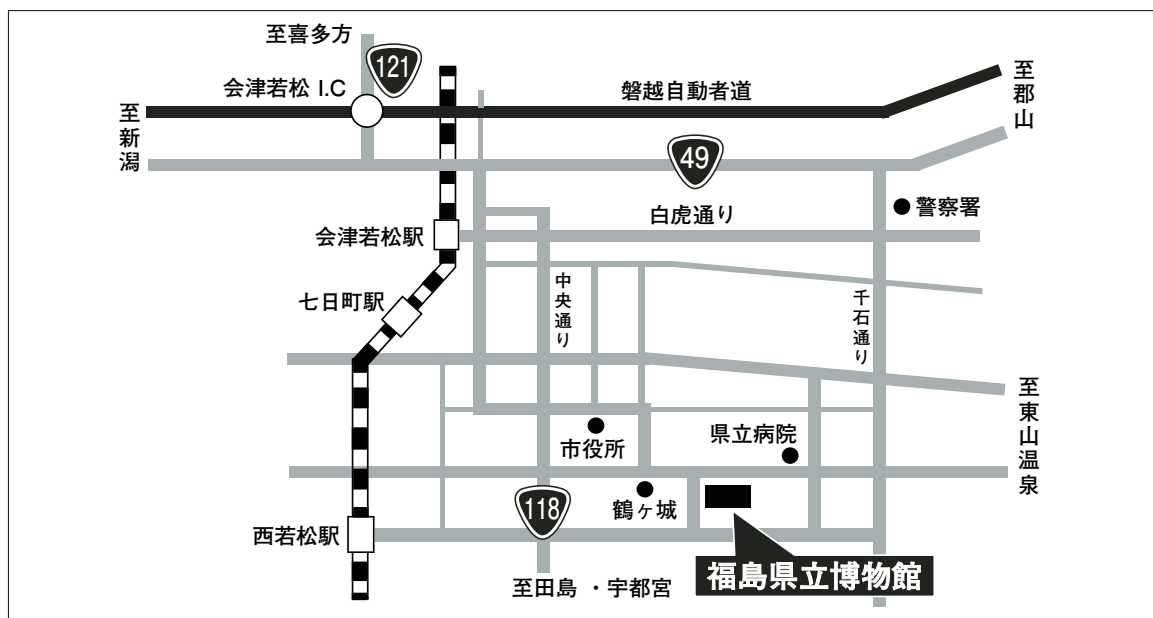
5月5日（子供の日）／9月第3月曜日（敬老の日）／11月3日（文化の日）

8月21日（県民の日）

●企画展無料開放日（高校生以下のみ）

11月1日～11月5日（ふくしま教育週間）※18年度用：通常は、11 / 1～11 / 7

●交通案内



◎会津若松駅より約 3 km

◎市内バス利用の場合

①市内 1 コース 県立病院前下車徒歩 5 分

②鶴ヶ城経由飯盛山行又は飯盛山経由鶴ヶ城行 巡回バス県立博物館前下車徒歩 3 分

③まちなか周遊バス「ハイカラさん」鶴ヶ城三ノ丸口下車徒歩 1 分

●体の不自由な方へ スロープ・専用トイレなどを備えたほか、車いすも用意しています。

●講座・講演など 博物館では講演会・実技講座・実演などを行っています。

福島県立博物館年報 第21号

平成19年10月5日 印刷

平成19年10月5日 発行

編集・発行 福島県立博物館

〒965-0807 会津若松市城東町1-25

TEL (0242) 28-6000


FAX (0242) 28-5986

<http://www.general-museum.fks.ed.jp/>

印刷 株式会社 アポロ

〒965-0044 会津若松市七日町14-7

TEL (0242) 22-5139

 この年報の本文は再生紙を使用しています。

福島県立博物館

〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25 TEL0242(28)6000